672.221
0592k
M

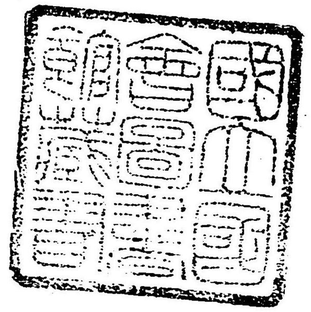
元天津領事官補 奥田竹松著

北清之商業

東京

博文館藏版

672.221
Q592h



33842

序

吾は單に商工業のみを以て日本國の基礎なりとまでに獨斷的斷定を爲すものにあらずと雖も、其の立國の基礎の重要なるものゝ一なりと信して過りなきを思ふ。清國は我が商工業より視たる好對手國たるなり。地濶く民衆き清國は我が商工業者の好得意場たるなり。北清の地風氣未だ多く啓發に就かず、民度未だ甚だ高からずと雖も、地域五十二萬方哩に延び、生民亦一億二千萬人の多きに及び、今日に於ても猶ほ數億圓の內外貨物は年々此の地方に集散し居れるなり。今後此の地方に於ける交通の擴展、人文の開發、民度の向上、產業の發達に隨伴して、貿易額の增進すべきは疑ふまでもなき所なり。吾の曩に天津に官遊するもの四年有半、此の間每に多大なる感興を以て、此の地方の商業に關

する各般の事項を覆査し、多少會得し得たりと思惟するものあり。這次小閑を得たるに乘じ、此の小冊子を刊行したるは、庶幾くは依りて以て我が商工業者をして北淸の商業なるもの、概念を作らしめんと期し居るに過ぎず。而して題して北淸の商業といふ。名の徒らに大にして、實の之に伴はざるべきを病むなり。

本書刊行に至るまでには天津大倉洋行の淸水章三郎、中根齊の兩君橫濱正金銀行天津支店の松本茂君、並に同地巡警總局の原田俊三郎君等を煩はしたること甚だ多ほし。茲に錄して其の勞を謝す

明治四十年七月二十九日東京某旅館に於て

奧田竹松識

北淸の商業目次

第一章　北淸概誌……一
　北淸なるもの、區域——廣袤人口——地勢地味の概略
　——雨量——氣候
第二章　交通の狀態……五
　道路——河流——海河——太沽沙灘——鐵道
第三章　產業の狀態……一三
　工業——農業——牧畜業——鑛業——獸產品——炭鑛業
　——開平炭
第四章　南北淸の相違せる點……一九
　南北淸の地理的の差異——地理的差異より惹起された
　る人文、風氣、性情產業上の差異
第五章　北淸貿易論……二四

第一節　總說……二四
天津は北清唯一の貿易港なり——北清貿易は輸出入俱に大不平均なり——貨物輸入比較表
第二節　天津港貿易の近況……三〇
第一款　總論……三〇
第二款　輸入貨物を論ず……三三
第三款　輸出貨物を論ず……四三
第六章　天津の航運業……四九
第一節　航運會社並に航路……四九
第二節　出入船舶……五二
第七章　天津通商區域の消長……五六
北清は生産地にあらずして、大消費地なり——外國貨物の消費價額並に地方別——內國產貨物の輸出價額並に地方別——天津港に對する敵手——奠口——青島——秦皇島——大連——天津の商業區域は他方面に擴展すべし
第八章　天津より北清內地に通ずる商路……六三
商路の變遷——最近十年間の太沽沖結氷期——諸水路に於ける民船の種類並に隻數——各商路に由りて運ばれたる貨物の割合
第九章　天津畧誌……六九
天津——諸外國居留地——各居留地の面積——天津の戶口——諸外國人の人口——天津に於ける日本人社會の概況
第十章　天津の金融機關……八〇
外國銀行——官設銀行——民設銀行
第十一章　貨幣……八四
第十二章　爲替相場並に其の動搖の爲に受くへき危險の豫防方法……八六

第十三章　商取引……八九
第一節　取引季節……八九
第二節　取引勘定の事……九一
第三節　賣掛代金の滯滯し勝なる理由……九四
第四節　損失懸仆れ塡補基金……九八
第十四章　買辨……一〇〇
第十五章　清國人の好惡を論す……一〇二
第一節　圖樣繪畫……一〇三
第二節　文字……一〇八
第三節　色彩……一〇九
第四節　衣服……一一一
第五節　雜件……一一三
第十六章　商品に關する注意數則……一一五

第十七章　貨物の荷造、詰合せ方等に關する注意……一二三
第十八章　重要なる北清向本邦貨物……一二五

附錄

第一　北清商人を論す……一四五
第二　天津に於ける外國商人……一五二
第三　清國人を論ず……一五六
第一節　支那人は個人本位の民なり……一五七
第二節　團結力薄固なり……一五九
第三節　組織的能力に乏し……一六〇
第四節　自尊心強し……一六二
第五節　利慾の念のみ盛なり……一六四

目次

第六節　時間と勞力の實價を知らず……一六六
第七節　事物の改良修正を肯せず……一六七
第八節　現在主義なり……一六八
第九節　經濟的見地より觀れば強き人民なり……一六九
第十節　雜件……一七一
第四　吾の觀たる滿州……一七六
第一　滿州の富源は其農產物に在り……一七六
第二　露國經營時代と日本の經營時代との間には情勢根本的に相異れり……一七八
第三　營口の任務……一八二
第四　營口の弱點（其一）―遼河の現狀……一八三
第五　營口の弱點（其二）―港灣の不完備……一八六
第六　今後の情勢……一八八
第七　附言……一八九、

終

北清の商業

奧田竹松著

第一章　北清概誌

北清なるものの區域

北清といひ、南清といふも實は漫然たる俗稱にして何等格段なる標的ありて之を分劃せるには非らず。清國人の通常呼び慣れたるは東西南北の四大部なり。即ち

東三省……奉天、吉林、黑龍江
北五省……直隸、山東、河南、山西、陝西
西二省……甘肅、新疆

南十二省……（湖南、湖北、江西、江蘇、浙江、安徽、福建、四川、廣東、廣西、雲南、貴州）

但し此の區分は支那本部及び滿洲を包括せるものにして、內外蒙古、青海及び西藏は與らず。

序ながら附言し置きたきは、世間往々新疆と伊犁とを別物視すること是なり。伊犁に新疆省を置き、甘肅巡撫之を兼轄し、別に伊犁將軍あり、伊犁府に在りて軍政を行ひ居るなり。伊犁以外に新疆なく、又新疆以外に伊犁なく、二者同一地域なり

予の玆に北清と稱するは右の北五省の地に、甘、肅を加へたるものなり、別段の理由あるにあらず、南方の揚子江流域に對して、黃河流域の全部を擧げたるに過ぎざるなり。

此の六省の廣袤人口を擧ぐれば

省名	面積（方哩）	人口
直隸	一一五、八〇〇	二〇、九三七、〇〇〇
山西	八一、八三〇	一二、二〇〇、四五六
山東	五五、九七〇	三八、二四七、九〇〇
陝西	七五、二七〇	八、四五〇、一八二
甘肅	一二五、四五〇	一〇、三八五、三七六
河南	六七、九四〇	三五、三一六、八〇〇
合計	五二二、二六〇	一三五、五三八、七一四

面積は五十二萬二千二百六十方哩にして我日本の三倍半に當り人口は一億二千五百五十三萬八千七百十四人にして實に我か二倍半なり

地勢は西の半部即ち甘肅、陝西、山西は崑崙山脈の餘波を受けて一帶の高臺を形成し、東半部即ち直隸、河南、山東は漠々たる大平野なり。高臺地方は地味皵确不毛にして農產上の價値殆ど皆無なり。黃河及び其の支流は總て此の西部の臺地に發源し東南流して大平原に入るなり。

平原地方は總てかの有名なる黃土層を以て覆はれ居るものにして、北支那平野

雨量

氣候

の特徴とする所なり。黄土層の土壌は雨濕を得れば容易に泥濘となり、乾燥すれば直に繊細煙霧の如き黄塵となりて濛々天を掩ふものなり。且つ農作上より視れば地力乏しく、保育力弱く、加之海岸に近つくに從ひ一帯の地方は土壌鹽分を含み居れるが故に、農業上の價値皆無なり。

年間を通して雨量甚だ少く、本邦に見る所の春雨梅雨等の如きものなく、唯だ七八月の夏雨季なるものあり。降るや細雨の霏々たるにあらず、豪雨の沛然たるを常とす。冬季と雖も降雪量亦比較的少し從つて空氣は毎に乾燥せり。氣候は高臺地方は勿論、平原地方と雖も、所謂大陸的中の大陸的なるものにして、寒暑雨ら極めて峻烈、一ヶ年中冬夏とも五ヶ月の永きに亘り、冬は嚴寒骨を劈き、夏は太陽の熱射峻酷にして殆ど炎熱に堪えざるなり

此の如く北清地方は概して地力甚だ乏しく、雨量少く、灌漑の便なく、加ふるに氣候極めて峻烈なるか故に、五十二萬方哩、一億二千萬の大地域、大人口を包擁しながら清國産業上に貢献する所寡少なるを得ざるなり。

交通の狀態

道路は極めて粗惡

重なる商路

第二章　交通の狀態

第一　道路

道路は概ね粗造なるものにして、多くは道なき所に強ゐて道を附けたるもの、道形もなき原中に車馬が行れるものなれば、崎嶇凸凹甚だしく、車行の艱める箇所頗る多く、甚だしきは往々にして空川（川筋）を道路として使用し居れるが故に、年々雨季に入れば、道路は忽ち河川となりて水流を通じ、車馬人行、爲に全く絶止するもの多し。特に奥地深く入るに於ては、纔かに人行を通するに過ぎさる箇所多し。車を通ぜざる所は馬背に由り、又蒙古地に入れば、駱駝として駱駝を使用するの要あるなり。要するに近世の意味に於ける道路なしといふも過評にあらず。此地方に於て重要なる商路として視るべきは、

（ア）　天津より西南方に向ひて直隷各地を貫き、河南省河南府（昔の洛陽）に至り、更に之より陝西の潼關、西安（昔の長安）を經て甘肅の蘭州地方に到るもの、

（イ）　天津より北京、正定に出て、之より山西の太原を經て潼關、西安、蘭州に到る

もの、

(ウ) 天津より北京を經て張家口に出て、之より更に道三條に分かれ

(一) 北西方、庫倫（クーロン）、恰克圖（キヤクタ）に到るもの、

(二) 西方歸化城に到り、之より西北に向ひて遂に烏里雅蘇臺（ウリアスタイ）に到るもの、

(エ) 天津、山海關より遼西に出て新民屯を經て、一方は東方奉天に到り、一方は北方法庫門方面に到るもの

(オ) 北京より喜峰口を經て長城外に出で、東部蒙古を貫きて齊々哈爾に到るもの、

第二　河流

北清地方は概して河流に乏しく、交通は從來主として車馬に依りて行はれ、所謂「南船北馬」と稱せられたるものなり。重なる河流は左の三河流なり。

(一) 黄河は唯々清國に於ける二大河流の一たるに止まらず、世界六大河の一にして、遠く水源を崑崙山彙の中に發し、甘肅、蒙古、陝西、山西を經て河南に入り、直隷の境界近くを東流して山東を貫通せる大河流なり。全長實に六千哩

河流は乏し

(一)黄河

(二)潔河

(三)白河

に延び居れるも、河流としての價値甚だ乏しく、獨り灌漑舟楫の利便なきのみならず、甚危險有害なる河流にして、上古禹の時代以來毎に支那の大厄介物なり、人をして「楊子江に得る處は之を黄河に失ふ」と謂はしめたる者なり。

(二) 潔河は水源を蒙古地に發し多倫諾爾の附近を迂曲し熱河を經、長城を貫き、濼州樂亭縣を經て渤海に入る。東内蒙古、直隷東北部に於ける要用なる交通路なり。

(三) 白河は直隷に於ける最も重要なる水路にして、目下各鐵道と共に緊要なる商路たるものなり四箇の水流より成れり。

(イ) 南運河（大運河、御河、玉河の別稱あり）、天津より遠く南方鎮江に達すべき大運河にして、現下水路荒敗、處々に梗塞せる處ありと雖も、南の方山東、河南に通ずる要用なる水路なり。天津より山東省德州に到る間は河幅三十五間乃至九十間、水深五尺乃至九尺を有し、早魃時と雖も尚ほ四尺の水深あり、以て優に民船、淺吃水の小蒸汽を通航するを得べし。

(ロ) 北運河（北河即ち白河の本流）の水源は遠く蒙古地に在り。天津通州間は

人工を以て之を開鑿せしものなるが故に、北運河とは稱するなり。京津線開通以前は京津間の交通は專ら此の河流に由りたるものなり、目下と雖も沿道一帶の農地と天津間の交通は猶ほ依前盛なり

(ハ) 金鐘河(東河、東運河)、七里海に由りて蘆臺河に通ず、蘆臺河盂一帶の地方と天津との交通は此水路に由れるものなり。

(ニ) 子牙河(西河、西運河)、北洋の大商埠たる天津と、直隷の首府たる保定府とは此の河流に由り連絡せるなり。亦重要なる商路なり。

以上の內北運河、東河西河の三河流は天津の東北端に於て合流し、天津市中に流入し、三岔口に至りて南運河に合す。之より下流五十哩、河口太沽に至る間を海河と稱するなり。

海河(通稱白河)は天津と外洋とを連絡せる水路にして、天津が開港地としての生命を有せるは專ら之あるが爲なり。十餘年前迄は深吃水の汽船を航行せしめ得たりしも、爾來河身の淤積年を逐ふて甚たしく、且つ由來河道の迂曲極めて多きか故に、數年前より各利害關係者に於て、海河改修會を組織し絶えず河道の改良

浚渫を實行し大迂曲の箇所三ヶ所を開鑿したる爲め、航程に於て十哩、航行時間に於て著しき短縮を見るに至れり。

然れども、河口太沽沖合數哩の地點に於て幅員數哩に擴展せる大沙灘(バア)の横はり居れるものあるが故に、大形汽船は沙灘の外側に假泊し、別に小蒸汽艀船を以て其の荷客の乘降揚卸を行はざるを得ず、唯だ淺吃水(九呎半以下)の汽船のみ、滿潮時を以て沙灘を超えて海河に遡航し天津紫竹林(紫竹林は英佛獨租界の總稱なり)に到るを得るなり。

是れ各航運業者、各商業者の常に憂患とせる所なり。此の憂患を除かんが爲に各般の利害關係者(天津海關道、天津稅關長、各居留地、各航運業者)が多年考覈研究の結果、終に今春に至りて一定の成案を議定し、工事費四十五萬兩、毎年の維持費約八萬兩の財源を作り、滿潮時水深十二呎幅五百呎の澪路を沙灘上に開鑿するに決したるを以て遠からざる將來に於て太沽港外の大障碍は夐除さるゝに至らん。

第三　鐵道

北淸地方に於ける既設鐵道左の如し

(甲) 關內外鐵道(京奉鐵道)は左記の諸線路より成る

(イ) 京津線(北京天津間)……八七、哩

(ロ) 津榆線(天津山海關間)……一七四、

(ハ) 京通線(北京通州間)……一四、

(ニ) 榆營線(山海關營口間)……二一〇、

(ホ) 新民屯線(溝幫子新民屯間)……六九、

(ヘ) 新奉線(新民屯奉天間)……二七、

合計……五八一、

(乙) 京漢鐵道(北京漢口間)……七五四、

(丙) 西陵鐵道……二七、

甲 關內外鐵道

關內外鐵道は官業なり天津の關內外鐵道總局に於て之を總轄す線路は北京を起點となし、豐臺に於て通州支線を出たし、天津、塘沽、山海關を經て直通營口に到

るものと遼西なる溝幫子驛より分岐して新民屯に到り、更に之より奉天に達するものより成れり。全長五百八十一哩、全部單線、軌隔は四呎八吋半の標準軌隔なり、目下北京山海關間幷に山海關營口間、山海關溝幫子間上下各一回の急行列車を運轉し居れり。而して新奉線は此程日本より讓受けたるものなるが、目下北京奉天間に直通列車運轉の計畫あり。

乙 京漢鐵道

元と蘆漢鐵道と稱せしものゝ、改稱なり。北京より起り保定、正定、順德を經、河南の平原を貫きて漢口に到るもの、全長七百二十五哩、全部單線、軌隔は關內外鐵道と同樣、四呎八吋半の標準軌道なり。本鐵道の資本總額四千萬兩、就中千三百萬兩は淸國政府の出資、二千七百萬兩は白耳義、シンヂゲート」の出資なれば、名は淸國の官業なりと雖も、實は佛白兩國の共同事業なり、鐵道職員は專ら白佛兩國人に限れるなり。

本鐵道にては普通列車は每日兩極端驛より發車し居れるも、夜間は運轉を休止するが故に運轉時間實に三日を要す。尤も昨年四月以降、一週一回急行列車を運

轉する事となりたる爲め、三十六時四十五分を以て北京漢口間を旅行し得べし。

四陵鐵道

丙　西陵鐵道

西陵鐵道は清國皇室の西陵參詣の爲に、京漢鐵道の高碑驛より西陵所在地なる良谷庄(易州に到るもの、全長二十七哩亦官業なり。

工事中の鐵道左の如し

京張鐵道

丁　京張鐵道

京張鐵道は北京より南口、居庸關を經て張家口に達する百二十三哩の鐵道にして、資本技術とも專ら清國人の措辦に係るもの、昨年九月を以て北京南口間三十四哩を布設し、目下列車を運轉し居れり。全部完成は尚ほ一兩年を要すべし、完成の上は蒙古、陝甘山西地方の畜產物は輕易なる出口を得べく、從つて此の方面の面目多少の改變を視るなるべし。

正太鐵道

戊　正太鐵道

正太鐵道は直隸の正定府より起り山西の首府太原府に到る百六十六哩の線路なり。露清銀行の出資に係るものなれば、實權は同銀行關係者の手に落つべし。難工事なるには相違なきも、目下大部分を完成し得たりと傳へらる、貫通の上は山西の富源は茲に始めて有力なる出口を得て、產業上の面目を改め、風氣好尚の向上を見ること著しきものあるべし。

尚ほ農牧時代に在り

第三章　產業の狀態

工業

產業上より視れば、北清は尚ほ農牧の時代に在り、河南、直隸南部及び山東は農業を主とし、直隸北部、山西、陝西、甘肅は農牧混合の狀態なり。工藝に至りては歷代の王朝多く之を奬勵せず、陶器、織物、建築、彫刻、繪畫等其古へに在りては多少の發達之なきにあらざりしも、清朝に入りてより、儉素を以て相戒め、堅く奢侈を抑制したるを以て、自然工業の發達を阻礙し、前朝以前に比しては大に退歩の跡あるのみならず、此等の美術工藝と雖も、多くは中部幷に南部地方の製作に係り北清は蓋し之に與からざりしなり。

北清地方の工藝品として擧ぐべきは北京の景泰磁、京東各村莊の造酒、順德地方の草帽、磁州の缸磁、直隸山東の土布、天津の絨氈、易州の絹、那臺の綢、安平の羅、饒陽

農業

宣化の綢等なるべし。

農牧業と雖も氣候不適順なるが上に、土壤は所謂黃土層なれば固より良好なる農牧地なりと謂ふを得ず、耕作物の重なるものは高粱、小麥、大麥、粟、大豆、蕎麥、玉蜀黍、穀、稗、煙草、蔬菜、麻、棉花等なり。左れど此等は概ね地方限りに於て消費し盡くし、他に輸出し得る餘裕あるにあらず。

農產物中麻、麥稈、眞田、綿は重なる輸出品なり

山東の地味蔬菜の栽培に適し、年々多額の蔬菜を他地方に輸出す。又麥稈眞田、麻、棉花は北清地方に於ける重要輸出品中に加ふべきものにして、麥稈眞田は歐米諸國に仕向けられて帽子の資料となるなり、昨三十九年中の輸出額麥稈眞田は百二十二萬八千兩、棉花二十一萬二千兩、麻五十五萬六千兩なり。

牧畜業

牧畜業は簡易幼稚にして殆ど規律ある方法を以て飼養するにあらず。牛は河南及び南直隸地方に產し、馬は北清一帶より產出すと雖も、北部特に長城以北の地最も多く之を產出す。此外家鷄、豚は各農家は副業として必ず多少之を飼養せざるはなし。

羊、山羊は域內一帶の地方に產殖せりと雖も、北部特に長城外最も多し、皆山野に

放牧するものにして、其の費用の如きも甚だ些少なり。又甘肅陝西地方は氣候地味遊牧に適し、羊、駱駝の畜殖盛なり。

北清產業の重なるもの

北清の產業として語るべきもの三あり、曰く製鹽業、曰く羊毛、獸產品の產出、曰く石炭の採掘是なり

鹽業

(イ) 製鹽業

鹽業は古來淸國政府の專賣事業にして有力なる財源の一なり。鹽の產地は悉く之を官有となし、官に於て製鹽し、特許商人をして之を賣捌かしむ。

長蘆鹽とは直隸鹽の謂なり、全國各鹽場の製鹽中最も良好なるものにして、製鹽の區域甚だ廣く、北は灤河河口より南は太淸河口(黃河の新河口)に至る數十里に亘れる濱海一帶、幅員四五里乃至十里の地は總べて製鹽に適せるなり。就中蘆臺、北塘、塘沽、太沽より南して滄州に至る一帶の地は最も適好なる產鹽地なり、皆風力と日光とを利用して製鹽するものにして生產費極めて低廉なり。

獸產品

(ロ) 羊毛、獸產品の產出

羊毛山羊皮其他の皮革類は最も重要なる產物なり。生產地は蒙古、山西、陝西、甘肅

羊毛

等の各地方にして張家口を以て中心市場となす

羊毛は西蒙古(庫倫、恰克圖等)より來るもの最も多く、東蒙古(多倫諾爾、哈達、熱河)及び西路甘肅の寧夏、甘州、涼州、蘭州等)より來るもの之に次ぐ、一ケ年の産額平均二百萬斤なり、皆張家口より之に集り、之より天津に轉送らるゝなり。

毛皮類

西路産の羊毛は品質最も優良にして光澤多く堅靭なり、其他の方面より産出するものは西路産に比して品質劣り、毛は黒色を帶びて緊接力に乏し。

毛、皮類の原産地は東蒙古、西蒙古及び山西陝西甘肅地方なり、東蒙古よりは細毛皮(貂皮、狐皮、狼皮)を、西蒙古よりは牛皮、駱駝皮、水獺皮を、而して西部地方よりは羊皮山羊皮、馬牛皮を産出す

癈骨

右の外、馬毛、牛尾、豚毛、駱駝毛の産出亦甚だ尠からず

癈骨(レッヘースボーン)は主として肥料として本邦に輸出し、上等の骨粉は砂糖の精漉料として多く英國に輸出せらる、骨の種類より見れば、牛骨は山東より、豚骨は天津より、羊骨は北京より來る、分量より視れば羊骨六分、牛骨と豚骨とは二分宛の割合なり、

癈骨は廉價重量品なるが故に、目下海外に發售せられ居るは運輸費の嵩まざる

天津附近の地方産のものに止まり、未だ深く奥地よりは輸出せられ居らず、一ケ年の輸出額千萬斤以内に止まれり

(三)　炭礦業

炭礦業

山西の礦山

北清地方は一體に礦産に富めり、就中山西は全省礦産の埋藏地と稱すべきものにして、特に炭礦に富めり、其の伏在面積九萬方哩、百二十三億噸の巨額を埋藏し、以て二百年を支へ得べしと傳へらるゝなり、左れど目下の處は極めて幼稚なる方法を以て土人の最寄々々に於て採堀するに過ぎず、此外石油礦、鐵礦、山鹽、銀礦亦甚だ尠からずといふ、顧ふに他日鐵道を此地方に貫通せしめ、新式の採堀法に由りて組織的に經營するに至らば、山西省無限の富源は茲に始めて有力なる發售の途を得從つて北清産業上の面目大に改まるものあるべし、

開平唐山炭開平礦務局

直隷省内の各地、河南の北部に於ても亦所々に炭礦ありと雖も、多くは幼稚姑息なる方法に由れるものなれば僅に最寄々々の需要に充つるに過ぎざるなり、獨り、唐山、開平の炭礦に至りては開平礦務局なるものありて之を採堀經營し、年々巨額の産出あり、會社は英國白耳義及清國合同の事業にして、資本金百萬磅本店

採掘高

は倫敦に在り首腦の地位は英國人の占むる所なり。

昨三十九年中の採堀高は九十五萬八千六百七十五噸にして就中關內外鐵道、京張及び京漢鐵道の一部に對する發賣高十三萬六千七十七噸、汽船用四萬八千三百二十噸、天津及び附近地方の消費高二十萬千百五十五噸、鐵道便にて滿州に入りしもの四萬三千百八十四噸、礦地幷に鐵道沿路各地に賣出せしもの三十萬二千八百八十二噸、汽船便にて上海鎭江、漢口に輸送せしもの十萬二千六百十五噸、而して北部地方即芝罘、牛莊、青島等に發賣せしもの五萬千百九十八噸にして、採堀高の殆と全部は此の如くして發賣し盡され居るなり。

唐山炭の成分

數年前より開平礦務局にては屢次採堀高を增加するの計劃を立てたりしも採堀費の嵩める爲めに遂に成功を見ること能はず、今後とも現狀以上の採堀增加之なかるべし。

唐山炭分析表左の如し

	揮發分	炭分	灰
一號炭	一、一〇	三三、一五	五八、八五
二號炭	一、五〇	三四、一〇	五六、七〇
三號炭	一、六五	三〇、五五	五四、〇八

水分 七、七〇

一八

南北清の地理的の差異

地理的差異より惹起せられたる人文

第四章　南北清の相異せる點

南部支那は岡陵山岳起伏層疊し、大河流大湖水等參差錯落して極めて自然の變化に富み、且つ多濕多雨、樹林鬱茂濃綠毎に滴んとし、氣候は寒暄宜しきを得、地は肥え民は富めり之に反して北部支那は漠々たる平野高原千里相連り、寸闊枯淡にして自然の變化に乏しく、降雨極めて稀に空氣乾燥し、氣候は寒暑兩ら甚だ峻烈、夏は酷熱燬くが如く、冬は嚴寒肌を劈き地味饒腴不毛の個所多く樹木極めて僅少、河流亦稀なり。

此等地理氣候風土等の根本的差異の爲に惹き起さるべき南北支那の人事及び產業上の影響幷に相異の點を列擧すれば概ね左の如くなるべし

(一)　南方は河湖水流縱橫し交通自在なれば人文の發達、風氣の啓發に便なるも、北方は之に反して交通不便なるが故に人文發達の程度低く且つ甚だ遲

れ居れり。

(二) 南方は地力に富み、氣候溫暖、降雨多く、灌漑の便多きが故に、各種の農作物は多く勞せずして得る所多し。然るに北方は降雨多く地味不毛氣候亦峻烈なるを以て農民多く勞して得る所甚だ僅少なり。南方の民度高く趣味好尙、高きに反し、北方の住民は生活の程度低く、趣味好尙低きを免れず

(三) 南方は氣候寒暄宜しきを得たると、樹木竹材等の供給豊富なる爲め、清快なる家屋を造りて之に居住し、北方は寒暑共に峻烈且つ長期に亘れると、木竹に乏しきが故に、粗製煉瓦作りの暗瞻たる家屋を營造して之に居住し、日光通氣兩ら惡しく、而して陝西、山西、河南等以下の內地深く入れば、住民多くは堀立て小屋の半穴居的家屋に居住せるなり。從つて南方にては自然快活淡洒なる性格の人民を作り、北方にては兎角に陰鬱重厚なる民を作るに至るなり。

(四) 山水淸明の境に在るものは潔癖を生じ、混濁なる山野に住める民は不潔を歷はず。勞少くして得る所多ければ、南方は寬裕閑雅、膺揚なる性格を養ふ

べく、勞多くして得る所少なければ北方は堅忍儉勤質實なる性格を作るに至る。一は洒落淸楚にして高潔の材を養ひ、一は豪邁雄渾の士を作るべし。一は天然の變化萬狀なる爲に細密精緻の資質を涵養すべきも、一は坦々たる平野千里に亘り、四邊の風物單調枯淡なるが故に廣遠宏壯なる氣魄を養ふに至るべく、一は敏捷利巧の氣風を作り、一は輦健沈重の民を作るの傾向を生ず。

(五) 自然界の爲に愛せらるゝこと多き南方の民は、動もすれば遊惰放逸驕奢に流れ易く、自然の惠德を享くること少き北方の民は、動もすれば卑屈固陋にして又吝嗇に陷り易し。一は淘達豪放、一は陰鬱質樸。一方は意氣に粹にして、一方は野暮に重厚且つ實利實行的となり、一は輕佻浮薄にして移り易く進步改善に就き易く、一は頑冥保守にして移り難く進步改善に向ひ難し。一は天に甘え天に馴染みて自然樂天となり、一は天を畏れて意を度り、迷信を深ふし諸ろの天變地異悉く天爲に出づとなすに至るべきなり。

右の如く南北兩地方は各般の點に於て著しく相違せるが故に、此等地方に仕向

くべき商品の製造方に就ても又商取引するに就ても、自然相異れる方針と方法とを採るの必要あるなり。

(一) 北方は風氣未だ開けず、住民生活の程度低きが故に、大體に於て南清向きと北清向きの物とは商品の品質に就て高下優劣の差違あるべきことを注意するを要す、即ち北清向きのものは之を其民度好尚に適合すべき樣特製するを要す、詳言すれば清國向貨物は已に大體に於て特製するが上に特に北清向のものは特製中の特製たるを要するなり

(二) 南清は住民概ね寬濶輕快なるが故に、其の趣味好尚比較的清雅淡酒に且つ意氣に粹なるを好めるに反し、北清の住民は、堅實重厚なるを以て、不意氣濃重なる好尚趣味を有するを注意すべし

(三) 一方は豪放洒落なるが故に外觀の綺麗纖美なるを好むも、一方は實利實用を主とし堅固耐久力を有する貨物を嗜用し、外觀の美麗ならんよりも實用の勝れたるを擇ばんものなり

(四) 北方人は南方人に比すれば保守固陋にして變化改遷を好まざるが故に猥りに流行を趁ふことなく依然として百年傳來の好尚と趣味とを堅守せるものなるを注意すべし

(五) 北方人は衣服の縞柄色合に就ても南方に比して著しく濃厚なるを擇ぶが如し、色合鮮研にして縞柄のハッキリしたるものに非らざれば、暗澹陰欝なる家居を營めるもの、及び四邊の風物荒涼にして且つ自然の色素稀乏なる北清人に在りての到底其の嗜好に適合せざるべきなり

(六) 空氣乾濕の度、南北に於て相異甚だしきが故に、貨物の製法に關しては此點に注意するを要す、木竹製のものは木地に烈け目破れ目を生じ易し、漆器類は特に注意を要す、水濕の爲に南方にては腐敗し易きものと雖も、北方にては存外永持ちする利益あれど、交通不便の地なれば內地深く仕向けらるるものは運搬に時日を要するが故に、此點に心懸け置くを要す

此外南北支那の相違より來るべき注意事項は細かく立入らば際限なきを以て省略するも要するに、其の目的地の南北如何によりて、商工業者の工夫注意を要する點尠からざるべし。

北清地方の貨物出入口五あり

第五章　北清貿易論

第一節　總說

北清地方に於ける貨物の出入口五あり、即ち天津、秦皇島、青島、及び漢口是なり。漢口は地、北清地方より隔絶せるも漢水の上流に由り陝西に通じ、又京漢鐵道に由りて河南の一部に喰ひ入り居れり。青島は膠州鐵道に由りて山東省の中腹を貫き同地方に於ける有力なる貨物出入口なり、芝罘は從來其の任務主として遼東地方との支那民船貿易に在り、所謂北清地方の貨物輸出入港として甚だ重要の地位に在らず、僅に山東省の一角を支配し居たるに過ぎず、然るに其れさへも今は青島の爲に侵蝕を受けて、爾來漸く振はず、唯だ一方秦皇島と遙かに相待つて山海關附近の地方と取引を爲し居れるなり、而して秦皇島は最近兩三年以來、漸く發達を遂げ來り、獨立せる一港地として特有の商業區域を有するに至れるも今日までの處にては未だ重要なる開港地として視るには足らざるなり。此の際煩累なる統計表を掲げて比較研究を爲すまでもなく、北清地方に於ては

天津は北清唯一の貿易港なり

北清貿易は輸出入共に大不平均なり

輸出一に對し輸入五乃至七なり

不平均より來る眼尻の決濟

天津貿易は間接貿易なりき

天津を以て唯一無二の貿易港なりと斷定して甚だしき獨斷にあらず、從つて天津貿易を說明するは卽ち北清貿易を說明するものなり。

昨三十九年の天津輸出入貿易總額一億一千六百二十五萬二千餘兩、就中輸入高九千四百四十二萬六千八百餘兩、輸出高二千百八十二萬五千三百餘兩、輸出は輸入に對し實に四倍七分弱の比なり、輸入超過は淸國全體の貿易に於て每年見る所の現象にして、獨り之を天津に於て怪むに足らずと雖、不平均の此の如く甚だしきは北淸貿易の特有の現象なるなり、年々天津の貿易は輸出入の不平均甚だしく輸出一に對し輸入五乃至七に當るを常とす、蓋し北淸地方貨物の生產地にあらずして、大消費地なれはなり、而して此の不平均の爲に喚び起さるべき受拂の帳尻は如何にして之を決濟するやと曰ふに、這は附近に北京なる大消費地あり、全國より公租として同地に集まれるもの年額一億二三千萬兩、以て優に此の帳尻を決濟して餘りあるなり。

從來天津貿易は上海を仲繼地とせる所謂間接貿易にして、外國貨物の八九分は皆必ず一たび上海に陸揚げし、同地商人の手を經て天津に轉賣せしものなり、天

津商人は買附けの爲め上海に支店を設け若くは出張員を派遣し居るものにして、上海市價の高低は毎に直に天津市價を動かし居たるものなりき。然るに較近に於ける天津の貿易上の地位高まり、各種貿易機關の完備したる結果、去明治三十七年以來、直接貿易の趨勢漸く成り、同年の洋貨直接輸入高は全輸入額の九分四に當り、翌三十八年には二分一强に進み、更に昨三十九年に於ては十三分八となれり。這は對米對日貿易の增進に職由せるものにして、特に日本貿易發達の促勵に係る所甚だ多ほし。

右は天津貿易上の大進歩なり。從來天津の負擔に屬せし上海商人の支拂ふべき手數料、積替料、轉送料等は之が爲に全く省除せらるべく、從つて天津商人の受くべき利益を增し又洋貨は廉價を以て輸入せらるべきなり。

昨三十九年中、天津に於ける外國貨物の輸入高六千五百十九萬八千五百五十六兩にして、外國直輸入のもの四千十萬二千五百十八兩なり。而して上海其他清國諸港經由のもの二千五百九萬五千九百九十八兩なり。

左に明治二十八年と同三十九年とに於ける上海經由輸入額と重なる仕出國直

直接貿易の勢切りに增過ず

遣は主として日本の米國と貿易增進せるに由るものなり

貨物輸入比較表

輸入額との百分比例を示せば

國別	明治二十八年	明治三十九年
英國	一・八八	一一・七三
英領(主として香港)	八・二六	六・四六
米國	〇・〇五	七・六九
日本	一・五四	一八・四六
獨逸	——	五・二三
其他諸國	一一・二三	一一・九九
清國諸港(主として上海)	七七・〇四	三八・四六

即ち十一年を隔てゝ、上海經由輸入額は七割七分より三割八分强に落ち各國よりの直輸入額概ね增進したるが中に就ても、本邦の增進は特に著しきものにして、十一年前には全輸入額に對し本邦輸入額は僅に一分五厘餘より躍進して昨年に於ては一割八分四厘强の分け前を有するに至れるなり。本邦に亞きて進境に在るものは米國と獨逸國なり。

本邦品直輸入增進は洵に著しきものあるなり

昨三十九年の直輸入外國品の價額四千萬兩就中日本品として明記し得べきもの千二百萬兩なり本邦直輸入の增進は洵に著しきものあるなり本邦直輸入の重要品は

綿糸	二、八三二、五八二兩
兩綿製品	一、三二七、一六一
內被單布	五四九、〇五八
雲齊布	四一四、八一三
天笠金巾	一九六、三八八
銅	四八三、八三〇
燐寸	九〇五、一六三
枕木	一、五三二、九六四
木材	一、一七一、八三四

此の外諸外國より直輸入せし重要品は

綿製品	八、五二〇、〇〇〇
砂糖	三、八三六、〇〇〇
鐵道材料	二、八一四、〇〇〇
軍器軍需品	二、〇八四、〇〇〇
石油	一、六四七、〇〇〇
染料	一、一三九、〇〇〇
紙	七二五、〇〇〇
麥粉	五二五、〇〇〇
機械	三五八、〇〇〇

綿製品は依然上海經由のもの多く、直輸入額は尠し、砂糖は主として香港より來る、原產地は不分明なり。昨三十九年中米國より輸入の麥粉は十三萬三千擔にして一部はシヤトルより直に輸入し、一部は香港より來る、米國麥粉に對する强敵は上海製粉所の製品なり。昨三十九年中の天津輸入高四十五萬二千擔にして之を一昨三十八年の三萬三千三百擔に比すれば多大なる增進なり

又輸出貿易に就ても直接輸出の途大に開けたり。特に兩三年以來本邦並に英米

諸國への直輸出額の增進したるは注目すべき現象なり。

第二節　天津港貿易の近況

第一款　總論

天津貿易の近況を示さんが爲め、左に昨三十九年の貿易狀況を略述すべし。

明治三十九年の天津港輸出入額

咋年中の直輸入貿易總額は

一億一千六百二十五萬二千百四十三兩

にして就中輸入總額

九千四百四十二萬六千八百三十五兩

輸出總額

二千百八十二萬五千三百八兩

なり、

輸出入貨物仕出地別

右の中外國產輸入額は六千五百十九萬八千五百五十六兩なり、仍つて左に重なる輸入洋貨の仕出地別を掲記すれば

日本……一二、五四〇、八八五兩

英國……八、三四五、四五一

米國……五、一八四、六六八

香港……三、七七七、五八二

獨逸……三、三九九、九五六

白耳義……二、七八一、九八一

蘭領印度……一、二七四、六一四

佛國……一、二三四、一六〇

和蘭……三四九、〇九三

墺國……三一八、一九四

菲律賓諸島……二二七、八五六

英領印度……二二二、七五七

新嘉坡……一八九、七〇八

天津輸入貿易に於て最も優

天津貿易に於て最も大なる分前を有するものは實に本邦なり、尤も英國は本國の外に領地殖民地を有するを以て之を合算すれば其總額一千二百五十三萬五

勢なるは日本なり

土貨輸出地仕歸表

千四百九十八兩にして、之を本邦貿易額の一筆にして一千二百五十四萬八百八十五兩に比するは、猶ほ若干低位に在り、且其香港仕出に係る貨物中には多額の本邦並其他諸外國貨物の混在し居れるを想像し得るが故に事實上天津に於ける本邦貿易は實に脫群の優勢を占め居れるなり這は單に本邦と北淸地方と地理上相接近せるが爲めのみの結果に非らず畢竟近年に於ける本邦産業の發達顯著なるの致す所なり、

輸出貿易に就て視るも亦然り、昨三十九年中の土貨輸出額は二千四百四十三萬六千八百七十九兩にして外國直輸出高は五百十四萬三千七百六十四兩其他は淸國諸港への輸出なり、重なる仕向地別を掲記すれば

日本	一、一三二、三八二兩
露領亞細亞	二、五七〇、五三六
香港	八三三、九七九
米國	二六七、〇九三
英國	一八〇、一三〇

輸入品は主として日常生活の必需品なり

綿製品は輸入貨物の大部分を占む

綿製品中の大宗は被單布、捻絞布、生金巾等なり

佛國	五〇、三一三
獨逸	三五、四八五

＊露領亞細亞への輸出は專ら南淸地方産出の茶にして滿口より當地に輸入し、陸路張家口を經て西伯利亞に再輸出するものなり。

第二款　輸入貨物を論ず

天津輸入貨物は主として日常生活に必要なる衣食住の資料にして、機械、工藝學術品、又は嗜好品、贅澤品等は甚た少額なり、中に就ても衣食家居の必需品たる綿製品は每に輸入外國貨物中の大部分を占め居れるものにして現に別表に示せる如く重要綿製品のみにても其總額二千八百四十四萬五千餘兩に上り、全輸入外國貨物六千五百十八萬八千餘兩に對し實に四割四分に當れるなり、故に若し之に揭記洩れの各種綿製品を合算すれば優に六割以上の巨額に該るを常とするなり、

綿製品中の大宗は被單布にして其總額七百三十二萬四千兩なり、而して雲斉布（二百七十二萬二千餘兩）、晒金巾（二百九十四萬九千餘兩）、生金巾（百四十一萬二千餘兩）天竺金巾（八十九萬九千餘兩）及び哇金巾（五十九萬一千兩）等之に相亞ぎ此外綿

絲の輸入額は八百六十九萬二千兩の巨額に上れり。

被單布（シーチング）雲齊布等の如き厚目の綿布は米國品遙かに優勢の地位を占めて獨占の姿あり、實用耐久を尚び又氣候酷烈なる北清地方に在りては厚目幅廣丈長なる被單布は最も適恰なる綿布なれは其の需用年を逐ふて增進し、頻りに天笠金巾の勢圖を擴張して其の售路を奪ひ雲齊布と共に將來生金巾綿布市場を獨占するに至るなるべし。

生金巾、晒金巾及び天笠金巾に於ては英國品依然優勢を占め、本邦品は目下の處雲齊布、天笠金巾及び被單布に於て多少の分け前を有するに過ぎずと雖も、漸次增進の見込あり。

茲に注意し置くべきは北清地方に於て最も調法なる綿布の寸法は幅三十六吋丈四十二碼なるものにして、晩近被單布の優勢なるは地質を天笠金巾と同一となし而して幅丈は如上の幅丈けとなれるが故なり。然るに一兩年來天笠金巾も亦從來の寸法を改正して亦幅三十六吋丈四十二碼物となせり。現に昨年度輸入の殆ど全部は皆此の寸法なり

英米綿布の前途

右等重要輸入綿布に就て英米兩國品の前途を卜するに英國品は終に米國品の敵たる能はざるべきことを認めざるを得ず。蓋し米國品は本國に於て到る處常に有力なる好販路を有し、剩餘品を以て之を清國市場に仕向け居れるものなれば英國品と競爭せんが爲めには生產價格（コストプライス）まで其代價を下たすことを得へきも、英國にては然らず、其の製品の殆ど全部は之を輸出せさるべからさるものなれば一朝輸出貿易の不況に遭逢せば之を蓄藏して市況の恢復を待つか、若くは製造を休止するの外なき弱點あるを免れす。加之原料綿花に於ても英國にては之を印度より輸入せさるを得さるの不利益あるに對し、米國にては自國產の原料を以て優良なる製品を產出するを得へく、又清國への運賃に就ても紐育よりの運賃は倫敦よりの運賃に比較して著しく低價なり、本邦の短所も亦英國に同しきものあり。是れ米國綿布の北清市場に跋扈する所以の理由なるべし。

其外の重要輸入品

此外の重要輸入品は紙捲煙草、軍器類、燐寸、染料、石油、砂糖、鐵道材料、鐵道枕木并に木材等なり。

紙捲煙草は漸く清國人間の嗜好品となり、昨年中の消費額實に百十一萬九千兩

多くは廉價なる米國莨なり。此外一昨年來北淸市場に立現はれたる上海製の紙捲煙草の勢力侮るへからさるものあり。但し其の原料は米國品なり。皆兩切り煙草にして口付煙草は殆ど皆無なり。味は重厚なる米國莨を好み、本邦莨の如き淡泊なるを懌はず。這は脂肪强き貪物を喫するが爲なるべきも主として最初喫煙の習慣を淸國人に付けたるは米國莨なりし爲ならん

軍器類は輸入解禁以來連年多額の輸入あるものにして、三十七年中二百三十三萬五千圓三十八年中二百九十二萬九千圓、而して昨三十九年中には二百五十三萬圓の多きに達せり。就中本邦品は多きに居れり。

石油は從來露油優勢なりしも一兩年前より急に勢力を失ひ、スマトラ油極めて優越なる地位を得たり。

砂糖は淸國人の食卓に於て最も缺べからざる需要品にして彼等の如く多量の砂糖を使用するは稀なりとす。年々の消費額甚た少からず。主として香港よりの輸入なるが原産地の何れなるやは之を詳にすること難し。

鐵道枕木は主として家具材、棺材、及び建築補助材として使用せらるゝものにして鐵道枕木として使用するは甚だ僅少なり。此の需要は將來に亘りて益々增進すべし

木材も亦主として本邦よりの輸入に係るものなり。假令ひ鴨綠江材の他日北淸市場に立現はるゝに至るも本邦材の售路は依然現狀を維持し得る見込あり。

燐寸は本邦品の獨占に歸せるものにして、其の種類は專ら所謂危險燐寸なり。

此外內國產貨物として北淸地方に售路を有せるもの重なるは、綿絲、陶磁器、紙、捲煙草、麥粉、唐紙、米、綠茶等なり。而して綿絲及ひ紙捲煙草は上海の製造に係るものにして競爭の餘地少きも、陶磁器、唐紙等に就ては本邦品を以て之を爭ふの餘地あるべしと思ふ

（淸國產貨物にして北淸に輸入せらるゝもの）

重要輸入外國品價額表

（明治三十九年）

品目	國別	價額（海關兩）
綿製品	英國	一、三一三、七五九
生金巾	米國	九九、〇四五

被單布	米國	六、四八九、三八五
	日本	五五五、四二八
	英國	二七九、二七五
晒金巾	米國	二、六八五、〇三八
	和蘭	二六一、三〇〇
	英國	三、三〇〇
雲斉布	米國	二、〇八二、一三四
	和蘭	九九、一九七
	日本	四三〇、〇九五
	英國	九七、四七二
	印度	一三、六〇九
	英國	二〇六、二四六
	日本	四九、四五四
畦金巾	米國	三四六、〇八一
	和蘭	
	英國	

天竺金巾	英國	六一五、二〇九
	印度	
	日本	二五五
各種印花布	日本	一九四、一五一
各種染色綿布	日本	一、〇七五、二七三
	米國	三、三七〇、〇九〇
綿フランネル	和蘭	八二、六一四
	日本	二三、二〇一
	米國	一八、六一五
綿毛布	日本	三三、二四七
	印度	四七、五四四
	日本	八、五三四
浴巾	日本	一三四、四九一
	英國	一一三、二〇〇
		三三九、六八二

綿糸	印度		五、〇七一、四四七
	日本		三、三八二、二八九
絹織物			一九八、九二〇
銅塊	日本		一四八、二四二
海參			四八三、八三〇
綿眞田			一四三、五三二
卷煙草			一四七、五八一
時計			一、一一九、六五九
アニリン染料			二三二、一六八
藍			六五七、五九三
麥粉			八六一、八〇五
硝子			八七五、六九一
玻璃器			二〇六、八八一
			二四〇、八二〇

ランプ類			一〇四、八六四
鞣（牝牛）			一四二、五五四
機械類			三五七、三〇二
燐寸	日本		九〇九、九四八
軍器			一、六九一、七八五
石油	米國		六〇六、〇六三
	ボルネオ		一六五、五〇〇
	スマトラ		一、一八四、二三七
洋紙			八七五、三二三
鐵道材料			二、九〇二、五六四
枕木			一、五三二、九六四
赤砂糖			一、四九七、七三一
白砂糖			一、〇九四、五一三
精製糖			九〇四、五六一

重要輸入內國品價額表(明治三十九年)

品目	價格(海關兩)
氷砂糖	七七三、五四〇
硬木	二一八、七八三
獸木	一、三〇九、四二二
チーク	三、四八三
丸太材	八五、四七一
綿糸	四〇二、五九四
書籍	二七五、二六五
陶磁器	九二一、四二〇
巻煙草	五二三、一九〇
紫花布	六五七、九二八
麥粉	一、八一二、〇三四
木油	四一七、五〇五

紙	九〇五、五五二
米	四、一六五、二四八
貫米	五、五一七、二八一
綠茶	二、一七六、五九三
丸太材(杭)	五五六、五〇九

第三款　輸出貨物を論ず

輸出內國品の大宗は羊毛、磚茶、各種毛皮、鬃毛、麥稈眞田、廐及び癪骨等なり。

鬃毛、未鞣皮革類は近次米國に向つて販路を擴展し來り、麥稈眞田も亦西洋諸國への輸出漸次增進し、癪骨は主として、肥料に使用せらるゝものにして、本邦への輸出額益々增加の見込なり。

天津港は各種皮革類、鬃毛、麥稈、眞田、羊毛等の輸出貿易に於ては從來殆ど獨占の姿なりしも、一方には京漢鐵道全通の結果漯口に又一方には膠濟鐵道(山東鐵道)開通の爲め青島に此等重要輸出品(羊毛を除き)に對して獨占權を奪はれんとする傾向あり。三十九年の輸出貿易は銀價騰貴の爲め格外に不振なりしを以て之

天津の輸出貿易に對して立つて現はれたる敵手

に憑據せず三十八年中の數字に據る)

山羊皮(毛皮)　(單位は枚數)

輸出地名	三十四年	三十六年	三十八年
天津	一、三五三、〇〇〇	二、一五五、〇〇〇	二、一四〇、〇〇〇
秦皇島	—	五九五、〇〇〇	四〇九、〇〇〇
漢口	八七七、〇〇〇	一、五一七、〇〇〇	二、三六三、〇〇〇
黄河上流	二八八、〇〇〇	七八三、〇〇〇	四一五、〇〇〇
青島	一五、〇〇〇	三六、〇〇〇	八〇、〇〇〇
合計	二、三九三、〇〇〇	五、〇八六、〇〇〇	五、四〇七、〇〇〇

(羊毛)　(單位は擔)

天津	九三、〇〇〇	一一八、〇〇〇	一六六、〇〇〇
秦皇島	—	二六、〇〇〇	四二、〇〇〇
漢口	—	—	一、〇〇〇
黄河上流	一六、〇〇〇	二四、〇〇〇	四〇〇
合計	一〇九、〇〇〇	一六八、〇〇〇	二〇九、四〇〇

(鬃毛)　(單位は擔)

天津	一一、〇〇〇	一五、〇〇〇	一一、〇〇〇
秦皇島	—	—	四三〇
漢口	六、〇〇〇	八、〇〇〇	一〇、〇〇〇
黄河上流	七、〇〇〇	一一、〇〇〇	一七〇
合計	二四、〇〇〇	三四、〇〇〇	二一、六〇〇

(麥稈眞田)　(單位は擔)

天津	四〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	二一、〇〇〇
芝罘	三三、〇〇〇	二四、〇〇〇	一一、〇〇〇
青島	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四一、〇〇〇
合計	七六、〇〇〇	六九、〇〇〇	七三、〇〇〇

天津は輸入港にして輸出港にあらず

以上重要輸出品中羊毛の一課目を除きたる他の課目に於ては、天津は永く獨占の形勢を持續すること能はざるが如し然れども天津の開港地としての使命は

主として輸入貿易に在りて輸出貿易にあらず故に輸出品中に於て衰退を見ることあるも以て大に病むには足らざるなり。

天津の重要輸出品中に加ふべきは茶の陸上貿易なり、茶は紅茶綠茶を磚茶となし漢口より上海を經由して來るものにして、天津より水路通州に送り、同地より陸路張家口恰克圖を經て露領西比利亞に輸出するものなり、此の陸上貿易は從來甚だ隆盛なりしものなりしか、西比利亞鐵道開通以來漸く衰退せるものなり、最近五ヶ年間の輸出價額左の如し。

明治三十五年	四、〇二七、八二八圓
明治三十六年	一、九三二、一〇二
明治三十七年	二、一八九、八七四
明治三十八年	二、八五一、八八九
明治三十九年	二、五九九、八八五

重要輸出內國品價額表明治三十九年）

品目	價額
毛	一、三三七、三二〇
繭	六三〇、七四七
落花生	七〇六、二二〇
蜜蠟	二七七、七三一
毛	五五六、七一三
麻	二四三、四四八
甘草	六二三、五〇八
藥劑	八二九、二六九
サムシュ酒	三一〇、一八四
西瓜種	
毛皮	六七七、二三四
着衣用	六九一、八〇八
仔羊皮	二一九、三〇六
雜其他	

屑皮		六九三、六六〇	
山羊皮		二二一、二〇八	
羊皮			
毛皮		一、七八四、二五六	
山羊皮		六七四、一四六	
仔羊皮		二六一、六三九	
羊皮		三一三、二二〇	
其他		一、一九三、五五五	
麥稈眞田		七七六、一〇〇	
紅茶		一、五三五、七五一	
磚茶		五〇九、三〇八	
駱駝毛		一三九、六〇四	
山羊毛		五、四九〇、五三八	
羊毛			

右の內サムシュ酒、落花生、藥劑、棗、西瓜種、林檎、及び鹿角等は中部並に南清地方の消費に供せらるゝものなり

最近五ヶ年間天津港輸出入品價額比較表

年次	輸入額 外國より	輸入額 國內各地より	輸出額 外國へ	輸出額 國內各地へ	輸出入總額
明治三十五年	一八、八四九、二三四	六一、三三三、四四九	一、六八八、八二六	一一、八七九、〇九六	九三、七四九、六〇五
明治三十六年	一八、六三三、四〇六	四〇、九〇九、〇五六	一、一四八、二四六	一〇、一七一、〇四三	七〇、八五〇、七五一
明治三十七年	一六、二五六、六五一	四〇、六六九、八九八	二、〇六九、三六三	一三、八二六、〇一七	七一、八二一、九二八
明治三十八年	三一、四六三、二〇八	五四、一〇三、五三一	七、五九五、九八三	七、一四三、三七七	一〇〇、三〇五、〇九八
明治三十九年	四〇、一〇三、五五八	五四、三三四、二七七	三、五八四、八〇〇	一九、三四一、五〇八	一六、三五三、一四三

天津に於ける航運業者七あり

第六章　天津の航運業

第一節　航運會社並に航路

天津港(太沽を含む)に於ける航運業者總て七會社あり、分ちて左の二種となす、第一は上海、天津間の沿岸航海をなせるもの第二は本邦特に大

(一)上海天津間沿岸航海

阪神戸を起點として天津との間に航運せるものなり。

第一。上海天津間の沿岸航海を營めるもの

(イ) 支那航業會社(チャイナ・ナヒゲーション・コムパニー)(國籍英國)所屬船の隻數二十四隻、此の登簿噸數總計二萬七千四十四噸なり

(ロ) 招商局(清國)清國政府と特殊の深き關係を有するもの、所屬船十二隻、此の噸數總計一萬二千八百七十九噸なり。

(ハ) 印度支那航運會社(インデヤナ・スチームシップ・ナビゲーション・コムパニー)(英國)所屬船八隻此の噸數總計八千七十六噸なり

(ニ) 北獨ロイド汽船會社(ハンブルグ・アメリカン・ライン)(兩會社は共同營業なり)、國籍は獨逸所屬船三隻此の噸數總計二千八百二十噸なり。

(ホ) 開平礦務局(英清の合同事業なり)所屬船四隻、此の噸數總計五千百七十六噸なり。

以上五會社所屬船は孰れも淺吃水のものにして、白河を遡航し天津居留地河岸に横付けし得るものなり。

第二。本邦北清間の航海業を營めるもの

(二)本邦北清間の航運業

本邦主として大阪神戸と天津間を航行するものは我が日本郵船會社及び大阪商船會社なり

(イ) 日本郵船會社(使用船五隻、噸數六千九百四十六噸)

(甲) 神戸北清線(毎月四回乃至五回)

本航路は門司、芝罘を經て太沽に到るものと門司、長崎、芝罘を經るものとの二あり、孰れも更に牛莊に進航し、再度太沽に寄港の上、歸航す。往復二週日の航程なり。

(乙) 横濱北清線(毎月一回)

往航には四日市、門司(長崎、釜山)仁川(芝罘)を經由し、太沽に至り、太沽より更に牛莊に進航し、歸航には牛莊より直ちに門司四日市を經て横濱に歸着するものにして、往復一ヶ月の航程なり

(丙) 韓國經由神戸北清線

本航路は門司、長崎、仁川、芝罘、太沽を經て、牛莊に進航し、歸航亦同一の航路を取るものにして航程十日。太沽牛莊の結氷期中は芝罘を以て本航路の終點となす。

(ロ) 大阪商船會社(使用船三隻、此噸數三千三百八噸)

同會社の航路は大阪天津間にして神戸門司芝罘を經由するもの、使用船三隻は特製淺吃水船にして紫竹林居留地河岸迄遡航し得るものなり、往復二十日の航程にして、本航路は一昨三十八年十月以降の開始に係るものなり

第二節　出入船舶

貿易の增進に伴ひ天津港出入船舶の數逐年增加し、特に本邦船舶の增加は著しきものなり。昨三十九年中入港船舶總數は一千十七隻此噸數百十九萬六千百五十六隻、之を一昨年に比すれば隻數に於て二百二十二隻、噸數に於て三十二萬噸の增加なり、就中本邦船舶は一昨年の入港數七十七隻五萬二千五百八十四噸なりしも昨年に於て二百九十隻、三十四萬六千百九噸に增加し、第五位より躍進して第二位に進み、動もすれば英國の壘を摩せんとするものあり。

明治三十九年中天津港出入船舶國籍別表

國籍別	隻數	噸數	隻數	噸數
	入	船	出	港
英國	三〇三	三九六、〇六一	三〇三	三九三、〇六一
日本	二九〇	三四六、一〇九	二九〇	三四六、一〇九
清國	二三〇	二四三、五六〇	二二九	二四三、二三四
獨逸	七八	一〇二、三七二	七八	一〇二、三七二
那威	九九	六〇、五五八	九九	六〇、五五八
佛國	八	三〇、七二五	八	三〇、七二五
米國	二	五、八六四	二	五、八六四
和蘭	三	四、六三〇	三	四、六三〇
丁抹	二	四、三一〇	二	四、三一〇
瑞典	二	一、九六七	二	一、九六七
合計	一、〇一七	一、一九六、一五六	一、〇一六	一、一九五、八三〇

左に最近五ヶ年間の天津港出入船舶比較表を掲記す

本表は稅關に告知せられたるものに過ぎざれば猶ほ、若干遺漏あるを免れず
船舶は主として汽船なり、帆船は極めて少數なり、故に內譯を記せず

年次	入 隻數	入 噸數	出 隻數	出 噸數
明治三十五年	八三六	八二四、〇五二	八二五	八二三、七七八

明治三十六年　七二五
明治三十七年　七一一
明治三十八年　八〇七
明治三十九年　一、〇一七

關稅其他を納稅せし船舶の所屬國籍別を示さば

國別	納稅額（海關兩）		
英國	七二一	七六四、一六一	
日本	七二一	七六七、八六一	
獨逸	八〇七	八八五、五一五	
那威	一、〇一六	一、一九五、八三〇	
佛國	八五、一二一		
和蘭	二〇、三一四		
瑞典	一六、六一三		
丁抹	三、五〇一		
	一、五七三		

米國	一、一七三		
清國	一、四四八、〇〇一		

昨三十九年中天津に出入せし支那民船左の如し

內河航行のもの			
入港	五九、六〇八隻。	一、三二八、九九三噸	
出港	六〇、三八三隻。	一、三五五、三六三噸	
外洋航行のもの			
入港	一九六二隻		
出港	一九三九隻		

なり

而して內河航行のものに就て其の河流別を視れば

河流	入港隻數	出港隻數
南運河	一五、四八九	一五、五一七
西運河	二一、二三六	二一、七二一

天津に出入せし支那民船

北運河		一〇、二九〇	一〇、三七七
東運河		一二、五九三	一二、七六八
合計		五九、六〇八	六〇、三八三

外洋航行のものを內譯すれば

種類	入港隻數	出港隻數
北洋民船	四七四	四九七
南洋民船	二三	二三
鹽船	一、一五〇	一、一四九
合計	一、六四七	一、六六九

北清は生産地にあらずして大消費地なり大消費地なり天津の通商區域は廣濶なり

第七章　天津通商區域の消長

北清は貨物の生産地にあらずして大消費地なり、年々一億圓の貨物は天津に由て北清各地に分配せらるゝなり、其の分配區域は甚だ廣濶なり、即ち直隸、山西、山東河南を包攬し、一方は陝西、甘肅、蒙古、新疆に擴展し、一方には吉林、奉天省にまで

外國貨物の消費價額井に地方別

手を延はし居れるなり。

今左に昨明治三十九年中內地稅關を通過して國內各地に發售せられたる外國商品の價額地方別を表示すれば

直隸省	二二、一二〇、二九三兩
山西省	六、五七八、九三三
吉林省	三、五三一、八四二
甘肅省	一、四五三、一五三
山東省	一、四二〇、五七九
河南省	一、一六五、四二六
奉天省	八五七、四一六
陝西省	一五二、四五六
新疆省	一三八、一八八

にして、就中甘肅省に於ける外國貨物消費の增進は近來の事に屬し、大に注目すべき所なり。

而して國內各地より同年中天津の內地稅關を通過して海外各地に發售せられたる土貨の價額幷に地方別左の如し

內國產貨物の輸出價額幷に地方別

直隸省	五、五九七、七六八兩
山西省	三、四六〇、二九五
*張家口	二、二二八、八三三
山東省	三四九、二三一
河南省	三三二、六七一
奉天省	三〇六、一七二
黑龍江省	一〇四、七〇〇
甘肅	九六、四二一
蒙古	五〇、九七七

*は張家口に集まる貨物の同地より天津に轉送せられたる價額を表示せるものなれば此の貨物は長城以外の各地特に蒙古陝甘地方より來るものにして其の內譯明細ならず

天津港に對する敵手

然るに之に對して敵手として立現はれたるは、京漢鐵道の開通に由る漢口、山東鐵道の開通に由る青島、漸く發達し來れる秦皇島及び南滿洲鐵道の發達に由れる大連幷に諸停車場市街地なり。

漢口幷に青島

漢口、青島の兩敵に對して先つ之を論すれば、北淸地方の輸出入品は概ね嵩高の重量品又は原料品にして且つ價格の低廉なるものなれば、之を運送するに長距離に亘る汽車積輸送にては到底引合ふこと能はず、故に鐵道開通の結果、商業の勢圈を他に奪はるゝことありとするも自ら限度あるべきものなり。思ふに河南の南半部を漢口に、山東の東半部を青島に讓るに過ぎざるべき歟。蓋し大運河（南運河）の航運力は甚だ充全なりとするには非らざるも運賃甚だ低廉なると古來因襲の問屋制度、商習慣兩ら共に鞏固なれば現狀以上の侵蝕を受くること之なかるべしと思はるゝなり。

秦皇島

秦皇島の發達は注目すべきものあり、從來同港は單に冬季結氷期間、天津の補助港たるに過ぎざりしが、最近兩三年來、其の重要の度を高め、獨立せる一港市として立たんとするに至れり。同港の埠頭は開平鑛務局の私有に屬し、社外諸船舶の利用するに便ならざりしも、去三十七年中同會社に於て之を公開したる結果、一般船舶の出入急に增加し來り、關內にては灤州、昌黎、永平、豐潤等直隸省の東八縣

一帶の地方、關外にては遼西地方を其の勢圈に收め、民船に由りて外國貨物を芝罘より輸入して右等の地方に分配し、又此等地方の土貨、拜に灤河に由りて東蒙古の產物を海外各地に輸出するに至れり

此の如くして同港は天津の勢圈中より東北直隸の一部、遼西及ひ東蒙古の一部を奪取せるものなり。

最後に最も優勢なる敵は、大連なり。南滿洲鐵道が日本の手に歸したる結果、本邦貨物は大連より陸揚げせられ、廉直に迅速に滿洲各地方に輸入せらるゝを以て、昨秋以來趨勢の漸く較著せるは、遼河以東一帶の地方は已に天津の商業區域たらざるのみならず、近く錦州、新民屯、法庫門方面の如き遼西地方の如きも漸く大連の勢圈に入らんとするを看取するに足る。

從來天津にては、東客專門、西客專門の問屋ありて、各其の地方の出廻客を顧客として輸入の洋貨を取扱ひ來りしものなり。東客專門の問屋にては天津以東の仕入客、即ち關內(山海關內)は勿論、關外にては遼西地方は言ふまでもなく、奉天吉林兩省の如き遠隔地方より出廻り居りたる所謂東客は、昨秋以來全く跡を天津に

絕ち、將來終に再來の見込なきが如し。現に右等地方へ天津より商品を仕入れ居りては直段到底引合はずと當業者語り居れり。事情此の如くなれば天津の東客專門の問屋は業を轉して西客專門とならん爲に切りに腐心し居れるは目下の現狀なり。

天津商業區域の他より喰ひ入らるゝは右の數者に止まり、此の以上の侵蝕なかるべき見込なり。否一方にては右の如く喰入られたるも、又一方に於ては大に他に發展の見込と機運とを有し居れるなり。蓋し北淸地方に於て目今多額の外國貨物を輸入し居れるは、比較的交通の便利を有する直隸、山東、河南等の諸地方に止り、其他の地方は風氣猶啓けず、交通の便缺如せるを以て未だ多額の洋貨を需要消費する能はさるなり。然るに地方開發の機運漸く成らんとし、又內地交通の機關逐年進捗し居れるが故に、天津貿易の地域と數額とは將來益々增進するに至るべきなり。

京張鐵道は北京より張家口に通すべき線路にして全長百二十五哩(目下南口(北京より三十三哩)に至るまで開通せり。明後年中には全通の見込なれは、更に別に

企劃せらるゝか如く、進んで庫倫（クロ）に延長するに及べば、蒙古并に露領亞細亞貿易に對して活躍の動機を與へ、此の方面に於ける發展著しきものあるべし。』

正太鐵道は直隷省正定（府京漢線に沿ひ直隷省首府保定の南方五十哩）と山西省首府太原府とを連絡するものにして此の全長百五十一哩、目下其の大部分を完成し、運轉を開始し居れり。本線路を全通し、沿道の礦山を採堀するに至らば、從來地中深く埋もれたる山西省の礦產は始めて有効なる出口を得べく固陋頑冥なる風氣も漸を以て啓發せらるべく、從つて又此の地方一帶の經濟的狀態を一變し、富源の開發と共に多大なる購買力を生し、天津貿易は更に一段の進境を見るべし。

多年天津貿易の爲に毎に大憂患大障礙たる太沽沙灘（タクサ）開鑿の企劃は成案終に此の程に至りて全く完備し、遠からず實行に着手すべきを以て完成の上は、船舶の航行輕易となり、貨客の出入便利となり、運賃其の他諸入費の輕減とに由りて貨物の出入益々增加すべし、

之に加ふる北清一帶の地方、近年風氣人文好尙漸を以て發達し居れるを以て、其

の購買力の增進に伴ひ、天津貿易の前途は益々多望なりと謂ふべし

第八章　天津より北清內地に通する商路

天津は北清に於ける無二の大商埠にして、年々一億兩の貨物は此の地を以て集散地となし、中心市場となし居れるなり、而して此の地に於て配給せらるべき商品は、從來鐵道の開通せざりし以前は總て別項「交通の狀態」に於て說けるが如き徑路に由りて、民船と車馬とを以て輸送せられたるものなりしが、諸鐵道の相尋て開通したる結果運送費には多額の差異あるに關せず、安全と速達の爲め多くは鐵道便に由るに至れり

天津より內地に通せる水路は曾て說けるが如く

(イ) 南運河……山東江蘇を貫き鎭江に到る大運河

(ロ) 西河（子牙河）……保定に通する要用なる水路

(ハ) 北河（白河の東流）……通州に至る

(ニ) 東河……芦台を經て北塘に至り海に入るもの、

(ホ) 海河(通稱白河)……西河、北河幷に南運河の天津三岔口に於て合流せるものにして、之より下流五十哩太沽に至る間の稱なり

の五河流なり。

天津附近の河川は冬季氣候嚴冷なるを以て、凍結して船舶通航を杜絶するものにして、其結氷期は氣候の如何に依り多少の差等ありと雖も先づ十二月中旬を以て結氷期となし三月上旬を以て解氷期となす、即ち太沽と前後一週間の差違あり。換言するに冬期は太沽閉河に先たつこと一週間にして結氷し、春季は太沽解氷に後ること一週間にして解氷す。

最近十年間に於ける白河々口並に太沽沖結解氷期左の如し

年次	結氷	解氷
三十年	十二月十九日	翌年三月四日
三十一年	同二十二日	二月十八日
三十二年	同同日	同二十一日
三十三年	同二十一日	同同
三十四年	同同	同同
三十五年	同同	同同
三十六年	同二十日	同十六日
三十七年	同十九日	同二十五日
三十八年	同同	同二十七日
三十九年	同二十日	三月三日

前記諸水路を通航の民船の種類大約二十三種にして昨三十九年八月現在の總數(官有船を除き)は六千六百六十五隻なり

民船の種類	隻數	備考
生鹽船	六〇八	海河に用ゆ、鹽船
登攸海	五九一	海河より山東に往復す
改巧船	四一二	海河に用ゆ、材木船
寧波船	三九六	海河にて穀類運搬に用ゆ
沙船	二〇六	同上石灰石炭の運搬用

鮮魚小海船	二八六	魚類運搬用
西河船	二六七	西河專用
磁頭船	二九八	多く南運河用
牛舌船	一二一	東河專用
南漕船	三〇二	一種の帆船
犇牛船	一八三	牛馬運送船
搖艣船	二五二	帆船、舟夫八名にて漕く
舿子船	七二五	普通貨物船
自買船	一四九	自用船
粲子船	二六二	客船
乍拉船	二九三	同右
西河單船	一八二	西河專用
上河煤船	二九二	石炭船
太平船	一六九	客船なり

小糧船	一二六	糧食運搬用
改造船	二六六	網船なり
炮艚船	二二八	官船
荷船	四八	解船會社の附屬船
合計	六、六六五	

一昨年中天津附近の河流を通過したる民船隻數及其概噸數左表の如し

通路	隻數	各内地より天津へ 噸數	天津より各内地へ 隻數	噸數
南運河	一七、二七三	四七一、四一五	一六、七一九	四五三、三九一
西河	一七、三五八	四一三、六三一	一七、九〇三	四二八、〇四三
北河	八、〇二四	二〇七、九七八	八、二六四	二一六、四一三
東河	一七、二五四	一六二、六三四	一七、二二九	一六二、六二七
合計	五九、九〇九	一、二五五、六五八	六〇、一一五	一、二六〇、四七四

一昨年中各商路に由りて運ばれたる

一昨年中水路を經過せし民船

又同年中各商路（ウレードルート）に由りて行はれたる貨物の割合左の如し

商路	内地より天津へ（輸送）	天津より内地へ（輸送）	合計

鐵道	一二三、七三六（パーセント）	四三、七九一（パーセント）
南運河	三六、七一二	一九、四五七
西河	一六、一六七	二〇、〇三〇
北河	二、九八〇	三、七七三
海河	〇、四八四	一、五三七
東河	二、五三五	六、四六〇
陸路	七、三八六	四、九五二
	四九、〇〇〇（パーセント）	四三、七九一（パーセント）
	一〇、五一七	一九、四五七
	二二、〇三二	二〇、〇三〇
	四、一八三	三、七七三
	二、〇八三	一、五三七
	八、四九三	六、四六〇
	三、六九二	四、九五二

（此表中には食鹽は算入せず）

之に依て此を觀るに、目下鐵道は天津と內地間の貨物輸送の四割三分を占め、南運河及ひ西河は共に各約二割を占めて順次之に亞き、其他の通路は多く語るに足らざるを視るなり。

右表鐵道便に依れる貨物に就て、更に東方（山海關方面）と、西方（北京方面）とに分ちて其割合を視るに

貨物內地より天津に來るもの

山海關方面よりするもの……二　割

北京方面よりするもの……八　割

にして又

天津より內地に向て輸送する貨物は

山海關方面に向ふもの……三　割五　分

北京方面に向ふもの……六　割五　分

なり

第九章　天津畧誌

天津は直隸總督の駐在地にして事實に於ける直隸の首府なり。太沽より白河を遡ること五十哩の上流に在り。地勢平坦、四望山陵を見す。北運河（白河）は北より、大運河は南より來りて市內の三岔口に合し、謂ゆる海河となる。太沽は此の河口に在るなり。

天津城市は曩には城壁を以て四周を繞らし分ちて城內城外となし、城內は皷樓

を中心として十字街を作り、各々數多の胡同(小路)分を岐して相連絡せり。去三十三年團匪事變の際、各國聯合軍に於て城壁の全部を破壞し去りたるを以て、曾て交通を阻礙したりし障碍物こそ、今は却へて坦々たる大馬路(大街路)となり之に電氣鐵道を布設し、延長して一方は河を渡りて塘、伊、露の三國居留地を貫き、再び河を渡りて佛國居留地に入り、將に日本居留地を貫かんとせり。

天津の諸外國居留地

天津城市を繞りて別に延長三十六淸里の土壁あり。此の圍郭內を以て通稱天津と名く、分ちて城內、外及び諸國居留地となす

各居留地の面積

天津に於ける諸外國居留地は總て八箇あり。白河の右岸に在るは日本、佛國、英國及び獨逸の四居留地にして順次相連り、又對岸に在るは塘、伊、露及び白國(ベルギー)の四居留地なり。

各居留地の面積左記の如し

日本居留地	
原居留地	三十萬三千五百三坪……明治三十一年八月取得
擴張居留地	七萬二千六百四十一坪……同　三十六年四月取得
合計	三十七萬六千百四十四坪

此外の豫備居留地(他日必要を生したる時は居留地に充て得らるべきもの)、前記の居留地の隣接地約四十萬坪及び獨逸居留地の下部に隣接して小劉庄と呼へる地に約二十五萬坪の地域なり

佛國居留地	三十一萬六千六百八十坪……一八六一年六月取得
英國居留地	
原居留地	四二九畝……一八六〇年取得
擴張居留地	一、八〇〇畝……一八九七年取得
南部擴張部	一四〇畝……一九〇二年併合
(元米國居留地)	
土壁外擴張部	四、〇〇〇畝……一九〇四年
合計	六、三六九畝(一畝は百八十二坪强に該るもの)
	此換算百十五萬九千百五十八坪
獨逸居留地	

本居留地……十八萬八千百八十八坪……一八九五年取得

此外約五十七萬六千坪の豫備居留地なり

埃國居留地……二十一萬六千坪……一九〇二年取得

伊國居留地……十二萬九千九百六十坪……同年取得

露國居留地……百八萬七千四百二十二坪……一九〇〇年取得

白耳義居留地……二十五萬六千八百六十坪……一九〇一年取得

日本居留地中最も繁盛なるは英國居留地にして設定以來年所を經ること已に久しく家屋街衢共に壯大完美なり。之に次くは佛國居留地なり。者して日本居留地は極めて最近の設定に係るに拘らず、其の位置天津城市と佛英居留地(通稱紫竹林居留地)との間に介在し兩市街地交通の要衝に當れると、加ふるに當局幷に在留民の經營共に宜しきを得たるが爲め、其の進歩の跡極めて著しく、內外人共に目を聳てゝ驚嘆するの外なく、今日に於ては其の內容外觀兩ら先進者たる英佛兩居留地に比して甚たしき遜色なきが如し。

獨逸居留地は政府幷に箇人の盡力至らさるなきに拘らず其の位置英國居留地の下流に隣り商業地區としては到底成功の見込なく、僅に第宅地區として立てるに過きさるが、之とても地僻遠なるが故に前途の繁盛覺束なし。

埃國居留地は白河の對岸に在り河を隔てゝ天津城市と相對し、又其の區域內には河東と稱する繁華なる支那市街の一部を包擁せるが故に、白河の左岸に占據せる他の伊露白の居留地に比しては甚だしく優勝の地點を占め、比較的最も有望なる前途を有せり。

伊國居留地は埃國居留地の下流に隣接し、目下一部の埋築に從事し居り、又露國居留地は尨大なる地域を占有し居れるも、共に好位置に在らざるが故に將來甚だしき進歩なかるべし。白耳義居留地に至りては、獨り地理的に絕對不利便の位置に在るのみならず、地區取得以來同國政府個人とも之を經營するに意なきが如く依然として荒凉寂寞たる原野の儘に放棄し居れり。

天津城內外を分ちて警察上より南北兩段(段は區なり)となす。

	戶數	人口
南段	五八、五八二	三〇二、九〇六

諸外國人の人口

天津に於ける日本人社會の概況

北段	一四、一三八	七五、三三八
合計	七二、七二〇	三七八、二四四

諸國居留地内居住の清國人の人口約十萬人、埃國租界の五萬、伊國租界の二萬、日本租界の九千八百名最も多く、英、佛、獨租界の各五千名順次相次げり。

天津より二十清里内に在る村莊の數三百八十二ケ村にして、此戸數七萬五千四百七十戸、人口三十八萬四千二百六十三名なり。

故に天津城内外、諸國居留地及び附近の村莊を合すれば此地方の人口約八十六萬人の多きに至るなり。

又諸外國人の人口は日本人の一千九百四十八名最も多く、英國人の約五百名、獨逸人の約四百名、米國人の三百名、佛國人の二百五十名、露國人の百五十名、白耳義人の一百名順次之に次げり。

天津に於ける日本人社會の概況

天津に於ける日本人の戸口（昨三十九年末日調）左の如し。

戸數	五七二戸
人口	一、九四八人
内譯	
男	一、一五二
女	七九六

居留民の大部分は日本專管居留地内に居住し、其他は英、佛居留地及び支那人街に雜居せり。獨逸、墺、露等の居留地にも亦少數の居住者あり。

職業別に據りて表示すれば。

官公吏	三三戸	九五人
清國雇傭	五一	一四六
會社銀行員	三八	一五二
貿易商	四	三一
木材商	九	二八
皮革商	三	一〇
機械業	五	二二

雜貨商	六	二三九
運送業	四	一三
土木業	五	三八
稅關代辨業	四	一八
料理店	八	七〇
飲食店	八	一七
藝妓		三八
酌婦		五五
雜業		一九三
職業未定		四〇

此外我が清國駐屯軍の天津に駐屯せるもの四箇中隊あり。

日本人社界の中樞は前記官公吏、清國雇傭者、會社銀行員、雜貨業者、貿易商、木材、皮革、運送、土木、稅關代辨業等より成り、雜業、無職業者若くは料理店、藝妓、酌婦の如き、不健全なる分子甚だ少く、居留民團體の實質外觀共に甚だ優良穩健なり、蓋し本

邦の海外居留地中能く之に比儔し得るものなからん。

在留本邦人の營業は綿絲、綿布、軍器、機械、燐寸、木材、枕木、海產物、各種雜貨、柔皮、銅、紙等の輸入及び各種皮革、羊毛、廢骨等の輸出業並に銀行業、航運業、地所家屋の經營事業を其主要なるものとなし、陸海運送取扱業、通關代辨、船舶代理業、土木建築業、各種雜貨業等之に次げり。此の外呉服、小間物、家具類製造販賣、寫眞、料理飲食店業等を營めるものありと雖も、多くは在留本邦人間相互の需給たるに止まり對清貿易の消長に關し直接利害關係を有するものにあらず。

前記主要なる業務に就きて各營業者を揭記すれば。

綿絲綿布輸入業

三井物產會社、大倉組、內外綿會社、大阪紡績會社

木材桃木輸入業

大倉組、三井物產會社、新松昌洋行、里村洋行

軍器機械類、燐寸、柔皮、銅、紙、海產物等の輸入

大倉組、三井物產會社

皮革類、羊毛、廢骨等の輸出業
武齋洋行、三井物產會社、大倉組
銀行業
橫濱正金銀行
航運業
日本郵船會社、大阪商船會社
地所家屋に對する投資
東京建物會社
陸海運漕取扱
大清通運公司
通關代辨業、船舶代理業
結城洋行、大清通運公司、榮興洋行
各種雜貨業
武齋洋行、加藤商店、天津商品陳列館、山玉號、太田博品館、樫村洋行、玉井洋行、澤

商店
等なり。
自治機關としては領事館令を以て居留地行政委員會なるものを組織し、委員十名(半數は官選、半數は公選、選擧權者は敎育費負擔者なり)、領事の諮問に應じて、居留地內の土木、衞生、敎育等の事項を審議決議の上、日本租界局(居留地役所)をして之を決行せしむ。
此の外公の團體としては日本人倶樂部、天津慈善會、天津婦人會等あり。日本人倶樂部は有數有力なる在留本邦人より成れる社交倶樂部にして目下會員百七十名實に日本人社會の中堅なり。常に領事を推して會長となし、互選を以て評議員二十名幹事二名を置けり。是れ中堅中の幹部ともいふべきものにして、居留地內に起るべき內外大小の社會的事業、事務、年中行事は概ね彼等の提唱に由りて每に圓滿に妥穩に行はれ居るなり。特記すべきは官民の關係極めて融和圓滑、秩序井然、居留地全體を擧げて、渾然たる一大家族の如く未だ曾て些の紛擾乖離あるを聞かず、他の在外本邦人居留地植民地に於て多く類例を見ざる所に屬す、蓋し

歷代の領事其人を得たるの致す所ならんも主として居留民の品等品性の特に優れ勝り居れるが爲めなるべしと思料す。

第十章　天津の金融機關

天津に於ける金融機關は全く別種の系統に屬せる二種の銀行より成れり。一は歐米及び日本の外國銀行支店にして、一は清國土着の銀行なり。兩者の組織營業方法及び範圍を異にして相侵すことなく、相互の連絡極めて薄弱なり。

(一)外國銀行

外國銀行の主たる業務は外國爲替の賣買に在り所謂爲替銀行たるものなり。勿論預金、貨付、割引等を營むには相違なきも其範圍、金高共に狹少にして多くは在留の外國人と稀に買辨に由りて清商を取引するに過ぎず。

此等銀行の天津に於ける營業資金は測知し難きも、少きは十萬兩多きも五十萬兩に過ぎず、盖し預金、弗兩札等の發行に依りて資金の運用を爲すを以て比較的少額の資本にて營業し得るなり。

清國土着の銀行左の如し

(二)土着銀行

各銀行の營業資金は少なり

外國銀行の主たる業務は外國爲替の賣買にあり

華俄道勝銀行（ルスコ・チャイナ・バンク）又は露清銀行……資本金一千五百萬留、清國政府出資金五百萬庫平兩、積立金四百四十一萬六千留、國籍露西亞、本店聖彼得斯堡

德華銀行（ドイチ・エーシアチック・バンク）又は獨亞銀行……拂込金五百六十二萬五千兩、諸種積立金一千四百萬兩、國籍獨逸、本店伯林

華比銀行（シンベシアン・バンク）……資本金八百五十萬法、國籍白耳義、本店ブルッセル

華旗銀行（インダストリアル・バンク・オブ・チャイナ）（天津代理店瑞記洋行）……拂込資本金三百二十五弗、積立金同額、國籍米國、本店紐育

右外國銀行の主たる業務は外國爲替の賣買に在り所謂爲替銀行たるものなり。勿論預金、貨付、割引等を營むには相違なきも其範圍、金高共に狹少にして多くは在留の外國人と稀に買辨に由りて清商を取引するに過ぎず。

此等銀行の天津に於ける營業資金は測知し難きも、少きは十萬兩多きも五十萬兩に過ぎず、盖し預金、弗兩札等の發行に依りて資金の運用を爲すを以て比較的少額の資本にて營業し得るなり。

清國土着の銀行左の如し

(一)官設銀行(官設又は其出資半官半民のもの)

官設銀行中の重なるものは戶部銀號及び天津銀號の二なり。戶部銀號は(資本二百萬兩)は戶部(大藏省)の設立せしもの、本店は北京に在り、官金を預金とし、主として官廳の金錢出納を管掌するものなり。又天津銀號(資本百萬兩)は直隸總督の設立せしものにして、同省財政の機關銀行なり。此外志成銀行(團匪事變後惹き起されたる天津市面の恐慌を救はん爲に天津銀號相前後して起りたるもの、資本は四十萬兩半官半民の出資なり)、裕豐銀號(海關の稅金收納を取扱ふ)、致通銀號(鈔關の稅金收納を取扱ふ等なり

(二)民設銀行

(イ)爐房……銀塊を購入し之を元寶銀に改鑄して市場に賣出すか、又錢舖、銀號の需に應し一定の鑄造料を受けて改鑄に應ずるものなり。目下天津に十二戶の爐房あり

(ロ)票莊(滙票莊)、又通稱山西銀行と呼べり。清國內地の爲替賣買を主とし、地方銀行の業務を行ふものなり。本店は皆山西省首府なる太原府附近に在りて清國各地

著名なる都邑には到處支店を有せり。天津に於ける票莊の現在數二十六戶なり。

(ハ)銀號錢舖……土着銀行の總稱なり。銀號といひ、錢舖と名くるも其の業務の大體に於て大差あるには非らず。強ひて區別を求むれば資本に比較的多少なると、從つて業務の分量に大小の差異あるに過ぎざるなり。銀號錢舖の重なるもの(弗銀一覽拂約束手形即ち弗札を發行し居るもの)は銀號十四戶錢舖十八戶なり。

此の多數の錢局(錢舖の更に小なるもの)、及び當舖(質屋の總稱、內自ら當、典、質、押の四種あり)等あり。

多數の銀行業者在せる由來

此の如く多數の銀行業者の存立し居れるは、各自の資本小なると、且つ清國にては、統一せる貨幣制度なく、市上に流通せる貨幣は表價の如何に關係なく悉く實價を以て通用し、貨物交換の媒介物として使用せらるゝも實は一の貨物として取扱はるゝか上に、多額の外國貨幣流通し居れるを以て、其間の複雜甚だしく、且つ需要供給の關係上自他の間毎に比價を異にし、殊に銀價の高低に依りて金貨及銅錢に對する價格に差を生じ、日々相場に變動あるを以て、各種各級の銀行業

者は此の間に處して利益を得べき餘地多きが故に、斯くは多數の銀行業者の存立し得る所以なり。

貨幣の複雜せる事甚だし

第十一章　貨幣

天津市場に通用の貨幣甚だ複雜し居れり。現時の通貨は元寶銀、小銀、兩銀一覽拂約束手形(弗札)、弗銀、弗銀一覽拂約束手形(弗札)、銅元、銅錢(孔錢)及び錢票及び若干額の日本紙幣等なり。

(一)元寶銀及小銀……元寶銀は馬蹄銀の一種にして、天津通用のものは化寶銀及び白寶銀なり。兩とは重量の單位にして通貨其物の名稱にはあらず。而して小銀とは小形の馬蹄銀なり。

(二)銀票及び兩銀一覽拂約束手形……銀票又は銀條は爐房票莊銀號等に於て發行する元寶銀札にして、請求次第正銀と引換ふべきものなり。團匪事變後の大恐慌以來銀票の聲價地を拂ひ目下殆ど皆無なり。之に代用として立現はれたるは兩銀一覽拂約束手形俗稱兩札なる一種の銀票通用し居れり。嘖啾、正金兩銀行

及び天津、志成兩銀號にて夫々此の銀票を發行せり。流通高は五十萬兩を出でず。

(三)弗銀……市場に通用するものは北洋弗は北洋機器局及び北洋銀元局の鑄造せるものにして、純分九〇〇、庫平兩(北京政府收稅用の秤)の七錢二分に相當するものなり。香港弗は北洋弗と同一價格を以て通用し、香港弗は右兩種に比較すれば實價較劣るも、外國銀行にては三種とも均一に通用す

(四)弗銀一覽拂約束手形(弗札)……發行者は持參人の請求に由り弗銀の硬貨と引換ふべきものなり。香港上海嘖啾、正金、露清等之を發行し信用厚く結果良好なり。又土着銀行にては天津、志成、以下の銀號亦同じく之を發行し、現今市場の通用高約六百萬弗を下らず

(五)小銀貨……弗銀の補助貨にして、五十仙、二十仙、十仙、五仙の四種あり。本位貨幣なきが故に本位貨補助貨と各個別々に其の實價を以て通用するなり

(六)銅貨は本來一兩の百分一の價格を以て發行せられたる補助貨なり。尤も各督憮に於て相爭ふて多額の銅貨を發行してるを以て、現今にて、銀に對する比價下

落し銀一弗に對し九十文內外に該るに至れり

(七)銅錢(孔のあきたる銅錢なり)……天津市中にても下等勞働者、竝に淸國內地に入れば一般に之を通貨となす、內地の本位貨は此の銅錢なり。

右の如く貨幣の種類複雜ぜるが故に從つて數種の本位貨幣あり、兩は名義上兎も角も本位貨幣と稱すべきものにして大取引納稅等に關しては內外人均しく之に依遵し、小賣商賣勞銀の支拂、日常私人間の收納支出には弗銀、小銀貨銅貨を用ひ、特種の商賣、一般の下級人民內地一般の農民間には銅錢を使用し居るなり。

貨幣は表價に關係なく實價を以て進用なり

此等の貨幣の間には法定の交換率なく、其の實價と、市場に於ける通貨の需用供給の如何によりて日々多換の割合を異にするなり

爲替相場は上海市

第十二章　爲替相場幷に其の動搖の爲に受くべき危險の豫防方法

天津より日本幷に歐米諸國に對する爲替相場は金融の中心市場たる上海の爲替相場に依りて支配せらる

替相場に由りて決定せらるゝものなり、凡そ一地方の爲替は其の地の貿易に隨伴して起るべきものなれば、若し北淸貿易にして幸に輸出入額略ぼ平均し居るに於ては輸入を爲すと同時に、土產を輸出し得べく、從つて多く現金を動かすを要せずと雖も、此の地方の貿易は輸入五乃至七に對し、輸出は僅に一の割合にて、輸出入の不權衡甚だしきを以て到底此の手段に由りて爲替相場の危險を防止するに由なく、爲替は每に片爲替となり、其の出合は現金の輸送に由らざるべからず。

爲替の動搖甚だし

左れば自然の結果、爲替賣買相場を懸隔すること甚だしきものなり、加之殆ど全部は銀貨國對金貨國の爲替なるが故に、銀價の高低常ならざるに從いて、爲替相場も亦每に動搖するを免れず、更に詳言すれば北淸地方大多數の消費者は銅貨若くは銅錢即ち孔錢を以て通貨となし居れるが故に、左なきだに金銀比價の動搖に依りて動搖常ならざる爲替相場は、實際の通貨たる銅貨銅錢の銀に對する變換の關係上、更に一段の紛料を加ふべきを、以て商賣自體以外に豫想せざる危險に逢着するを免るゝ能はざるなり。

且つ別項に說けるが如く諸般の取引は總て延拂なるか故に取引決定當日と代金受渡當日とに於ける爲替相場の異動に依りて外國商人の負ふべき危險少からず、即ち商賣自體にては多少の利得を見たらんも現實代金受拂の期日に於ける爲替相場昂落の爲め所謂相撲に勝ちて勝負輸けることあるべきを覺悟し居るを要す、特に清國商人は商賣其物にては必ずしも利益を見ざるも、爲替相場の鞘にて利益を得んことに腐心し居れるまでに、爲替の出入經緯、懸引に關して苛細、明敏なるものなれば彼等を對手とせる外國輸入業者に在りては此の危險に備ふるの準備と覺悟あるを要す。

其の方法自ら二あり

(一)豫め銀行と賣渡物品の代金仕拂當日の爲替豫約を爲し置き、而して此の相場に基きて賣買契約を爲すこと

(二)爲替基金とも名つくべきものを設け、一定期間に對する爲替の一定相場を自分限りに定め置き、其の期間に於ける爲替相場にして、利益あるに於ては之を積立て置き又若し損失あらば之を差引き、一ヶ年を通して、差益差損を積立控除すること

要は唯だ爲替相場昂落の爲に累を商賣自體に及ぼさゝるを心懸くること肝要なり

第十三章　商取引

第一節　取引季節

天津は毎年十二月中旬より翌年二月末若くは三月上旬迄の期間、約三ヶ月間は濱海一帶、白河幷に總ての內河氷結するを以て、一切の海運幷に內地水路梗塞し、貨物の輸送中絶すると、又夏期炎暑の節は內地出廻客の來往絶止するか故に、此地方に於ける商業取引は之が爲に自ら繁閑の二期に分たるゝを常とす、更に之を四季に就て詳述すれば、

第一春季(自三月至五月)

冬期三ヶ月間の結氷茲に融解して海運幷に內地の水運共に一時に開通するものなれば、此期間は百貨四方より來集し、春夏より秋初に亘りて必要なる貨物を

輸入し、內地出廻客は夫々多額の貨物を引取り又輸出商に在りては山西蒙古地方より各種の獸皮羊毛等を轉送し來りて、之を海外各地に輸出すべきを以て、開河後一二ヶ月間は此等貨物の出入取引の爲め商況極めて活潑、一年中の最も繁劇なる季節なりとなす

夏季には開散

第二夏季(自六月至八月)

本季は商業沈靜の季節なり、夏時初秋の間に需用せらるへき貨物は概ね已に前季中に取引を了し居るが故に本季に入りては季節物なる、夏期飲料品其他の日常品の賣行あるに過ぎず、尤も季末に及べば秋末初冬の需要品取引行はるゝも左したる巨額には至らざるなり、且つ季節炎暑の候に屬するが故に、內地の顧客は夫々故郷に歸り、又富民等は避暑の爲め各地に旅行するを以て、貨物の消費僅少なるを常とす

秋季は亦繁盛

第三秋季(自九月至十一月)

多季氷結中の需要品取引の季節にして、又秋季に於ける土產の輸出期たるが故に商況復た振興し來るなり、加之、南方各地方より南運河に由りて來往せる多數の糧船が、歸航に際して各種の貨物を仕入るゝに由り商品の取引額巨額に上るを常となす、本季は春季に次て商賣繁盛の季なり

冬季には沈睡

第四冬季(自十二月至三月)

本季內に於ては一年中の最大祝節にして最長休日なるべき舊曆正月を迎ふると、又河海の交通壅塞する爲め、旅客貨物の來往は僅に瀛車便に賴るの外全く杜絕するが故に、一年中最も閑散なる季節なりとす

取引勘定は延べ勘定なり

第二節　取引勘定の事

北淸地方に於て苟も取引と名くへき取引は殆んと悉く延べ勘定、即ち懸賣にして現金拂なるは極めて稀有なり、尤も天津の如く多數なる外國人若くは他省人の入込み居る市街地に在りては、多少現金賣買の行はれ居るを見ざるに非ざるも、內地に入れば事情全く之に反するものあり、官吏は一年兩三回に其俸祿の支給を受け、又農民は年一回の收獲あるに過ぎず、故に各種の買入代金雇傭の賃金の如きに至る迄、皆悉く一定の季節に於ての外之を仕拂ふことなし

天津市中の如きは比較的現金拂をなす地に在りても尙ほ例へは料理店の如き

ものに就て語らんに、菓物魚肉牛羊肉蔬菜店等への仕拂さへ、猶顧客よりの仕拂未濟なるを理由として、之を節季拂に延ばすを通常とす。料理店の如きものにして此の如くなれば、他は推して知るべきなり。

勘定決濟期

此の地方一般に勘定決濟期としては

舊曆五月五日（端午節）
同　八月十五日（中秋節）
同　十二月三十日（臘月節）

の三節句に於てするものなり。

延勘定の期間

內國商人間は勿論、內外商人間と雖とも、帳簿の引合は右三節句の外は一切之を行はず若し中途に於て引合を求め、若くは催促かましき行り方を爲すに於ては、淸國商人は甚だ厭ふの風あり、或は之が爲めに折角の顧客を他店に奪はるゝことさへ之あるなり。

支那商人間に於ける普通取引の期限は概ね

小取引（僅々十數圓迄のもの）……一週日

其稍大にして數十圓乃至一二百圓迄のもの……一ケ月

大取引……二ケ月

なり。外國商人の支那商人に對する延勘定の期限は約二ケ月とす。然れども實際は之よりも長期となること多し。必ずしも二ケ月間と一定せる譯にはあらず。

右の如き次第にて總ての商取引は必ず多少の期日間延勘定となすを常となすが故に商賣の繁盛なれは繁盛なるたけ賣懸代金の高巨額に上るは自然の勢なるを以て此の地方に於ける商賣は金融の豊かなるにもあらざる限りは頗る困難なりと覺悟すべし。

天津に於て獨米英綿製品の輸入及び羊毛羊皮麻等の輸出を取扱ひて毎に最も多額の取引を爲し居れる獨逸某洋行が淸國商人に對する賣懸代金の未決濟高毎に四百萬兩を下らず、之か得意先たる淸國商人の數四十餘軒あり互に相連繫して同洋行に對する買懸金を保證し居れり。此等商人中若し他の外商と新に取引を開始するものあるに於ては、貸方なる某洋行は直に之に迫りて貸金の決濟を督促すべく、其結果借方全體の破滅を惹起するに至るへきを以て、此等四十餘

軒の大問屋は相戒めて一切新に他の外商と取引するものなしといふ懸賣の勢力亦偉ならずや

決濟期に至りて皆濟すること能はず多少の殘高を殘す時は其殘額は最早や賣懸代金即ち商賣上の貸借たる性質を失ひ尋常の金錢貸借となり債務者より別に借用證書を差入れ之に對しては概ね年八分の利子を附するなり尤も右は清國商人對外國商人の關係にして清國商人同志の間には此の如きことなし。

金錢受拂の全然休止する季節あり

第三節　賣掛代金の澁滯し勝なる理由

前述の如く北淸地方の商賈は總て延勘定なれば左なきだに賣掛代金の兎角に澁滯勝なるが上に、毎年初春夏時の兩季に於て金錢の受拂全く休止の季節あり。是れ外國商人の當地に營業するもの、最も苦む處なりとす。其一は舊曆正二月の二ヶ月なり。其二は同五六月の二ヶ月なり。其三は淸國人に取りては一年中に於て最も祝賀すべき大祝節に屬し。正月十五日迄は淸國人に取りては一年中に於て最も祝賀すべき大祝節に屬し。手離し難き業務無き限りは出稼の爲めに他鄕他國に在る者も出來得べくんば皆各故鄕に歸還し、家族と團欒歡悟すべき季節なり。淸國人が正月上半期を喜悅

する實狀は實に吾人の意料外に在るものにして、此期間に於ては社界の諸機關は一切其活動を休止し故舊親戚家人等は唯悠々歡晤し居るに過ぎず。商事商談は一切之を行はざるは勿論のことなり

正月十六、十七、十八の三日間に於て掌櫃的(支配人)より一年の營業成蹟を東家(主人、資本家)に報告し掌櫃的以下の店員一同は失々賞與給與の支給を受くるなり。此三日間は全くの無禮講にして主從共々に歡樂を盡すものにして稱して熱鬧と言ふ。正月の祝節には之にて打切り、翌十九日より始めて業務に就くも、前日迄永々休暇の引續けると、內地顧客も亦總て故鄕に歸還し居るとにより、依然業務は休止の姿を繼續し、正月一ヶ月は殆ど全部休暇と見て過りなきなり。

內地の顧客は正月中は亦前年の成蹟取調べ及び祝賀の爲めに出廻り來らず、且つ寒氣漸く輕く、內地各所の結氷纔かに融解し始めんとするを以て氷上を利用すべき交通は危險を覺へ左りとて猶ほ所々氷結の個所あるが故に、水流としての舟を行る迄にも至らず此の如くにして內地は水とも付かず、氷とも付かずして交通不便なるが故に舊二月中旬迄は內地客の天津に出廻はるもの兎角に捗々

しからず下旬以降に初めて出向し來るを常となすなり從て舊年の懸金も彼の出廻り來る迄は集金なきが故に天津商人より外商へ仕拂べき懸金も順遲れに遲れて三月に入らざれは入金なきを常とするなり

又舊五六兩月は一年中最も暑氣甚だしき季節なれば內地客は概ね故郷に歸休し商業休止の姿なれば從て集金なし。

猶各月に就て實狀を詳述すれば

舊正月二月……商業の就眠期……金錢の受拂皆無

三月四月……商賣の最繁盛期……前年分の懸金を決濟す金錢の最も多く動く季節なり

五月六月……夏季市面の沈睡期……金錢の受授休止す

八月九月十月……商賣の順境に屬する季節なり、三、四、五、六月分の懸金は此期間に於て仕拂はるべきものなり

十一月十二月……冬期結氷中なり、九、十、十一、十二月分と正、二兩月分の懸金は翌年四月以降ならては仕拂付かす

送金に都合よき季節

加之、內地と天津との間に於ける金錢の受授は現金輸送にして、送上の危險少からざれば、季節を見計て輸送せさるべからず、即ち夏未初秋の候に於ける高粱茂生せる期間は盜賊の危險あるを以て、又結氷期中は交通不可能なるの故を以て、共に金錢の現送を爲すこと能はざるなり

右の如くなれば商取引上の事情と交通上の不便利との爲めに、實際に於て內地各地方と天津との間に於ける金錢の受授は春季解氷後一兩月間と夏季七八月の兩季あるに過ぎず

此の故に貸懸り勝なる取引は更に益々貸懸り勝となり、從て永く營業すれば營業する丈け、貸金高は多々益々嵩み來らんとするなり。

右の如く三四五月受引の商賣を爲すも其代金は七月以後ならては之を受領するを得ざるものと承知し乍らも猶此等の期間に受渡すべき賣買を爲さゝる可かざる理由は、外商特に本邦商業者が製造元より貨物を買入るゝに當りて特殊の月の產高のみの撰り喰ひを許さず、或る一定の月の商出品を避けて他の一定の月の產品のみを引受けんとするも、這は製造元に於て甚だ之を懌はさるのみ

ならず、品物の價格を高めざれば之れに應せず、價格高かれば賣込は到底不可能となるべきなり故に詮方なく各月分の產品に對し夫々の注文を爲し置き、從つて直に代金を受領し得ざるは覺悟しつゝ、買方に對しては順押に之れを賣込み置かざるを得さるなり此の地方に於ける外商特に綿布綿絲業者等の苦しめるは此點にあるなり

信用組織の地なり

第四節　損失懸仆れ塡補基金

天津は富あるも資本に乏しき地なり、富豪者の數は少からざるも資本家の少なき地なり、固定資本多き割合には流通資本少なき地なり、故に此の地の市面を潤せる資本は山西諸銀行の放資に係れるものなり、市上流通の資本は北淸事變以前には二千萬兩に近からん迄て巨額になりしも同事變以後山西銀行家は資金を回收して他の地方に轉送し兩三年以來又々放資し來れるも、從前の如き多額に上らず、目下市上流通の正銀は八九百萬兩より千萬兩迄なるべし、事變の爲めに無償にて北淸地方より海外各地に逸出したる正銀の額少なからざるを以て、左なきだに資本の豐潤ならざりし天津市面は毎に金融逼迫なるを免るゝ能はず、僅に多年慣行し來れる信用制度の安固なるものあるが爲に比較的甚だしき困憊なきを得るのみ

信用組織を脅かすことある場合多し

然れば一度市況の不景氣に遭逢せんには金融市面の苦難を感ずること極めて甚だしきを常とす、然るに淸國に於ては中央銀行の如きものありて之を救濟することなきが故に市面困憊の場合に於ても徒らに市面の成り行を觀望するの外なきなり、故に其際外國銀行及び外國商人に於て强て貸金、賣掛代金を取立てんとせば、信用組織に因りて密接に相連繫せる土着商人は將棊仆しに打仆さるゝの恐なき能はず、右の如き場合に於ては外國銀行及び外商等手を緩めて徐々に市面の復活を待たさるを得さるなり、事情以上の如くなれば、永き年月の間には延取引の爲に貸越高の決濟を受くること困難なると、又不況に逢遭することあるべきを以て、自然貸倒れの爲めに缺損を蒙ることあるべきを覺悟し置かざる可からず、

夫の各種製造會社に於て機械消却基金を設け、機械の減損補塡の方法を講し居るが如く、此の地方に於て商業を營まん者は、如上の損害塡補の爲めに營業の利

益金中より年々一定額を控除積立て之を損害塡補の基金となすは亦賢なる方法なるべしと想ふ

第十四章　買辨

買辨を要する所以

支那は由來特殊の國柄なり、各般の實狀容易に知れ難きを常とす。複雜婉綴なる商業上の關係に於て特に然りとすなり、清國の風俗習慣言語等に通曉せず、且つ對手たる同國商人の信用程度、身元、秘密、商習慣信用制度、商賣上の懸引、金融市場の實態、爲替相場の關係商品の售路等を熟知すること難き外國商人に在りては、能く外國語に通し商務に明かなる清國人を雇入れ以てその商業の仲立を爲さしむ。是れ買辨の由りて起りたる所以なり、支那商人銀行が外國銀行より借入金を爲すにも、航運會社が荷物を集むるにも、各輸入業者が商品の售路を求むるにも皆此の買辨の手を經るを要するなり。

買辨は商取引の手引たるのみならず、其取引に對しては十分の責任を負擔するものなり、獨り己れの雇傭せられ居る外國商社に對して責に任するのみならず、

買辨は使用人にして同時に仲立人なり

對手たる清國商人に對して外國商社を保證するものなれば該の商社も之が爲め顧客を得ること易く從つて利益すること尠からず。

此の如く買辨は一方にては普通の商業使用人の如く而して一方にては獨立の仲立人の如く一人にして兩樣の任務を措辨するものなり。故に使用人としては若干の給料を受け、又仲立人としては一定の口錢を收むるものなり。

買辨の給料は單に名義のみに止まりて、その額概ね僅少なり。大なる外國銀行より支給する給料は大約四百兩にして此の內よりその部下一切の傭人費諸經費を支拂ふものなり。銀行の買辨にして猶ほ此の如くなれば他は推して知るべきなり。

商社に雇はれ居る買辨の口錢は取引高の割合に應するものにして、輸出に在りては二分、輸入に在りては一分の建てなり。左れど取引高格外に嵩まるに於ては必しも然らざるなり。故に大なる商社の買辨は自ら大取引を行へると同樣なるを以てその收入も亦大なり。而して買辨は自己の利益金中よりその二三割を保證人に、他の二三割を部下使用人に分配するものとす。

買辨の社會上の地位高し

買辨の雇用は必要とも思はれず

買辨の負擔せる責任重大なるを以て雇入主は身元保證金として巨額の保證金を買辨より徴し、若くは身元確實なる資産家をして之か保證人たらしむるなり。買辨の社會上に於ける地位甚た高きを以て、商人等は此の職に就くを名譽なりとし、資望兩ら高きもの候補道臺等にして進んで買辨たるもの多し、故に外國商人にして買辨を雇用せんと欲せは容易に優良なる志望者を得るに難からさるなり。

買辨制度は種々の點に於て便宜多く且つ危險甚た少しと雖も同時に商賣上の甘味は多く彼の爲に吸ひ取らるゝものなるが故に、出來得べくんは自ら業務を措辨し之を使用せさるに如かさるなり。特に本邦商人は西洋商人に比し清國各般の事情に通曉し易き地位に立てるを以て、必しも買辨を使用するの要少きか如し、現に本邦商人中にも商賣の種類に依りては買辨を用ひ居らさるもの尠からず。

第十五章　清國人の好惡を論ず

清國人の愛好する圖樣

第一節　圖樣繪畫

清國人は概して圖畫を愛好するものなり。其好惡は吉兆、安樂、幸福、祿壽、老等の緣喜幷に古來傳襲の迷信より來るものなり。左に載錄せるは各種の圖樣に對する好惡なり。

愛好するもの

鹿……福祿の祿と字音相通するより之を愛し甚だし。之に鶴を配すれば鶴の高貴と鹿の福祿とを併せ有することゝなるが故に更に妙なり。

幅（蝙蝠）……福と字音相通するより亦多く之を好む

鶴……高貴を意味す

龍……帝室の記表にして最も高貴なるものなり。民間にても之を使用することあり。爪は龍の爪數に加減あるものなり。五爪は皇上專用、四爪は皇族用なれは唯三爪の龍のみ之を民間に使用し得るなり。

蝴蝶……好

麒麟……獸類中最も多く擇ばる

金魚……出眼の金魚たるを要す

鯉魚……登天の義吉祥なり

鴻雁……吉兆、又信義の鳥なり

牛……天地を祝祭する場合に之を用ふ、且稼穡を助くるものなれば吉と能との點よりして之を好む

馬……吉祥

鳳凰……飛禽中最も多く懌はるゝ之には必ず梧桐を配するを要す

獅子……高貴氣品高き點を取る

公鷄(牡鷄)……高官に就くを意味す之に牡丹を配すれば高位と富貴とを併せ有すべき緣喜なりとて之を好む

牡鷄と鷄頭花とを併せ書かは冠上冠を加ふるものにして官位更に高陞するの意味となるなり

孔雀……好

牡丹……花の開きたるは富を表はし未開の花は官位の貴きを表はすなり

葫蘆……子孫繁榮の表彰なり

桃……
柘榴……三仙又は三多
佛子柑

桂茶……
海棠……三秋
竹……

菊……
蘭……
臘梅……
夜來香……九如
僧道帽……
玉針……

松……常綠を喜ぶ

靈芝……之に松と鶴とを併せ書くは靈を延ばすとして多く之を擇ぶ、
右の外芍藥、梅、杏、荷花、葡萄、百合花を好み、又桃は長壽の靈藥なりとし、蝙蝠、鹿と併せ書きて福祿壽を表するものなりとせり。
椿……壽を表す
猿猴……封侯の侯と同音なるを以て之を擇ぶ
愛好せざるもの
鳥……凶兇なり、大に之を忌む
梟……陰惡不孝、不吉の鳥として之を忌むこと甚だし
燕……不貞、不節義、不慈の鳥なり
狗……猛烈なるを以て之を好まず
兎……愚魯、又男娼を意味するものなりとて之を忌む
鼈……龜は古來千鶴萬龜と稱し、龜其物は壽福の記表として之を喜ぶには相違なきも、龜に似て大なるものに鼈なるものあり、多淫不倫の生物にして忘八（仁義禮智忠信孝悌の八德を忘るゝの意味なり）と稱して極端に之を忌めり、故に

會々鼈に非らざる龜を書くも容易に鼈に似通ひ、又之を聯想し勝なるを以て斷して之を避くるを要す
狼、蛇、鰐、鬼、狐、猩、鼠、豕、蝦、百足、猫、驟子、楓樹は之を好まず、又梧桐は單に之のみを書くは不可なり、必ず鳳凰に配加して書くを要す
大黒……は清國にては暗黒不明を意味し、又大黒の圖なし、且つ黒なる字を喜ばず、黒屋とは牢獄を意味することゝなるが故に、本邦にて通用よき大黒屋などは清國にては失敗となるべし
虎……老虎なる語は殘酷なる意味の隱語なり、之を忌む
以上之を要するに清國人の繪畫に對する好惡は古來の傳說迷信緣喜若くは特殊の好尚に基けるものにして圖樣取合せの自然、不自然、適恰、不適恰の如きは多く顧る所に非らず、從つて圖樣往々不自然幼稚にして一見笑を禁ずる能はざるものあり。
模樣として妙なるは支那古代の貨幣、鏡、鐘、鼎、鈴、刀劍、石皷、古磚等にして陶器、漆器、彫刻物等に用ふること多し、

圖樣に就て注意すべき條件

又清國人は中華自尊の民なるが故に自國慣行の好尚にあらざれば之を容認せず。又外國の風俗、歴史書等に趣味を有せず、彼等に適合すべき書題は支那古來傳襲の歴史書、人物書、景物、風俗書、俗書等なりとす。例へば竹林七賢、曲水流觴、湘瀟八景、赤壁、揚貴妃、關羽、玄德等の書題は最も妙なり

書樣は濃厚重密にして本邦人の眼より視て寧ろ不意氣、不恰好、拙劣、幼稚、俗惡と思はるゝものなるを可とす。洒脫、清雅、高尚、優越若くは俗に意氣粹とも言ふが如き書樣は斷じて不可なり

書摸樣は色取り鮮明にして圖畫確的、輪廓の明晰、書樣の正整なるを要す。彩色の淡洒模糊にして寂味滋味なるは一般に不向なり。

又西洋風の書模樣。日本の人物風俗書、若くは高尚なる意匠は遂に清國人の爲に了解せられさるべきなり

模樣柄物は總て大柄にして特に立棒縞、格子縞等を擇ぶ、不明瞭、細微なる縞柄若くは絣等は一切不向なりとす

第二節　文字

商號に愛用せらるゝ文字

商標に愛用せらるゝ文字

文字の使用丁重にして之を猥りにせず、商號に用ゆべき文字にも限定あるものにて、皆緣喜とせる文字を選擇せるものなり。

大昌、祥、安、發、元、貞、仁、怡、錦、萬、順、泰、振、瑞、誠、鴻、德、乾、裕、榮、愼、廣、悅、天、通、康、公、茂、聚、立、太、彩、美、華、嘉、達、兆、億、鉅、升、增、餘、信、洽、森、豐、和、生、復、協、晋、慶、同、福、恒、盛、全、隆、興、新、章、寶、如、成、義、亨、利、長、永、源、銓、金、謙、益、泉、厚、中、文、信、來、昇、雙、早、長、東、允、吉、洪、敦、連、開、光、申、正、勝、暢、鎰、群、林、淵、英、本、道、宏、善、直、眞、香、經、緯、聯、世、陽、高、保、啓、清、普、進、常、老、周、致、重、學、定、富、惠、川、承、春、濟、耀、蔚、鼎、禮、

右の內二子若くは三字を任意に書き聯ねて商號となすものなり。例へば增茂、福利、信義、隆成等の如し。

商標に用ゆべき文字は見易き且つ目出度きものを用ゆ。

福祿壽、喜、金、全、雙、興、吉、雙喜、喜を横に並へ囍となせるもの、雙吉、同樣、囍、善、富、貴、高陞、寶 卍

等は一般に愛用せらるゝ文字なり

第三節　色彩

圖樣に對して著しき好惡を有すると同樣色彩に關しても亦極めて苛紗强烈なる好惡あり

紅色……吉祥の色、祝儀用の色彩にして上下を通じて好て之を常用し衣服家居等より總ての持物消耗品等に至るまで悉く然らざるはなし特に婚嫁の場合には專ら之を使用す。

黃色……は禁色なり、帝室用の色彩にして民間に於ては之を使用せず、但滿州僧侶及び道者等に於ては例外なり。

金色……赤色に亞いて大に之を愛好す。特に建築、店飾、招牌等の如きものには盛に之を使用して裝飾するを常とす。

青(實は黑)……黑色は之を青色と名けて黑とはいはず、冬季用の色彩にして上下を通じて之を使用す

藍……一般に廣く行はる

紫……官史紳紳等は藍色と併せて之を其の衣服に使用す。

灰(鼠色)……灰色には數多の種類なり。大商人は藍と併せ用い、小商人及び一般

の身分なきものは其の衣服には單に此の灰色のみを使用す。

此の外、愛用せらるゝ間色は、湖色(淺黃色)、洋妃(とき色)、葱綠(黃味を帶びたる綠)紬月(薄綠)石青(紺色)、羔綠(濃綠)、桃紅(桃色)、荷灰(銀鼠色)等なり、皆な自然の色にして人爲の色彩を好まず。

白色……は不祝儀の色彩にして獨り之を喪祭の場合に用ゆるに過ぎず、但し夏季の男子用衣服には之を用ゆ、通常白色及び無地を忌み家具家什、建築物に於ては如何なる木質のものも必ず之に色附けせざれば止まざるなり、特に婦人は白色を忌むこと甚だしく、其の衣服持物に白色を近づくることなし、本邦製造家は從來往々白無地白綾、白織模樣入及び白縫取等の絹手巾を清國に輸出せるもののありしが、這は心なき遣り方にして到底售路を得難たし。

第四節　衣服

清國人第一の希望は美服に在り、次は美食、美女に在り、彼は衣服を氣にし大切にすること極めて甚たしきものにして其の雨を厭ひ雨天に外出せざるは時間の觀念少きが故ならんも、主として衣服の汚損を恐るゝに由るなり、又衣服地を買

入るゝに當りて第一着に染方を檢査するなり。染方の試驗法は甚だ簡單なるものにして茶を織物に零し、茶に堪ゆるや否やに由りに染方の良否を檢定するなり。

衣服に就ては共通の好惡あり

衣服は普通人にありては一年六種を要す。而して各種更に居宅用、外出用及び通常禮服用の三種を要するが故に、一ケ年を通して合計十八種の衣服を要するなり。冬服には身分に從ひ夫々毛皮を裏張りするが故に一着千兩を投ずるは普通のことに屬し、贅澤なるものは數千兩に上ること珍らしからず。

本邦にては衣服の色合模樣千差萬別にして所謂十人十色の衣服を着用するに反し清國人の衣服は季節と階級に應じて程や共通せる好惡を有し居れり。例へば丁年以上の男女は概ね色無地若くは織出模樣の衣服を纏ひ染模樣の衣服を用ひず。染模樣の衣服は小童小女稀に婦人が着用するに限れり。又上流の婦人の晴衣は絹糸及び金銀の刺繍を施こし居れり。

清國固有の布帛には染模樣縞物甚だ少く綿布夏布等に稀に竪横の細縞柳條布を見ることあるも、概ね襦袢下着用にして上衣には之を使用せず、上衣には色無

模樣には重きを置かず色彩に關しては苛細なる好惡を有す

一着衣一色なり

商標に關する注意

地織紋及び浮織模樣を用ゆ。

清國人は衣服の模樣には重きを置かざるも色彩に關しては極めて苛細鋭敏なる好尚鑑別力智識を有し、色の調和配合に就ては本邦人の容易に想到し得ざるまでに煩はしき好不好あり。

色彩は總て自然の色彩に根基を有せるものにして衣服地の色合は自然色（素雅の色として愛好すること）に類するを要す。一着衣一色なるを主義とし縞物及び染模樣の如き不自然なる配色は之を俗色と稱して多く懌はず。

第五節　雜件

清國人は重きを商標及び招牌に置くの風あり。故に深く其の特殊の迷信好尚を利用し適不適好惡を判別して之を使用するを要す。

招牌は華麗にして材料も優良なるものを選み、文字の如きも能書なるを要す。拙惡なる文字は奴めて之を避けざるべからず。

商標は必ず鮮明なるを要す。不鮮明なる時は延て内容品の粗惡なるを想見せしむるに至るべし。又其の圖樣は彩色綺麗なるを好しとす

商標の圖樣は最も單純にして一見記臆し易く且つ可成は品物に因みあるものを擇ぶべし。

商標用の用紙は黃色又は赤色を可となす。若し文字を使用せんとせば漢字に限るべし。西洋文字若くは日本假名字は清國人に對しては無意義となるなり。尤も石鹼、煙草等の如き日常の消耗品に於ては包裝紙に漢字を使用するは差支なしと雖も、物品自體に漢字を使用するは惜字の習慣上之を忌むなり。

清國人は總て奇數を厭ひ偶數を好むこと甚だし。蓋し奇は欠けたるを意味し、偶は充足を意味するなり。何物にても一雙相對立するを必要とし、戸棚、簞笥、椅子、洋燈、花瓶、置物、扁額掛物、卓子、置鏡、置時計等すべて一對物たるを要す。

物品は凡べて外觀の美麗なるを擇ぶの傾向著るし、故に模樣、配色等專ら力を外面に傾注し、外觀の美麗なるを好むも內部內面の如何は寧ろ多く顧る所にあらず。是れ特に注意を要すべき點にして、日本製品を自國人の好尚に基き外觀よりも內面內部に力を用ゆるが如きは、清國人の嗜好に適合せざるものなり。

北方の清國人は總て其の好尚未だ幼稚なるを以て清雅高尚淡洒にして俗にいふ寂のある又澁き物を好まず、織物等にても光澤麗はしきを好み、木綿織物にても撚り糸を用い光澤あるを愛好するなり。

織物に對して光澤あるを好めると同樣、石鹼其他一切の化粧品に對しては香氣(特に麝香を愛す)高きを擇ぶなり。蓋し彼等居住所の周邊不潔臭穢なるが故に、放香甚だしきものを使用するに非らざれば心意の爽快なるを覺ゆること能はざればなり

總て複數を愛ぶ

外觀の美麗なるを好む

香氣を愛すること甚だし

清國向の貨物は特製品なるを要す

第十六章　商品に關する注意

清國向き特に北清地方向きの貨物を製作するに當りて第一に心得べきは、其の好尚、習慣、風俗、人情を細かに研究參酌して各般の條件に於て之に適合すべきものを特製するの要あり。本邦產の剩餘物を持込むが如き不眞面目なる遣り方は斷じて不可なり。英獨其他より清國向貨物として輸出せるものは消費者の需要程度に適合する樣特製せるものなるが故に先ず注意すべきは別章に說けるが如く北清地方の人情、風俗の南方に比し

清國特殊の好尚習慣、風俗、人情を諒知し置くを要す

清人は總て外國の事物を自國化せざれば止まず

て敦厚撲實、壓健なること風氣未だ多く啓けず、從つて生活の程度尚ほ低卑にして概して呑喬なること、又實用實益を主とし徒に華美驕奢ならざること、自負自尊心強くして輕しく新奇なる事物を採取せざると固陋舊守にして迷信深きことゝ等の點なり。

敦厚樸實なるが故に纖巧綺麗なる品物よりも、耐久堅牢なるものを選び民度文化低きが故に高尚優雅なる品物よりも、通俗卑近なるものを好み、實利實用を主とするが故に高直なる美術的製品よりも、廉直なる實用品を擇び、自尊自負心强く、固陋守舊にして迷信深きが故に、自國在來の慣行と信仰とを採守して容易に易俗移風するを肯せざるなり。

左れば外國品にして清國市場に販路を獲るに至るが爲には、能く同國人在來の風俗、嗜好、人情習慣に適合するか、若くは少くとも此等のものに牴觸せざるものなるを要するなり。

彼等の外國品を採用するに當りては總て之を自國化し、必ず自國の新名稱を附し、自國固有の用法に由りて之を使用するを常とし、仕出地生產地等に於ける用

清國は安物買にはあらず

清商人の日用品に對する要請の條件

法の如何かあらんも毫も頓着する所之なきなり、這は獨り品物のみに止まらず外、國人の氏名、商號、品名等總ての外國事物に對しても亦必ず自國流の名稱を用ゐざれば安んぜざるが如し。

清國を以て安物買ひと誤認すべからず、彼等は己れの用途に適合せる品物には相當の代價を仕拂ひて毫も吝かなるものに非らず、彼等は經濟なる語の意義を眞正に諒解し居れるものなり、實利實益ある品物に對しては假令ひ廉ならざるも、之に相當と認むべき代價を仕拂ひて毫も躊躇の色なきものなり、彼等の品物の眞價如何に關する鑑識は洵に正確なるものにして亦其の購買力の如きも侮るべからざるなり。

彼等の日常の必要品に對して要請すべき條件は耐久力と實益の二者に在り、此の二條件の充實を見て始めて代價の如何を問ふなり、若し數字を以て彼等の品物に對する要請の分量を表示することを得ば、先づ耐久力三、實用三、代價二、外觀一、及び巧奇一の如くなるべし。

清國に仕向くべき雜貨は日用の實用品を出來得べき限り堅牢に仕立て若干の

清國人の好尚漸く向上贅澤ならんとす

美術を加味するに在り而して其の代價は必ずしも廉なるを主眼とはせず品物に相當なる代價を申受くるを要するなり。

清國人は何處までも實際的（プラクチック）の人民なり利害の打算には鋭敏正確なるものなり。故に此の地方にては特有の品物が賣行くにはあらず賣り易きものが賣行くなり直頃（ねころ）のよきものが賣れるなり例へば天竺金巾と雲齊布と被單布とは其の用途略ぼ同一なり故に實用と耐久力と之に直段を加減して考慮し或は被單布を可とする時あるべく雲齊布又は天竺金布を擇ぶ時あるべきなり要は唯だ此等條件の比較的最もよく備はれるを擇ぶに在るなり

清國人は節儉質朴なるも強がち吝嗇なるにはあらず生活の程度低しと傳られ居れども事實必しも然らず又舊守頑陋にして容易に遷易するを肯せざれども十分の向上心あり晩近北支那地方の風氣漸く開發せられ生活の狀態改進するに從ひ自然に新需用新好尚を喚び起し特に北清事變以來西洋諸國の事物に接觸するの機會を得たる爲め上中流社界は漸く外國人に倣ふて其の衣食住に驕奢ならんとするの傾向を生じ來れり例は從來慣用の單純無趣味なる支那絹布に代ゆるに精巧嶄新なる意匠を凝せる外國製の絹布を嗜用する紳士女流の漸く增加するが如き又寢臺（ベット）椅子卓子（テーブル）洗面臺洋燈室內裝飾品時計等より洋酒煙草香水石鹸其他の化粧品の如き奢侈の傾向年を逐ふて著しきものあり。

本邦品は精緻なるも堅牢なるは未だしなり

愛好するが如き奢侈の傾向年を逐ふて著しきものあり。

本邦產の品物は精緻なる點に就ては欠くる所少きも堅牢なるは未だしなり清國向貨物に對しては精緻巧妙なるは必しも必須の條件にはあらず蓋し同國人の行住座臥總て椅子卓子を用ゐ居るものなれば各種の器物粧飾品とも堅牢なるを必要とす暫ひ地上數尺の箇所より墜落するも容易に破壞せざる樣ならざれば實用に適せず且つ同國人は一體に不器用にして心身共に粗大特に指先手先の小廻りせざる人種なれば精巧細緻なる品物は兎角に不向勝なるを覺ゆるなり。

堅牢は最も必要條件なり

別章に示せるが如く清國にては本位貨幣なるものなく各種の貨幣は凡て其の實價を以て通用せられ居るなり貨幣の斤量を實測して之を通用する迄に實際的實利的なり米、木炭の賣買も絹綿一切の布帛を賣買するも皆凡べて秤器に由

凡べて現金現物なる國柄なり

品物の包裝

品物の包裝を利用す

りて其の斤量を實測するを要するなり、故に總て包裝中に容れある品物は其包裝外箱に必ず在中物の員數、量目を明記するを要す

布帛器物に要する染料は屢次の洗濯に逢ふも又酷烈なる太陽の熱射に逢ふも容易に褪色せざる爲め良好なるものを使用すべし、清國人は色彩に關する好惡心は苛細酷烈なるが故に此點は特に注意するを要するなり。

品物には凡べて包裝を附するを要す、然らされば日光塵埃の爲に品質を損するのみならず包裝なき品物は優良品ならざるが如き感想を懷かしむるものなり特に反物類、浴巾、手巾等に於て然りとなす、品物の實質に手を抜くべからさるは言ふまでもなきこと乍ら少し斗りの價を格安くせんが爲めに拙惡なる包裝を用ゆるは不可なり、包裝は出來得べくんば美麗なるを要す。

實に清國人の爲には天下殆んど廢物なきなり包裝外箱も必ず之を別途の用に使用し得る樣心懸け置くを必要とす、蓋し彼等は單に之を他の實用に供するの外亦之を彼等限りの趣味に於て室內裝飾の用となすを常とす、故に美麗なる包裝外箱は壁に貼り卓上に展へて之を室內の裝飾に用ゆるなり。

清國は流石に文字の國なり、文字の用法には極めて巧なる國なり、如何なる場合に於ても露骨なる興醒むるが如き文字を使用するごとなく、汚穢なるもの厭忌すべきものさへ、使用する文字の作用に依りて之を美化し潤飾し得るまでに文字の使用に腐心せるものなり、故に清國に於て使用すべき商號、商標、若くに商品の名稱の如きは可成丈け、清國人の好尙に逆はさる樣、雅字、雅名を使用するを要す。

又文字を愛惜すること甚だしき國柄なるを以て、僕童苦力輩の如き目に一丁字なきものに至るまで、苟も漢文字を記せる物ならんには之を尊重愛惜するを常とす、故に使用に際して文字を粗略すべき所には文字を使用せさるを心懸けさるべからず、例へは手拭、石鹼、敷物等の如きものには漢文字を印記せさるを要す、但し西洋文字、日本の假名文字は彼等の爲には文字に非らずして一種の記號たるに過きされば、右の場合には此等の文字を用ゆるを可とす、又古新聞紙の如きも使用の場所に由りては彼等の厭忌を招くべき虞れあるを以て猥りに之を使用せさる樣心懸くべし。

一たび信用を得れば容易に渝らざるものなり

清國人特に北方人は頑陋執拗にして容易に推移せざるものなるを以て、商品にして一たび其の信用を獲るに至らば、他に如何程の品物新來するも、容易に此より彼に移るものにあらず、巧慧なる商工者特に外國商工者中其の獲たる商品の信用を憑み、更に愈々品質を改良し、漸次少しづゝ其の價格を上ぼすも、猶ほ依然として顧客を吸收し居るものあり、清國人の商標に對する氣風の一班を察知すべきなり、故に商品にして一たび信用を獲たらんには寸毫も其品質を下だすことなく、徐々に直段を上げ得べきものなり、本邦商人の弊所は少しく賣行き善き品物に對しては往々にして其の品質を下だし、由りて僅に差額の利益を獲んことを企つるに在り、思はざる甚たしき淺薄なる遣り口なり、是れ本邦商品の往々折角贏ち得たる販路を失ひ、延きて本邦貨物の全體の不信用を招く所以なり、十分發售の途を得たる商品に對しては少額宛の直上げを爲すは可なり、決して其品質を下だすべからず、能ふべくんば益々品質を改良し以て相當程度に直上げすべきなり、此の間の呼吸を呑み込み居れる商工業者は現に例へは一割方の改良を品物の上に加へて直段を二割方引上け居るか如き賢き方法を採れるも

のあり、故智襲ふへきなり、

第十七章　貨物の荷造詰合せ方等に關する注意

輸出貨物の詰合せ、荷造方等に關しては、本邦當業者は從來甚だ愼重ならざるか如し、從つて意外の不利益を被ること多し、左に心付きたる點を掲記すべし、

(一)貨物の外箱は堅牢にして厚味十分なる板を用ゆるを要す、然らされは長途の輸送、積替荷役の際、自然破損を被り、從つて內容物を傷くることあり、有合せの古箱を使用する時は外觀惡しき爲め、輸送取扱者、荷揚人夫等の爲めに自然不丁重なる取扱を受くるを免れず、

(二)內容品の破損は多くの場合に於て、詰合せ方の不注意より貨物と貨物との間に空隙を生し、而して此の空隙を充塡する手段の拙なる爲め輸送、荷役の際內容物の動搖、衝觸より來るものなり、故に鉋屑藁等を用ひて細かに空隙を充塡するを要す、

(三)荷物に表記すべき文字は鮮明確的にして一目瞭然ならしむるを要す。走り書又は粗雑なる文字を使用するに於ては取扱上自然澁滯すること多し。

(四)送り狀は正確なるを要す。貨物の送狀と荷造內の容量、價格等相違し若しくは續を要する等不利益尠からざるを以て內容物と送狀との間に些少の相違なき樣注意するを要す。

(五)同一包裝中に數種の相異れる物品を積み合することあり、此の場合、稅關に提出すべき輸入申告書及び輸入手續書を冗長ならしめ、且つ通關の際、送狀と現品との對照とを煩雜ならしむる爲稅關吏を苦しめ荷受人の受くる迷惑尠からず

(六)包裝用の布は強靭にして磨損に耐ふべき性質のものならざるべからず、綿布は力弱く不可なり歐米諸國にては麻布を以て包裝用となせり。

(七)送り狀は英文讀文の孰れにても可なりとするも其實英文を以て記せるを可しとす。稅關吏は概ね西洋人なれはなり。

(八)荷物の包裝に記入すべき陸揚港名、受荷人の宛名は明確なるを肝要とす、又記

號を記入する場合は可成は羅馬字なるを可とす。外國人稅關吏が印象するに易ければなり。

第十八章　重要なる北淸向本邦貨物

民度高からず風氣未だ啓けざる北淸地方に於て最も廣き需を有する布帛は實に各種の綿布なり。

綿布中の大宗は被單布にして昨年の輸入額七百三十二萬兩餘に上れり。之に次くは晒金巾雲齊布にして共に三百萬兩に近く、生金巾、天竺金巾畦金巾等順次之に次げり。民情堅實質撲にして實用を好み、且つ氣候酷烈なる北淸地方に於ては被單布雲齊布天竺金巾の如き十分の厚味を有し、耐久性に富めるものを以て最も適當なる布帛となすなり。就中被單布雲齊布は米國の獨占品にして、將來益々好望なる前途を有せるものなり。

生綿布は總て淸國人の手に由りて灰藍等の色合に染上げ、大部分は之を衣服使用し、一部分は襯褲子又は衣服、蒲團の裏地となすなり。晒金巾は下着、足袋、夏季の

土布（手織木綿）

衣服として上下一般に之を使用す、雲斉布及び畦金巾は襴袢褌子に用い、又足袋、靴底等の原料に用ゆ、又各種染色綿布、印花布は多く夜具、寝臺掛窓掛等に用ゐ緋金巾は婦人童兒女の衣服、裏地蒲團、冠婚の祝事、屋内の装飾幔幕等に使用す。

輸入洋布の外、北清内地に於ては手織木線の需用甚だ廣し、布質堅靭にして從來該地方の民用に適せるものなり、輓近各洋布の輸入多額に上れりと雖も、土布の用途は主として帽子、靴、靴足袋、勞働者の衣服、忌中の喪服、婦人の纏足等に用ゐ洋布の用途と自ら相異れるが故に、將來土布の需要額が洋布の爲に減縮せらるゝが如きことなかるべし。

從來山東省の住民は織布を專業し其の製品を直隷地方に發售し居たるものなりしが近來直隷にても紡織の業大に進みたる爲め山東の土布は直隷地方より驅逐せらるゝに至れり、目下北清地方に於ける土布の重なる製産地は直隷、冀州深州南宮、衡水、河南の羅家樓及び山東の德州、周村等の地方なり此等地方の製品は直隷山東の交界なる鄭家屯を集散地となし之より天津に出づるなり同地に由りて各種の色合に染め上ぐるなり。

内外蒙古は有力なる土布の消費地なり

内外蒙古は土布の有力なる需用地として年々の消費高巨額に上れり春秋二季に於て同地の土民は毛皮類を輸出したる返り荷として多額の土布を買入れて歸還するなり。

清國農家の婦女は本邦の如く男子と共に出てゝ耕作に從事せず皆屋内に在りて機織に從事せるものにして其の技術に長じ良好品を製出し價格も亦甚だ廉價なり此等は單に自家用となすのみならず盛に之を附近の市場に送りて賣出し又往々從來の業務を捨てゝ織布に從事するもの亦甚だ尠からず本邦より曾て木綿を輸入したることあるも價格不廉なる爲め發售の途を見出すこと能はざりき將來土布は洋布の爲に其の勢域を侵かさるゝことなかるべし。

土布には舶來綿糸を經緯（タテヨコ）とも土産の綿糸を用ひ來りしものなるが輸入の紡績綿糸は外見美なるが上に手紡ぎ不整なる土産綿糸に比して代價亦大差なきが故に最近十數年以來試に之を使用し始めたるに今日にては一般に舶來綿糸を以て堅糸となし土産の綿糸を以て横糸となし居れり綿糸輸入高の年々巨額に上れるは之が爲なるなり土布の需用增進するに伴ひて綿糸の需用亦增進すべし昨年中の輸

土布には舶來綿糸を堅糸として使用す

綿糸綿織の需用年々增進す

綿布綿糸取引は概ね先物約定をなすを常とす。這は固より清國商人の必しも好む所にあらず。又固より其發意に由りて起されたる遣り方にもあらず。事情に餘儀なくせられて詮方なく實行し居れるなり。蓋し本邦現下の製造工業の程度に於ては製造力に限りあるを以て一時に多額の注文を受くるも到底其の求に應ずること能はざるが故に止むなく先物と順押しに追ひ驅けて注文し置ける譯合なり。

綿布綿糸取引は概ね先物約定をなすを常とす。這は固より清國商人の必しも好む所にあらず。又固より其發意に由りて起されたる遣り方にもあらず。事情に餘儀なくせられて詮方なく實行し居れるなり。蓋し本邦現下の製造工業の程度に於ては製造力に限りあるを以て一時に多額の注文を受くるも到底其の求に應ずること能はざるが故に止むなく先物と順押しに追ひ驅けて注文し置ける譯合なり。

其理由

本邦の對清貿易の強味は固より勞働賃金低廉なると、兩國の民度風俗習慣の相似たるとに由ること多しと雖も、主として兩國が地理的に相接近せるに在るなり。速急の注文を充たし急場の間に合はし得べき地位に在るは、我が對清貿易の強味とする所なり。加之西洋品ならば現品受渡迄には早くも二三月の時日を要すれども清國商人に於て之を負擔せざるを得ず。然るに本邦品ならば數日ならずして現品を受授することを得べく、從つて右の危險少きなり。

然るに數ケ月以上の先物約定を以て賣買するに於ては、之を米英諸國の如き遠隔地に注文し、其の輸送し來るを待つものと、貨物の現實到達する期間に大差なかるべく、從て折角我の地理的に得たる強味は殺ぎ去らるゝに至るべきなり。

綿フランネルは目下の處未だ大なる需用なきも、漸次增進の見込あり。種類は白無地、縞物、色無色なり。就中白無地物は米國の獨占に屬し、厚地、重口物にして布毛多く、冬季の下着用に適せり。色無地物は室內裝飾用、婦人小兒用なり。又縞物は藍の大形棒縞若くは大柄の格子縞にして、襯子（シャーツ）、褌子、下着、蒲團地に用ゆるなり。米國品は縞柄鮮明、外觀鮮美、光澤十分にして、織目正整し居れるに反し、本邦品は以上の條件を欠けるが上に布面には糸節多く、糸屑の斑點あり、加之製造元は多くは小仕掛、家內的（ドメスチック）のものなれば品質不揃、丈尺短きに過ぐるの缺點あり。

各種綿製品
綿フランネル

綿繻子——無地物は男子の衣服又帽子、靴の原料に用ゐ、柄物は男女共に上着、股引に用ひ、黑地に金銀箔を施せるは婦女の上着に用ゆること少からず。本品は絹

綿繻子

繻子、綴子に代用し、外觀亦可なるを以て前途有望なり。

綿毛布　綿毛布は多くは室内の裝飾用、敷物用特に儀式の場席に用ゆるものにして年中賣行きあり。此外寢具、膝掛及び旅行用となす。

浴巾　本品は防寒用としては適當ならず、蓋し北清地方に於ては甘肅、陝蒙古地方より産出の羊皮類甚だ廉價にして、實用綿毛布に勝れたるが故に、綿毛布は下等社界の防寒用には適當なるものに非らず。

柄模様は虎牡丹等の派手なる大模様にして紅地に綠を配合したるを好む、藍色多きを好まず。

本品の仕出地は本邦及び獨逸なり。獨逸品は本邦品に比して毛出し、織目共によく揃ひ、地色の憂少く、從つて聲價本邦品よりも高し。

浴巾も有望品の一なり。夏分は小物、冬分は大物を好む、大物は冬季首卷として使用するなり。目下漸く販路を得來りたるは浴巾と日本手拭との折衷品なり。同地方にては一般に日々幾度となく熱湯に浸して使用するものなれば、布賃の強靭なるを肝要とす。本品に就ても亦獨逸品は強敵なり。

手巾類　瓦斯糸織、絣、縞、浦團地、浴衣、雙子織

手巾類は本邦品不向なり、到底英國品の敵にあらず、男女とも纏足用に使用するものなれば其の消費額多大なるものなり。此外瓦斯糸織は從來下着にのみ使用したりしが近時は上着に使用するもの多し。無地物、浮織、小紋等夫々相當の需要あり、尚ほ近來發售の途を得たるは敷布、安物の蒲團地等なり。浴衣、雙子縞等は寒衣、下着に使用するものと覺しく四季絕えず賣行あり。

木材　北清一帶の地殆ど些の林地を有せず、從つて其の要する木材は總て他地方より供給を受けざるを得ざるものなり。

天津は北清に於ける木材の中心市場にして同港輸入の木材の一部は之より轉賣せられて北清內地一帶に分配せらるゝなり。

日露戰役前の概況　日露戰役以前に在りては同地の木材は大部分は鴨綠江より來り、唯だ丸太材を福建方面より、枕木を本邦より而して大建築用の用材として若干のオレゴン松を米國より輸入し居たるものにして、此地方需用の大宗たる角材、板材は殆ど全部鴨綠江材の獨占なりき。

現下の實況　然るに日露戰役開始前後より引續き鴨綠江材の輸出全く杜絕したる爲め、從來

未だ曾て試用するだもなさざりし、本邦材は始めて茲に發售の途を啓き、爾來頻りに其の販路を擴め今日に至りては、根基已に成り、假令ひ鴨綠江材の再び輸出せらるゝに至るも容易に本邦材の敵手たること能はざるべし、其の理由は價格の相懸隔せるに在るなり。本邦材は鴨綠江材に比し一立方尺に付き、十五仙以上の格安なり（戰役前鴨綠江材は六十仙乃至六十五仙、而して本邦材主として北海道松材の價額は四十五仙乃至五十仙なり）。實例に由りて之を立證すれば、本邦材中の栓、棚は鴨綠江材に比すれば樹質稍粗崧なるも、實用上多く遜色あることなし、然るに此の兩種の本邦材は松材に比すれば若干方高直なるが故に、實行甚だ少きを見ても、鴨綠江材が他日日清の共同經營に由りて北清市場に立現はるゝに至るも、從來時間と勞働の經濟的價値を知らざる土民の手に由りて切り出されたる當時に比し、生產費は高まるとも低廉なること難かるべきが故に、容易に北海道松材の勢圈を奪ふこと能はざるべし。

北海道松の樹質は勿論粗崧なるには相違なきも、北清地方に於ける家屋建築は主として磚瓦を使用し、木材は單に其の補副たるものなれば、必しも樹質の堅硬

なるを要せず、且つ木材は無色の儘に之を使用せず、必ず一定の染料を塗抹するものなれば、本理の纖細美麗なるを必要となさず、實用上北海道松こそ最も適恰なる用材たるなり。吾は其の前途愈々有望なるを信ずるものなり。

丸太材は從來福建產を以て市場を獨占したりしが、近年同地方の生產力漸く衰退し、此の上は大に生產費を高むるに非れば出材捗々しからざるべく、從つて本邦丸太材の侵入し得べき餘地尠しとせず、枕木は、鐵道用枕木として日露戰役以前より北淸地方に賣出し居たるものなるが、鴨綠江材の出材杜絕以來、本邦產枕木ば家具、什器、窓框其他一式の指物用材として使用せられ、又福建產杉材の勢力漸く凋落せる跡を襲ひて棺材として代用せられ、其の需用頗る多額に上れり。材種は主として栓、棚の二種なり。

燐寸

燐寸……北淸向きの燐寸は專ら危險燐寸にして、安全燐寸は甚だ少額なり。蓋し同地の民度未だ極めて低く、燐寸の小賣は小箱を單位となさず、小箱內の摺木一本を單位として賣買せらるゝが故に、安全燐寸は一箱を買入るゝに非らざれば點火するに由なきに反し、危險燐寸は何物に之を摩擦するも容易に點火し得る

が故に、此地方の需用に適恰せるなり。本品は殆ど本邦品の獨占なり。差當り敵手たるべきものを見出さず。昨三十九年中の輸入額に就て視たる全額九十三萬四千八百六十三兩中本邦品は實に九十萬九千九百四十八兩の巨額に上れるなり。

北清地方需用の絹布類は概ね蘇杭州産のものなりと雖も、本邦品の入込み得る餘地なしとするは誤りなり。本邦にては絹布を使用するは贅澤なるに似たれども、清國にては然らず其驕奢を示さん爲には男子は高價なる毛皮を用ひ、婦人は金銀寶石寶玉を用ゆるなり。現に英獨佛諸國より輸入の精妙なる絹布は上中流の男女、妓流の間に愛用せらるゝなり。此際切に日本絹織業者が奮勵して清國人の嗜好、風俗を査覈し、精巧優良なる絹製品を輸出せんことを希望するものなり。

紋様は左まで著しき流行もなく、又流行の變遷少きも、又新模様なきにもあらず。男子は大柄、女は花卉の小柄を用ゆ。横縞は絶無なり。重なる模様は蘭、竹、菊、水仙、薔薇、秋海棠、牡丹、桃、蓮等の花卉類、雲形、萬壽、鸚鵡、鶴、蝙蝠、蝶等にして、或は花卉と禽蟲とを取り合せたるものなり。

絹布を使用するは中上流者なるが故に、必しも價額の低廉なるを要せず、要は品

質の優良、技術の精巧なるに在り。

清國人の用ゆる帽子及び靴には凡べて黒繻子を張れり。皆絹繻子なり、然れども實用上必しも絹繻子を用ゆるの必要なく、本邦産の絹綿交織ものにて毫も差支なし。左れど本邦品は之に厚味と光澤を加ふる爲め黒鉛（ブラックレット）を加へ、又護謨（トラガントガム）を塗布しあるを以て、糊附悪しく、帽子靴等に張り附くること困難なり。故に此等の用途に仕向くる爲には黒鉛と護謨とを一切取除くに於ては、實際の需要は今より二十倍の輸出を見るに至るべし。

海産物……清國人は亦我海産物の消費者なり。其の食卓に上る海産物は海參、昆布、寒天、鱶鰭等なり。昨年中の輸入高は海菜二萬三千百五十八兩、鮑四千二百八十四兩、海參十四萬二千五百三十二兩、寒天三萬三千四百九十五兩、鱶鰭十一萬五千百八十六兩及び昆布二十四萬四千四百六十四兩なり、多くは本邦品と見て大過なし。

化粧品……白粉は本邦品の獨占にして又齒磨粉も漸次賣行を增し來れるも香水と石鹸とは香氣の點に於て到底佛埃獨品に敵抗する能はず、原料、裝飾の點

に關しては改良の上競爭の餘地ありと雖も、香氣に至りては終に模倣するさへ困難なり蓋し北淸地方の如き陰霽にして四周の光景不潔汚穢なる處にては强烈なる放香物にあらざれば爲に心意の爽快を覺え難ければなり、香水は安物の外賣行なし、但し這は雜用に使用するものにして、香水として用ゆるには非らず。

石鹼も亦安物及び洗濯石鹼の外賣行なし。

玻璃製品

玻璃製品……最も廣く消費せらるゝは洋燈なり本邦品は一時氣受好く、盛に賣行き居たるも、獨逸品の市場に立現はれし以來價格安きも脆弱なりとの非難ある本邦品を壓倒せんとする勢あり、獨逸品は價格稍や高きも品質堅牢にして外觀美麗なり、發售の途擴展する所以なり、此外、器物としては、皿、小鉢、菓子皿、盃、花瓶、水瓶、水呑等の賣行漸く多し、色繪を附けたるもの又は淡紅色、褐色のものを好む、又一般に鏡を愛好すること甚だしく、齒粉の箱にも石鹼箱にも、置時計の臺にも、殆ど何物にても用ゐ得らるゝ限りは鏡面を用ゐ居れり、特に室內の裝飾用として用ゐること多し、華美精巧なる花模樣磨り模樣を施せるものを愛好す。

天津輸入の磁器陶器は精粗とも江西省景德鎭及び其附近地方の製造に係るもの

陶磁器

のにして、此外直隷省內の大名府、磁州、祑禮、琉璃馬頭等の各地に於ても、皿茶椀等の粗製品を製造するものあれども、此等は下級人民の需用するものなり、中等以上の社會にては江西省產のものを用ゆるを以て日本製陶磁器の入り込み得る餘地は精製品に在るなり。

景德鎭よりは水路民船（ヂャンコ）にて鄱陽湖を横ぎり、九江に出つ、此間四日乃至七日を要す、之より汽船に積込み、長江を下りて上海に出て天津行の汽船に轉載するなり、右の如くなれば輸送に際し勘からざる費用を要するのみならず、途次數多の厘金局に於て課稅せられ、上海に於ては輸出稅、天津にては輸出稅の半額を納入するを要するを以て、原產地より天津に至れば價格は原價の二倍に達することあり、本邦品の之と競爭し得るは此の點にあり、景德鎭等にては從來上等の陶磁器は格安に製造せられ居たるも、近來同地方の窯業甚だ振はず、技術拙劣となれり、需要多きは主として日常用の飯椀、茶椀、皿及び小鉢類なり、花瓶、置物等の裝飾品も亦多少の需用あり。

陶磁器の模樣、色合を略記すれば、多く用ゐらるゝは、白地に福壽の二字、蝙蝠、桃、石

櫃、八仙、五雲、琴棋書畫及び梅蘭、竹菊、四君子、蓮花等の模樣にして五色を以て彩色す、此の外、純紅、純綠、純藍と稱し、他色を混入せず、單に紅、藍、綠のみにて畫けるものあり、又暗色と稱し、青地に白地の花鳥等を浮出に燒出せるものあり、此等は重に花瓶痰盞等に多し、尤も近來盛に賣込まるゝ本邦產花瓶には金色、朱色の派手に美麗なる畫模樣あり、

清國人は本邦人の如く其の人口多き割合には多額の陶磁器を消費せず、蓋し(イ)陶磁器を貴重するが故に取扱丁重にして破損すること少く、(ロヒビ入、缺損には一切無頓着に旦つ燒き繼きに巧妙なること、(ハ)下級人民は勿論上等社界と雖も、本邦人の如く各種の品物を多數使用せず、特に下級人民は一椀にて日常の用途に供し居れるに由るならん、

陶磁器は厚手にして火力の充分なるを必要とす、清國人は平常冷水を飲用に供することなく、又飲食物とも必ず煮沸するを以て火力不十分のものは熱度に堪えざる恐れあり、又清國人は座臥凡て椅子卓子を用ゆるものなれば、器物の顚覆、墜落せざらんが爲め、糸底の可成大にして卓上、臺上の据わり良きを可とす、

本邦產陶磁器の北清地方に輸出せられたるもの一昨三十八年中には僅々六萬三千圓に過ぎざりしが、昨年には十七萬圓に進めり、猶ほ本品は今後十分發展の見込あり、

玩具は大部分は本邦よりの輸入に係るも、近來漸次獨逸品擴展の樣模あり、多くは葉鐵製のものなり、清國人の食料は多く脂肪性のものを用ひ、食器家具家什油染み易く不潔になり易し、故に凡べて洗滌し易きものは實用向なり、玩具に於ても亦然るなり、又清國人は一般に賭博心射倖心强きが故に、兒童の遊戲にも賭博的玩具を製造するは尤も妙なるべし、畫模樣を附する場合には、圖樣、意匠等總て日本式なるは無意味なるが故に一切之を避け、支那的の人物、景色を用ゆべし、本邦產人形類の玩具は室內裝飾品として賣行あり、

漆器は本邦產輸入雜貨の重なるものゝ一なり、圓卓、方卓、盆、額屏風箱等は上中等社界に顧客を有し、將來賣行增進の見込ありと雖も、北清一帶空氣の乾燥甚だしく龜烈解烈を生じ易きが故に肝要なる部分だけを布張りとなすの要あり、

時計……懷中時計は龍頭卷よりも鍵卷を好めり、堅牢なればなり、一般に之を愛

用するものにして僕童使丁輩に至るまで之を使用し居らざるはなし實用といふよりも見榮となり居るなり

時計は多くは置時計にして懸時計は遙かに少なし亦室内裝飾の要具にして一室内に數多の時計を配置すること珍らしからず金色花やかに裝飾せる格安物多數の顧客を有す之には獨逸品の競爭あり獨逸は堅牢を以て勝り本邦品は廉價なるを以て勝れり

文具房……數年以前より直隷全省に對し日本式普通教育制を實行したりしより各種の學校全省各地に起り今日に於ては各種學生の員數無慮十二萬名の多數になりたる爲め兩三年以來手帖卷紙封筒鉛筆石筆石盤白墨墨汁等の好き各種文房具の賣行日を遂ふて增進し掛額(産地京都岐阜)提燈は裝飾を兼ねたる實用品にして賣行年を遂ふて增進し居れり

掛額(産地京都神戸)も賣行盛なるものにして挿繪は綿入天鵞絨の山水花鳥を主とし水彩畫寫眞畫之に次けり小なるは四五十錢より大なるは十圓二十圓のもの亦相當なる賣行あり花簪及リボン(産地大阪京都)は晩近頓に需用を增し花簪は下等品より

東京産雑貨は西洋雑貨に代らんとす

革製品……上等品又地味なるものより派手なるものをよしとす革製品(産地東京大阪)の中需用廣きは手提折革鞄及錢入等にして洋靴は小兒向の外賣行なし

印材……用の途廣し清國人は如何なる書類にも捺印するの習慣あるが故に何れの社界にも需用多し種類は象牙製のもの最も多く水晶水牛之に次げり

扇子、扇圖……(産地京阪神)は需用甚だ廣し夏時は納涼用のみならず一般に帽子を用ひざるが故に外出の際翳して日傘代用となすなり扇子は紙張團扇は絹張のものを可とす

洋傘……(産地大阪東京)は需要甚だ多きものにして毛繻子張を第一とし絹張之に次けり

眼鏡……は一般に多く之を用ゆ概して色物なり又は兩側に細網を張たるものにして塵除け日光除けなり

此外家具家什寢室幷に客室居室内の用品裝飾品とも一體に西洋風のものを採用するの傾向を生し居れるが故に何品に限らず新奇實用品を案出製造して之を仕向くること肝要なり

從來西洋雜貨は天津の土着商人上海に出てゝ仕入れ來りたるものなりしが昨秋以降著しき傾向として玆に記述し置きたきは此等の西洋雜貨に代りて東京

本邦品の終に競爭し難き商品

雜貨の漸次愛用せらるゝに至りたる事是なり。蓋し西洋品は高直、而して東京品は西洋品に比して、外觀實質とも劣ること少きに直段格安なるを以て自然賣行易きが爲なるべし。

今日迄の處、西洋雜貨商は土着商人の己が店頭に來るを引受けて商ひ居たるものなりしが近來土着商人の寄り付き惡しきを見て競爭を思ひ立ちたるなるべし、急に從來の態度を一變し、清國人番頭を手先に立てゝ親ら注文を土着商人に求め、又直段從前は直段を一定し固守して下さず」を引き下け、以て切りに本邦品と相爭はんとはなし居れり

此の趨勢は最も快心の事に屬す左れど大切なる危機に逢遭し居る覺悟するの要あり。眼前の小慾に迷ふて此際聲價を墜す如きことあらば、折角の好勢力好傾向も挫折して容易には恢復困難なるべし。戒めざるべからす。

本邦品の前路に立ちて未來永却の敵手たらんものは獨逸商人及び獨逸品なり。目下の處到底獨逸品に打克ち難き商品は金物類なり。薬鐵製之に琺瑯質を內面に塗れり)の盆、皿、水呑、洗面盥、鍋、湯沸し、釜、安物の時計鎖、ナイフ、スプン等なり。

此外、清國人は放香の强烈なるを嗜むこと甚だしきか故に、化粧品中、香水と石鹸とは香氣の點に於て到底佛蘭國製品の敵にあらず、香氣は此等のものに似寄りたるものも本邦にては製出すること能はさるなり。

北清の商業

終

第一　北清商人を論ず

支那人は一見したる所、黠詐背信、平氣に食言し、虚言を吐き、毫も信賴すること能はざるべき人種なるが如く思惟する者ありと雖も、他は多く吾の語らんとする所にあらず、唯だ吾の觀たる支那商人に於ては、其大に然らざるを信ずるものなり。商人間に於ける道德の發達せるは極めて顯著なる事實なり。彼れ節慾克己、飲食に耽らず、日常の生計費を節約し、成功を急がず、自制の念强く、以て有り得ん限りの誘惑を斥け、又勤勉堅忍にして能く如何なる障害にも、又如何なる困難にも堪え、成功の爲には如何なる屈辱をも忍ぶ迄の沈勇と膽略あるものなり。

彼等仲間に於て信義を持することの堅固なるは、傳へ聞ける我が古武士の其にも似たるものあり、信義に背くに於ては、人中に於て御笑下されたしと言へるが如き床しき所あり。彼等は能く信用を重んじ、面目を重んじ、廉恥を重んじ、然諾を重んじ、一諾千金より重きを常とす。這は政府の實力薄弱にして保護を依賴す

必しも高尚なる道義の觀念より來りたるには非す

信義を重んじ諸事簡捷輕易を尚ぶ

るに値せざるを以て、同志同業相頼るの結果なるが如し必しも高尚なる道徳的觀念の發作に非ずして利益自衛の爲めに餘義なくせられたるものなるやに思はるゝなり

任他、彼等商人間の關係は互に其體面と信用を重んずるが爲に維持存續せらるゝものにして、商取引上の紛擾も概ね圓滑に示談を遂げ、訴訟沙汰となること勘し其理非を法廷に爭はんにも法廷其物が甚だ信頼するに足らざるべき爲ならんも、這は主として彼等商人間に於て多年養成し來れる美徳の致す所なるなり。彼等の商務に暢達せるものは意氣概ね豪放豁達にして商取引に於て種々煩累なる形式を用ふるを好まず、專ら信義に據りて決行何千何萬の金高にても、商人仝志の間に之を受授するに當りては、證書印章等と騒ぎ立つる事なく、一片の紙片に後日の記憶の爲に、簡略に其旨を記錄し、以て雙方安心して取引し居れり、又彼等は多くの場合に於て口頭の約束のみにて安意商事を決行し、契約に商議に凡へて繁密を避け、力めて簡易撲實を主とし小六ヶ敷契約書などを取換ふるが如きことなし、特に大商人に至りては信義堅く、信用を重んずること一段高きも

帳簿の證據力強大なり

敦厚質朴なり

のなれば、彼の形式に拘泥して事毎に煩苛なる手續を要する西洋商人を對手とするよりも、寧ろ此等清商を對手とするの確實なるを見るなり、本邦商人の取引約束の動もすれば規則に拘泥し、手數の紛雜なるには簡捷輕易に慣れたる清國商人をして往々厭惡の念に堪えさらしむることあり。

清國商人間に於ける帳簿は極めて有力なる證據力を有するものにして、自己の利益の爲めに自家備付の日記帳を援用して自他毫も之を怪まず、例へば賣方は二百圓の賣懸金ありと主張するに當り、買方は自己備付の帳簿百八十圓の借入れあると記入しある時は、買方は之を唯一の證據として賣方に抗辨するに於ては、賣方は直に之を承認して復多く爭はざるを常とす、而して雙方の帳簿の記入高に相違あるときは、其孰れが賣方買方たるに關せず、又其孰れが權利者義務者たるに關せず、比較的大なる商人の帳簿を以て證據とはなすなり

右の如く、清國商人の行り方は我舊時の大福帳時代の商人の其れの如く、敦厚素朴の所多きも、近來諸外國商人幷に他省商人の入り來れる者多きが爲め、從來水入らずの內輪同志の間に行はれし商業上の美風美徳漸く侵害を受け、動もすれ

ば文明的惡風の感染を受けんとするの傾向なきに非らず、顧ふに風紀の開發、外來事物の內進に伴ひ、古來傳襲の美風も多少の侵害を受くるに至るべき歟

彼等の固陋にして移り難きことの甚だしき實例は猥りに新規の賣主を對手とするを好まず、貨物如何に良好なるも、又如何に格安なるも、新店新賣主とは容易に取引するを肯ぜざるなり、故に新に開業せる者が、彼等に賣買を開始し得意となし得る迄には、多少の年月を要するなり故に最初より容易に近き易く、取引し易き向は概ね第二流三流以下の商人なるなり、多少の危險は此時に伏在するに留意するを要す、猥りに賣込先を求むるの餘り、仔細に對手を選定せずして、信用薄く、基礎の薄弱なるものと關係を結ふことなき樣心懸くべし

右の如くなれば、當方の信用を賣込み雙方安意、取引を開始し得る迄には、多少の歲月と困難とを經るを要すと雖も、一度信用を得たらんには、甚だしき事情の無き限り容易に渝らざるを常となすが故に、商賣の對手としては却て爲し易き所多し。

彼等は一般の人事に於て諦めよきが如く、商事に關しても亦諦めよきものなり。

猥りに新店と取引することなし

貸金損害賠償等の如きものにても、到底取立て得るの見込無しと視れば多く之を追及せず、善き程に見切りて之を斷念するものなり、故に一と度信義に背きて他に迷惑を懸けたらんには、爾來之を排斥して寄せ付けざるなり、從つて容易に之を恢復し難きを以て言ふ迄もなき事ながら、眼前の小慾、鼻先思案に拘りて永遠の利益を失はざらん樣注意するを肝要とす。

政府官僚の保護に依賴すること少なき彼等支那商民等は、皆各獨立自治の氣風を養成し、同鄕者又は同業者相一致團結して、到る處會館公所を設置し以て各自の名譽利益の保全、相互の扶助救濟を爲し居れり。會館は同鄕出身者の俱樂部にして社交若くは人事に關する一切の事務を管理執行するものなり、又公所は地方的性質のものにあらず、同業者の商業會議所なり、小事に就ては毎に多く拘はり居らざるも、大問題の起るに逢はゞ直に大なる勢力となりて行動するものなり。北方の商人は敦厚固陋にして總て輕薄浮誂の跡なし、彼等は同鄕人と相賴ること厚く、容易に他鄕人と相容れず、從て天津地方にては土着の商人多く、他省人としては山西の票莊及び若干の山東商人あるに過ぎず、又他省人の此の地方に

會館、公所

敦厚にして輕浮の風少し

同郷人相頼る

内部の機密外間に洩れ難し

來りて就業せる餘地少なきが如し。此の地方の商人が今尚古來の美風を傳襲し居れるも之れが爲なるべし

內地顧客の天津に來りて貨物を買入るゝに當りても、能ふべき丈け同郷出身の商家と取引するを常とするを以て、此の地の商人は各特定の得意を有し、自他其勢圏を守りて相侵すが如きことなし。又見習丁稚其他の店員を傭入るゝに當りても、同郷者若くは親戚の者を選ぶが故に、一商家の內部は全く內輪同志の寄合の如く、組織甚だ鞏固にして內部の機密は他に漏洩することなし強ひて包めるには勿論之れあらざるべけれども、清國商人の內情內幕は容易に外間に於て測知し難きものあり。懐合の遣り繰り算段、內所の火の車は仲間同志にさへ知れ難ければ、外國商人には勿論分明する筈なく、愈破綻して到底持ち切れざるに至る迄は、內情の外部に暴露せざるを常とす。外國商人の病むは此點にあるなり。

當國商人の大多數は掌櫃的(支配人)商賣にして、自己營業即ち東家(資本家)自身の營業にあらず。資本家自身の營業ならんには、苦悶は人情上自然外部に現はれ易きも、支配人營業なるが故に、其外見擧措等にては內部の苦悶容易には察知し難き所あるべきなり。且つ彼等清商は一體に終始外商に迷惑を懸けざるべき決意なるが故に、自から恃むこと深く從て心強く振舞ひ居り、惡びれたる擧動なきを常とす。內情の外部に知れ難きは右等事情の爲ならずやと思はるゝなり。

仲間同志の關係密接なり

任他、彼等商人間の遣り繰り關係は極めて婉綾(アヤート)にして、其影響すべき範圍甚だ廣く、一商店にして若し倒産するが如きことあらば、連繫する處頗る大なるものなれば、直に仲間全體の破綻となるべきが故に、關係者四周回護して容易に之を倒さず、百方彌縫糊塗して事なきを得るが常なり。

官民の關係

當國に於ては官商の社會上の地位相懸隔せること甚だし商人にて位階を有する者に非されば官吏と交際すること能はず、否らざる者は官衙に出入し、大人格(高等官)以上の官員に面接すること困難なり。官商一堂に會食會談するが如き機會なし

之れに反して大なる日本商人及其他の外國商人は自ら標榜すること高き爲め、清國人の視たる社會上の地位遙か高く、道台格以上の高官と對等に交際し居れるが故に、彼等が土着商人と取引するに當りても、每に對手の畏敬を受け商事は

勿論、諸事便利を得ること多し、故に外商の此地に處するや、須らく其體面を張り、宏大なる店舗を構へ、壯麗なる大厦に居住し、能ふべくんば馬車にて乘り廻す丈けの權略の必要なるを心得置くを要す、事些末なるに似て而して大に然らず、由來儀容を尚び外觀を修飾することを最も多く力める清國人を對手とし、各外商と並び立たんものゝ大に顧慮すべき點なりと思料す、現に某々商人にして單に店懸りを改良し、外容を壯麗にしたる爲に、著しく客足を惹き、賣上高の著しく增進したる實例乏しからざるなり、故に徒らに見榮を張り、外見を誇耀し、或は過分の營業費生計費を消費するは固より深く避けざる可からずと雖も、適當の程度に迄其行住座臥の度を高むるは戰ひの道を知れるものと謂ふへきなり。

日、英、獨の三國商人最も優勢なり

第二　天津に於ける外國商人

天津に於ける外國商人中最も優勢の地位にあるものは、日、英、獨三國の商人に過ぎず、米佛以下の商人は以上三國の商人に比すれば其勢力微弱なり。

英國商人は滿心愉快の氣味あり

英國商人は久しき以前より此の地方に優勝なる地歩を占め居れることとゝて、其實力甚だ大なるものありと雖も、漸く已に老境に入りて適往敢進の氣慨に乏しきが如き觀あり、彼等は自ら特むこと厚きに過ぎ、動もすれば他國商人を輕侮して、能く何事をかなし得んやと、妄りに他を蔑視し居るにあらざるやと思はるゝ節あり。

日本商人

彼等の行り方は殿樣振り、坊チャマ振りにして、熱拳勤勉の美質を喪ひ、實務は多く買辨に依りて措辦し、徒らに社交上の快樂を貪り、庭球、乘馬、遊獵、競馬等の遊戲競技に熱中するに過ぎ、其の勤務時間の如きも甚だ短く、加ふるに藉口し得る限りの理由を以て、休業すること頗る多く、夜に入れば、概ね倶樂部に參集して玉突飲酒に耽り或は賽子畫牌を弄して深更に及ぶもの尠からず、要するに行往座臥大に奢澤に過き、偸安苟且の慊なき能はず、此の如くなれば、少なくとゝ北清地方に於ける英國商人の前途に關しては、吾は多く進境あるを認むる能はざるなり。

日本商人の多數は概ね北清事變後の渡來者に屬す、爾來年所を經ること未だ久しからざるも、其振暢躍進多く人を驚かしむるに足るものあり、這は畢竟輓近に於ける本邦の產業の著しき進歩と、一般商工業者の奮勵に職由するものなり、然れども此一小成功に安んせず、更に進んて清國の國情と住民の好尚、性情、習慣、風

俗等を巨細に調査するに於ては、從來已に賣込み來たる貨物の販途を擴進し、又新貨物の售路を贏ち得べく、以て他外國商人の勢圈を侵蝕し得べく、以て在本邦清國商人の爲めに專占せられ居たる商權を恢收し得べきを以て、本邦商人は將來多大なる發展の餘地と、又有望なる前途を有するものなるを信す。切に更に一番の奮進を希望す。

獨逸商人

此時に當り本邦商人の進路に立ちて、當面の敵手たるべき外商は實に獨逸國商人なり、彼等は熱烈なる氣魄に富み、各方面の經營、慘憺を極め居れり、或は團體又は箇人の手に依りて、本國より遙かに專門の技術家、堪能なる視察員を清國各地に派遣して、細かに該國住民の需要品に關する要請の條件を調査し、直ちに之れに進の科學と、意匠とを適用按排して製作せる貨物は、着々奏效著しく、他國製品の販路を侵略するもの、月に年に漸く甚だしきものあり、彼等は概して業務に忠實、勤勉にして夙起業に就き夜に入るも往々執務することあり、夫の英國商人が主として、買辨に賴りて業務を措辨するに傚はず、自ら支那語を修得し又努めて清國人と親交を結び、其性情風俗を研究し、製作品の改良、商品の售路、商權の擴張に腐心して唯た及はざるを恐るゝに似たり、其製作品の品質概して良好にして色合、模樣、構造總て清國人の好尚に適合し、且つ堅牢にして耐久力大なり、故に價格は本邦製品に比すれば多少高直なるも、英國品に比すれば低廉なるを以て、漸次英國品を市場より驅逐せんとする趨勢あり。

獨逸銀行の營業振り

私かに想ふに、獨逸商人の勢力發展の顯著較大なるは以上の事情に職由するもの、なりと雖も、彼等の資力豐裕にして、且つ其背後に立てる獨逸銀行の措置、商略の宜しきを得居れるに因由すること甚だ尠少ならざるが如し

獨逸銀行の自國商人に對する營業振りを視るに、對人信用を利かすことの程度、遙かに他國銀行が各自其自國商人に對する其よりも遙かに大なるものあり、卽ち貸付するに當りても、必ずしも對物信用を主とせずして、存分に對人信用の程度と範圍を擴張し、仕拂滿期日に至るも概ね手を緩めて煩苛なる督促を行はず、又荷爲替に關しても能ふべき丈けの猶豫を與へ、以て自國商人をして十分の遣繰と、融通の餘地とを得せしむるを力め居れるが故に、彼等が賣込先なる支那商人に對する貿易代金の如きも自然之を嚴重に催促するの必要なく、先方に於て

相當の延滯利子を仕拂ふに於ては、出來得べき限り之を延期し得るなり、從つて清國商人の彼等に馴れ附き、他の外商の手より離れて、頻りに彼等の門に趨らんとするに至るは自然の情勢ならずや

天津貿易の進暢從つて直輸出入貿易の增進せるは、米國との輸出入貿易の增進に由ること多きは疑なき事實なり、而して此等の貿易は主として獨逸商人の取扱に係るものなるに想到せば如何に彼等の勢圈の廣く、且大なるやを想像するに難からざるなり。現に彼等の取扱へる貿易高は天津港輸入の六割、輸出の四割半、全體の貿易高より視て、實に五割半に當れるなり

之を要するに、英國商人は積漸の勢を以て勝り、本邦商人は地理相接近せると、生活狀態の相似たるとの强味を有するを以て勝れるもの、獨り獨逸商人に至りては、健鬪奮進倒るゝも止まざるの氣魄を有し、突往邁進し居れるを以て、之を對手として決戰すべき運命を有するなり。本邦商業者は須らく一段の覺悟と奮勵を要するなり。

第三　清國人を論ず

第一節　支那人は個人本位の民なり

觀察の方法に由りては支那には家ありて國なく、社會あるも社稷なく、家族あるも國家なしと謂ふべし這は建國以來の政治方法と歷代王朝興亡の跡より視來は大なる不可思議とも思はれざるなり。

無爲にして化すなる政策は古來甚だしき改變なく實行し來れるものなり、支那人は由來自治の民なり、世界何れの國の人民よりも恐らくは自治に適せる人民ならん、彼等は政府の保護干涉を受けず、又成文の法律こそなけれ、各市町村落に於て住民各自相團結して自治自衛を營み來れるものなり、彼等は獨り政府に保護を依賴せざるのみならず、却つて往々政府の保護干涉を迷惑視し、厄介視し居るものなり、彼等は一定の租稅と庸徵とを政府に上納するの外、多く政府と相涉ることなく、上下數千年、無事に、平穩に、完全に自衛自治し來れるなり、此間に於ける王朝の起落、人種の隆替の如きは彼等の多く關心する所にあらざるなり。

加之、年代を歷ること久しきに亘れる間に於ては暴君虐主の出つること多く、奸官汚吏亦甚だ尠からず、故に人民は王室官吏を迷惑とし厄介視するこそすれ、毫

も之に頼らんことを思はす。何人が起ちて政權を秉らんも、實際に於て彼等の多く與かる所にあらす、又與からんとするも能はさる所のものなり。彼等は唯自己の力に頼りて自立自營するの外なきなり、自ら特み、自ら賴るの外なきなり。彼等か相率ひて個人主義となり、家族主義となり、利己主義となり、射利主義となり、自己以外の天地の如何に成り行かんも、多く之を顧慮するの餘地なきは、強かち咎め立てすへきものに非さるなり。

已に個人本位、家族本位なるに於ては、孝ありて忠なきは何等不可思議の事にはあらさるへく、彼等の多數が國家起落興廢を視る、猶ほ秦人の越人の肥瘦に於けるか如きも寧ろ當然ならんのみ。彼等は絶對に奉仕し歸嚮すへき國家の中心點を有し居らさるなり。此時に當り「二十四郡一人の義士なき」を咄つは迂愚の極ならすや。

彼等は概して殘忍酷薄にして愛他心なく、同情少く、公德心なきを常とす。是れ專制政治の產物たるなり。以上說ける所の如く彼等は個人主義と家族主義とを以て一貫し來れるものなり。修身、齊家の教誼に則ち或は之を遵奉し居らんも、社會生

活、共同生存の準繩と敎訓とは未だ曾て之を受け居るを知らさるなり彼等が公共の利害を考察するの觀念と思想とを缺き、且其無規律、無秩序不取締なるは畢竟前述の事情と理由とに因れるものなるへし、

此種の人種によりて鞏固確實にして秩序あり節制あり紀律ある國家の成立せんことを望むは豈難事ならずや

第二節　團結力鞏固なり

政府は由來民の休戚を以て必すしも念となさす民業の如きも多くは其爲すか儘に放任して毫もこれを指導保護するか如きことなし、啻に之れなきのみならす、心得違ひの官僚の爲めに民業は往々にして却つて迫害を受くること多し之か爲めに贏ち得たる美果は、支那人間の團結力の鞏固なること是れなり、彼等は日本人に比して其團結力甚た鞏固強大なり、一見個人主義と相容れさるか如きも這は畢竟政府の賴むへからず、自衛自主の外なきより餘義なくせられたる結果なるなり。支那累代の政治の性質上、自然人民をして團結自衛の必要を生せしむるに至りたればなり。

就中商民は其財產と利益を保護するの要他に勝りて甚たしきものあるか故に到る處同鄉者同業者相團結して總般の外部的壓力に當らんとするなり、全國各處の都市に何々會館何々公所と稱するものゝ存立せるは之か爲めなりとす。會館は同鄉者間の自治自衛機關にして冠婚葬祭より日常各般の事務を處理綜攬し居るなり、公所と稱するは同業者の組合なり、小事に就ては多く與かり居らさるも、一旦事起るに至らは其團結力甚た鞏固にして勢力亦侮るべからざるものあり。

此等團結の勢力甚た強大なるか故に、地方官と雖も團體の承認せさる所は敢て之を強ゆる能はす、個人亦團體を離脫して獨り事を行ふこと能はさるなり。

第三節　組織的能力に乏し

清國人は非數理的にして推理考察の力なく、最も組織的能力に乏しきか如し、兵備、財政、經濟、司法、警察、教育、工業等の如き各般の大規模にして複雜なる事務事業は到底彼等に於て完全に之れを施行し經營する能はさるものなり、大仕掛なる事業の背後に、外國人の執行者顧問技術家あらさる限りは成功覺束なきなり。

冠上冠を戴き、屋上屋を設くるか如き冗漫なる制度を襲用し、政務擧らす、治蹟見るへきもの少く、紀綱張らす、司直執法の官司重複矛盾して私曲行はるゝこと多く、又財政經理の混沌雜なるか如き、孰れか清國人の組織的能力乏しきの致す所ならざらんや。

夫の關內外鐵道の成蹟良好にして逐年利益を增進し、其餘力を以て他に移し得るに至れるが如き、關稅收入の確實鞏固にして目下唯一有力なる政府の財源たるが如き、北洋兵備の大に充實して威容實力の大に見るべきものあるが如き、北京及び天津の警察制度の完備して全國の模範たるか如き、又直隸の教育制度の基礎鞏固にして完成に近からんとするが如き、孰れか是れ外國人の背後に在りて之を指導經營するの致す所ならざらんや、目今彼等の多數か附和雷同して利權回收の聲を高め居れるは、思はさること甚しき丁見違なり若し果して彼等の期待せるが如く自國人の手に由りて礦山鐵道稅務等の如き事業事務を行ひ得るに至らは折角築き得たる基礎の之か爲めに崩壞するに至るへきを恐るゝものなり。

現に專ら清國人のみの手に由りて就工中なる京張鐵道の成蹟兎角に捗々しからざるを見ても、思ひ半に過ぐるものあるべきなり。又開平礦務局の事業が理想の如く進捗し得さるは、清國的要素の毎に外國的要素を、掣肘杆格するの致す所ならさらんや。

建國日已に久しく、國富み民衆き清國に於て、產業の振はざる、商工業の隆盛ならざるは、經濟上の組織的能力欠如せるの致す所なるべきなり。彼等は個人として若くは數人の合本合資の利殖的經營には堪ゆへきも、少しく大仕掛の株式的組織の事業は、其到底背負ひ切れさる所に屬す。是れ清國人限りにては大規模の法人成立せす、又之を目論見るものなき所以なり。若し萬一之ありとするも、外國資本家は勿論、內國資本家の之に投資するもの更に之なかるへきを信す。且つ從來清國に於ける公債募集の歷史を視て知るへきなり。

第四節　自尊心強し

自負自尊心強き支那人種は一切の外來事物に對し、支那的眼光を以て、支那的見地より之を觀察し、批評し、支那的方法に據りて之を研究するものなり。故に外來の事物の如何に善美ならんも、苟も自國固有の風俗習慣嗜好人情に背反するが如きものあらば、容易に之を採用するを肯ぜざるなり。左れば外來の事物は支那人種の前には、絕對の實利實用なきなり。唯だ彼等固有の好尙習俗に牴觸せざる限りに於て、始めて善美となり、始めて實利實用とはなるなり。故に完美なる事物と雖も彼等に對し巨細に之を研究考察の餘地を與へず、直に其採用を求むるは至難の事に屬す。

最近數十年來、幾度か外國の征服を受け、幾度か厭抑を受け居れるが故に、自負自尊心強きこと彼等と雖も、外來事物の自國の夫れに優れ、勝れるもの多きを認めざるにはあらず、又猥りに泰西文明の內侵を排斥せんとするものならざるが故に其判斷と觀察とに任せて、除々に、氣長に其採否を決せしむべきなり。何れの時何れの場合に於ても性急に其採用を迫らば、成功覺束なきを免れざるなり。

日清戰役、北清事變、滿州事件及び日露戰役以來、痛く其自尊自負心を損傷せられたる結果、政治上の施設に於ても、泰西文明の輸入に腐心し、又社會上に於ても亦同じく西洋生活方法に傾歸せんとするものゝ如し。從來九重雲深き所に在りて、

泰西の事物に接觸するの機會を得る能はざるなりし北京宮廷より下りて大官高吏に至る迄、北清事變の爲に始めて親しく泰西的事物に接觸するの機會を得、爾來除々に而かも確實に、其風氣好尚を啓發し、制度文物より衣食住の方法の如きものに至る迄、漸く改變を受けんとするの傾向あり。

第五節　利慾の念のみ盛なり

清國人は概して利慾の念熾盛なる人種なり、利害の計算には極めて鋭敏なる人種なり、損得利害の外、多く痛痒を覺へず、之れが爲には公事を以て私に徇するを忍ぶものなり、誇張して曰はゞ我利あるも公利なく、私得の前には公事なきなり。其思想の低卑にして吝嗇なるは他に多く比儔を見ず、利得のあらん所には、火をも水をも恐れざるなり、彼等は本來怯懦臆病なる人種なれども、利益の爲には强烈なる戰士たるべく、利は毎に彼等を動かす大動力たるものなり、彼等は社會を擧げて悉く拜金宗の信徒たるなり、其の役々の勞に由りて成れる利得は國の富を作るには稗益あらんも、國家の元氣を振興するには寧ろ損害たらんものなり。富者の贅澤は極めて甚だしく悉く王侯の驕奢を盡し居るものなりと謂ふも過

評にあらず、彼等は財を箇人的に散ずるものにして、毫も社會的公共的に使用するものにあらず、彼等の心靈は利慾心の爲に燃し盡され、高尚なる思想と超脫せる情趣の味ふべきものなく、平然として遊惰に溺れ徒らに肉慾を貪り居るなり。彼等唯一の希望は美服美食美女を得るにあるなり、唯だ則ち之あるのみなり。彼等には利害損得の觀念のみ蔓瀰し居りて、正者道理の觀念乏しきが如き姿あり彼等は才取し、上前をハネルことを以て上下とも罪惡と思惟し居らざるが如し、上は大臣督撫の大官より下りて諸ろの屬僚は、勿論、使丁隷僕の輩に至る迄、夫々其分に應して才取りするを役得なりと觀し、何等不思議とも、罪惡なりとも思惟し居らず、所謂上下交々利を征するを以て世の常と信し居れるなり。

彼等の社會を擧げて滔々皆な此の風を爲せる理に立てる支那官吏の金錢上の廉耻心に乏しきを批難するは苛酷ならずや、況んや彼等官吏の受くる表面上の俸給は其地位體面職責に對し不釣合、不權衡とも評し樣もなき迄に些少なるものなり、左れは他の何れの所に於てか利得を收むる處なくしては到底立ち行かざるべし、政府は公の秩序に害なく、一定額の課稅租徵を滯りなく政府に納する

に於ては、部下官僚の收斂を咎め立てせざるものなり。換言すれば始めより官僚の受負主義を容認し居れるものなり。

第六節　時間と勞力の實價を知らず

又彼等には時間の觀念なく、時間は如何なる場合に於ても彼等の間に在りては經濟的價値を有することなく、未だ曾て時の尚ムべき事を考慮の上に加へたることなきなり。今日にして若し已れに都合悪しければ、對手の迷惑不利益には一切頓著なく、平氣に之を明日にも、明後日にも延し居れるなり。時間の終始間斷なく、一分一刻と小刻みに刻みて、彼等を墓所に導けるものなるに氣付かざるか如く、明日も又今日の如く、明年又今年の如きものなるが如く想ひ居れるに似たり。時間の觀念なき程世に呑氣氣樂なる人種之れなかるべし這は彼等を對手として事を爲さんとするもの大に注意すべき點なり。特に性急短氣なる本邦人の往々事を誤れるは多くは之れに因由するなるべし。

彼等は自他互に勞働の經濟的價位を認めざるものなり。彼等は勞働を苦とせず。骨身をも惜まず勉強する民なり。切々營々日夕働きて倦まざるなり、故に生來器用巧慧なる資には非らざるも、其累積せる勞働の効力は甚だ侮るべからざるものあり。

從て彼等は時間と勞力の合同に因りて成れる財の價値を認むに完たからざるなり。是れ彼等の大なる强味なり、敢て之を長所なりとは云はず、唯た大なる强味なりとは曰ふなり。今の代今の時に當りて時間と勞力の價値を認識せざる程、世に强味を有する人種は之れなかるべきなり。

又彼等は如何なる苦痛難行にも耐へ、且つ其情慾を制抑するの力强く、一切の慾情を斥け粗衣粗食に甘んじて、多く不平不滿の色なし。是れ彼等が到處の出稼地に於て偉大なる勢力を作り得る所以なるなり。

第七節　事物の改良修正を肯せず

當國に於ては總ての事物は之れを創設するは寧ろ難事には非ざるも、一旦之れを創設したる以上は容易に之れを改變する事能はざるなり。新事物の輸入には困難を覺へざるも既存の事物を改良訂正するは困難なり。特に古より根底深き既成の制度文物方式方法を改變するが如きは殆んど至難の事に屬す

大は政府の組織より、小は家居衣食の方法に至る迄、一に舊慣を墨守して改變を肯せず總ての事物に對して改正修正を許さず、補綴修繕の如きも頗る難事たるなり、故に若し强て之を要むるに於ては舊來既存の物以外別に新に設立せるを常とす、同一目的を有する事物の、往々にして新舊兩々相並立するの奇觀を呈するが如きことあるは之れが爲なり

第八節　現在主義なり

清國人は創造力なく、又向上心に乏し、彼等は事物を進歩改善するに意なく、百年傳來の遺習舊慣を墨守して專心渝らざるを期せるものなり、彼等は唯父祖の遺業を傳ふれば可なるなり、何の必要ありてか之れを改善進歩せしむる事やあるべき、

彼等は何處々々迄も現在主義なり、今日主義なり、現在に活き、現在に死せんとするものなり、今日を愉快に無事に暮さば他に多く望む所之れなかるべきなり、現在主義を切實に訓へたる儒教々育の下に生ひ立ちし清國人種に於て、這は多く怪むを須ひざれども、其の餘りに物質主義、實利實益主義にして、萬事に現金なるを憾みとするなり、從て彼等は風流清雅の情趣に乏しく、趣味好尚の拙劣俗惡なるは堪えんとして往々堪ゆる能ざる底のものあるを免れず、

彼等の衣服家宅器物持物の色合模樣構造等に對する好尚趣味の濃重俗惡なる、到底數千年來の舊國の趣味好尚として受取れざるもの多く、清雅洒落の跡殆と尋ね得べくもあらざるなり、

第九節　經濟的見地より觀れば强き人民なり

支那人が實利實益を尚ぶ人種なり、無用なる華美を避けて實用實得あるを好むものなり、實益實用のある所、必ずしも其代價の高きを病まざるものなり、彼等は經濟なる語の眞意義を解せるものなり、如何なる品物も實利實益ありと視れば適實に相當代價と認むべき丈の代價を支拂ふて毫も吝かならざるなり、此點に關しては本邦人の往々にして一文吝みの百失ひたるの比にあらざるなり、

彼等は概して勤勉力行、儉約節欲にして忍耐力强く、且つ朴直敦厚なり、特に北方の農民に於て然るを見る、彼等は能く其職と其分とを守りて多く他を冀はず、堅忍不拔十年猶ほ一日の如く、苦難と相闘ふて毫も屈することなし、其の忍耐力の

強きは世界何れの人種に於ても敵たること能はざるべし

彼等の多數は簡易なる生活を營めるものなり。家室内を利用するに巧みにして、手狹き八家屋内に多人數同居し家具家什の如きも一種の物を以て多樣の用途に供し實用に妨げなき限りは妄りに無用のものを使用せず、毎に簡單なる生活を爲し居れるものなり。從て生活の費用甚だ底廉なれば、就れの家族内にても多數の隷僕を使役し居れり。

支那人は經濟に細き人種なり。廢物の利用に巧なる人種なり。彼等の眼より視れは絶て世に廢物なるもの之れあるべきことなし。石炭の燃し屑の内に、多少の可燃分を尋ね出して之を利用する迄に經濟に細き人民なり。牛溲馬勃敗鼓の皮もらず。

彼等の前には財物たり得べきものなり。彼れか如き人民の住める地に來りて一攫千金を夢みる可からず。勤勉節儉と忍耐とに因りて徐々に功を積まざる可からず。

家内族に在りても

第十節　雜件

支那人は單に國に對して個人本位なるのみならず、家族内に於ても亦個人本位

なるなり。表面家族制の形體を備へ居れども、其の實家長を以て家族を管轄せるにあらず。家長獨裁制にはあらず。父子兄弟各産を治め、明確に各自の財產を區劃し居れる全くの個人制なるなり。

支那は又た平等の國なり。人間間に夥多の階級あるが如しと雖も、其の實は全國を擧けて帝室と人民とあるのみなり。士農工商の別あるには相違なきも其の士と稱するものは畢竟するに農工商者の子弟にして學術に勉勵し、其他種々の方法を以て官仕せるものを指稱するに過ぎず。始より特殊なる階級の存在せるにはあらさるなり。門地閥閱に由りての區別にはあらず、何人にても官仕すれば則ち士たるを得るなり。所謂王侯相將何ぞ種あらんやなる國柄なり。

清國にては上下の兩階級あるのみにして、健全なる中等社界を缺き居れり。強て之を求むれば商人の社會こそ之に當るべきか。上下貧富の懸隔すること甚たしく、富者は生れながらの王侯にして貧者は先天的の犧牲たるものなり。彼等は唯だ營營せんが爲に此の世に生れ來りたるものゝ如く、能く艱苦に堪え、勞役に堪え些少の利得に甘んじ、一切の慰安快樂より遠ざかり、獸類と相遠からざる生活

亦個人本位なり

平等の國なり

貧富の懸隔甚だし

を營み、毫も不平不滿の色あることなし。

富貴社流の家居衣食の善美を悉くし、華奢贅澤なるには到底本邦上流社會の企て及ばざる所にして、必要とも思はれざる數十百名にも餘れる家從家僕婢女を養ひ、數十頭の馬四、十數輛の馬車を擁し、概ね多數の妾を蓄へ、多ければ多き丈け之を見榮として誇耀し居れるなり。

支那は禮儀の國なり

支那は禮儀の國なり、禮儀三千、威儀八百なる國なり、禮儀作法の嚴重なる國柄なり、其禮儀と稱するものも、外國人の眼より視れば多くは虛禮虛儀にして、精神なく、實意なき形式たるに止り、往々有らずもがなと思はるゝ節なきに非ざれども、本邦人の如き無作法、無禮節、無頓着に慣れたる者が、當國に於て自からを處せんとするに當りては、深く茲に留意せざれば、始めより寄せ付けられざるの不利益あり、故に馬鹿々々しとは知りながら、鄉に入らば鄉に從ふの覺悟なかる可からず、支那人は一體に威容と體面を重視するものなれば、假令己れの使役せる使丁僕童に對しても妄りに惰容を示して彼等の輕侮を招くが如きことある可からず。

彼等は酒を呼ぶも微醉に止め決して醉ふに至ることなし、泥醉亂醉等に及ぶは勿論殆ど之なきを常とす、未だ曾て街頭酒に醉ふて踉々する徒を見たることなし、故に並大體の過失は醉ふての上の無分別所業なりとして寬恕するに慣れたる日本人の、往々清國に於て過を招くは此點に在るなり、輕侮を受くるも此點に在るなり、

飮酒に耽らず

又清國人は腰部以下の肉體を露はすこと絕無なり、如何なる下級の人民苦力雜役人夫と雖も、盛夏燒くが如き季節にても腰部は勿論股脛部を露出することなく、裸足するさへ極めて稀なり

肉體を暴露することなし

清國は極めて女子を尊重する國なり、女權の強き國なり、或は西洋諸國にも勝りて尊重し居れるに似たり、妻妾同居、蓄妾の事實と主義兩立し難き迄に女權強き國柄なり、婦人の在る所は家宅内にても、鐵道停車場の待合室、汽船汽車の室内にても男子は避けて之に入らざるを禮とするなり、下流社界の夫婦喧嘩にも、夫は其の婦に對して手を下たすこと能はず、喧嘩は何時にても婦の勝利を以て結局するものなりと傳へらるゝなり

女尊の國なり

冠婚葬祭は丁重なり

冠婚葬祭は彼等間に於ては極めて丁重に扱ひ居なり、服忌の事は特に丁重なり。

早熟早婚なり

墳墓尊崇の一事に至ては極めて甚大なり。金錢貸借にも祖先の墳墓を書き入れしむれば最も確實なりと言へるなり、鐵道布設に際しても困難なるは敷地に當るべき墳墓の始末買收にあるなり。

彼等は早婚の甚だしき者なり、極貧者の外は二十歳內外の少年にして妻なきは少し、然らざれば貧民として社會に於ける地位低く、體面宜しからざればなり、彼等の概して早熟早成して稚氣少く、客氣頽氣に乏しく、青年にして已に老成人の風あるは之れが爲なるべし、彼等の意氣畏縮振はず、元氣伸張せざるは之が爲なるべし、又智識思想共に淺薄にして、而かも狡猾小利口になるも之が爲なるべし。

室內的生活を好めり

支那人は家內的生活を喜ぶものなり、這は外間の自然が戶外的生活に不快不便利なるが故の結果ならんも、彼等ほど室內生活を好むものなかるべし其家屋內に於て有り得る限りの肉慾と情慾とを滿足せしめる道具は完備し居るなり。

彼等の求むる所は美人の歡心を得るに在り

彼等の日夕求めて已まざるは美人の憐みを買はん爲には大金を拋つを吝まざるものなり夜間茶館(料理店妓館(藝妓屋)の繁盛なるは

目も醒めん斗りにして、深更に至るまで門前毎に車馬輻湊し居れり吾は獨り之を清國に於て怪むには非らざれども、故らに特記する丈けの價値はあるなり。

迷信强し

彼等は概して科學的智識に乏しく、從つて理解力少く、迷信深く忌み嫌ひ多く、愚にも付かざる事物に歡喜するかと見れば又馬鹿〳〵しき事柄に御幣を擔ぎ廻りて始末惡しきこと多し

浮薄輕躁なり

又淺智慧輕躁にして虛榮心强く、多くは外樣外見のみに泥づみ、浮薄輕跳なるを免れず、特に外國留學生の歸還せるものゝ如きは眞實に學業を研究したるは少く、概ね外樣を生呑みして最早や自分免許の大家博士を氣取れるなり、今後始末の惡しきは此の輩なるべし。

運命の前には從順なり

彼等は運命の前には從順なるものなり、已定の制度、習慣は如何に己れに不利不便ならんも詮なきことと諦めて多く之を爭ふを爲さず、抵抗し難き壓力、實力權威及び事實に對しては決して反抗するものに非らず、彼等は諦め能き所ある人種なり、始末善き所ある人民なり、死んだ兒の齡を數へ、失ひし寶を詮議立てするほどに往生際惡しき者にはあらず

第四　吾の觀たる滿州

第一　滿洲の富源は其の農産物に在り

人の滿州を視るもの、概ね重きを置くに過ぎ、豐富無限の利源の伏在し又有利有益なる大事業の起すべきもの甚だ多大なるを思ふもの尠からず、吾は聲の徒に大にして、實の之に伴ひ得ざるを慨みとはなすなり

關東州沿岸の製鹽業及び漁業、北滿州に於ける牧畜業、南滿州の柞蠶業、孰れも固より有利なる事業たるには相違なきも之を以て滿州の生命なりとなすは未だし。鴨綠江の林業大は即ち大なりと雖も、經營の方法如何に由りては、從來土民の手に由りて行はれ來りたるよりも多くの利潤あるべき事業とも思はれず、撫順煙臺等の礦業は鐵道當局者の賴りて以て無二の富源なりとする所なるも、有效に旦つ經濟的に之を經營せんこと甚だ容易ならざるべきを思ふ

吾の視たる所にては、其範域の普遍なる點より、量額の巨多なる點より、又根源の永久に亙りて確實不變なる點より視て、滿州の眞價即ち滿州の滿州たる所以の富源は前記數項のものにあらずして、北滿州太平原に於ける農產物に在るを疑

はず。茲に謂ふ所の北滿州とは鐵嶺以北を指示するものにして、政治的に日露兩國間に區劃せられたる北滿州の意味にあらず。遼東遼西の兩山脈は鐵嶺に於て急に相迫り、其の間纔かに遼河の流を通ずるに過ぎず、一たび此の峽谷を出でゝ北するに及べば、地勢地味急に一變し、所謂廣漠たる北滿州太平原を展開し來るものなり。

此の大平原は遼河、伊通江及び松花江の三大河盂より成れるものにして、遼河河盂約三千五百方哩、伊通河河盂約三千方哩而して松花江河盂約六千方哩合計一萬二千五百方哩の地は地味肥沃氣候稍や適順にして、各種農產物の生育に適し、年々の產額甚だ尠からず、就中小麥及び大豆は共に五百萬石を產出し、同地方農產物中の大宗なりとなす。滿州住民の購買力は此等雜穀の產出に賴れるものなり

小麥は主として平野の北部に產し、大豆は主として其南部に產す。小麥は哈爾賓、齊々哈爾等を以て中心市場となし多くは北方に出口を求め大豆は最寄々々の小市場より漸次出口を求めて、通江口、鐵嶺等に出て、終に營口に於て一部分は大

豆のまゝ又一部分は豆油豆粕となりて南清各地幷に本邦に輸出せらゝなり。

右は數十年以前より最近時に至る迄の慣行なり。然るに曩年東清鐵道の敷設、大連港建設以來、此等農產物輸出の關係より、營口大連の優劣論、遼河對鐵道の輸送力比較論は爾來今に至りて未だ解き得られざる宿題とはなり居れるなり。

第二　露國の經營時代と日本の經營時代との間には情勢根本的に相異れり

人の滿州經營、鐵道營業若くは大連、營口の優劣論を說くもの、皆露國經營時代の方法狀態を基礎とし、徒らに遼河對鐵道の輸送力及び費用の比較、大連營口の優劣若くは營口の今日迄持續し來れる商業上の隋力等の如き枝葉論に拘はりて論議し、研究するに止まり、未だ曾て一人として露國經營時代と本邦の經營時代との間に根本的に情勢の轉變相違せるものあるに氣付かざるが如し。迂遠にあらざれば短見なり。

露國の滿州經營は其の主義專ら政治的に在りて經濟的に在りしとは言はず。極東總督アレキーエフ氏が主力を旅順に傾注せるに際し、藏相ウイッテ氏は極力

滿洲輸出入貨物の關する輸送には些の管轄權なし

大連を經營し、庶幾くは以て東洋の一大通商港となし、大にしては歐亞交通の要港、然らざるも極東有數の港市となさんとするに意ありしは疑ふまでもなき事實なり、然れともウイッテ氏は滿洲の經濟的狀態及び通商上露國の滿洲に於ける地位を曉知し居らず僅に東淸鐵道の貫通、大連港市の建造、東淸鐵道附屬船の航行上海大連長崎浦鹽航行に由りて如上の目的を到達し得らるべしと思惟し居たるなり。迂遠の極みなり

露國は滿洲の產物を引取り、己れの手に於て之を處分し、又同地に需要せらるべき貨物を一手に供給し得る丈けの地位に立たず、滿洲の農產物は南淸各地及び日本に輸出せられ、又外來の洋貨綿糸、綿布、海產物、雜貨、石油、燐寸、砂糖)は上海幷に日本等より輸入せられ、露國は有力なる陸海運輸機關を有し乍ら此等貨物の輸出入に對して些の管轄權を有せざりしなり。輸出貨物は其最も利益なり便宜なりと認めたる徑路と港市に由りて外洋に出つべく、外來の洋貨も亦取引に便宜なる地點に於て陸揚せられ、且最も利便なる徑路に由りて內地に輸送せらるべきなり。

左れば長大なる東清鐵道線路も、巨額の費用を投して建造し得たる大連港も、若くは十數隻の東清鐵道附屬滊船も出入貨物の爲すが儘に任かせ徒らに手を拱きて之を傍觀するの外なく、區々人爲の術策を用ひて營口の繁盛を阻害せんとしたりしも、終に奏效なかりしなり。出入貨物は主にして、露國の運輸機關は從の從たりしものなり。貨物自體か其の最も利益とする地點と徑路に由りて出入するに對しては、露國は殆んど一指だも擧くる能はざりしなり

露國は滿洲輸出入貨物の輸送に關しては全く門外漢なりき

然るに之に反して東清鐵道、大連港の日本に移り滿洲の南半の我が勢圏に入るや、局勢の轉變甚た、大なるものあるなり日本は露國の第三者として徒らに傍觀の地位に立ちしに反し、自ら滿洲の貿易權を專占するを得べき運命と實力を有するなり。即ち滿洲產出の農產物は日本に於て一手に之を引受けて消費し處分し得べく、而して彼の需要する洋貨の全部は悉く日本より直接に若くは間接に供給して寸毫の澁滯を見ざるべきなり。從つて輸入貨物は輸入者の最も利益なり、便宜なりとする地點と徑路に由りて滿洲內地に輸入せらるべく、輸出貨物に就ても亦輸出者の爲に便宜利益なる徑路と地點に由りて輸出せらるべきなり。

日本は滿洲の貿易を專握せり

彼れ若し營口及び遼河に由るを便宜とせば、之に由りて揚卸し、之に由りて輸送せんのみ、若し又大連を以て便宜なりとせば則ち之に由るべきなり。即ち貨物の死活權を握れるものゝ擇ぶに任かすの一途あるのみなり。

貨物の輸出入方法と徑路と貨物の死活權を有するもの、任意なり

露國の滿洲經營時代に於ては滿洲は主位に在りて露國は客位に在り、而して日本の經營時代に於ては滿洲は主位に在るなり。從來の滿洲經營を說かんとせば、絕對に滿洲自體のみに就て之を論ずるを許さず、對日本の考慮に於て、對日本の關係に於て論せざるへからざるなり

從來の滿洲貿易は主として上海貿易なりき。今後の滿洲貿易は日本貿易なり

從來の滿洲貿易は、主として對上海貿易なりき。上海貿易時代に在りては、營口を以て出入口となすを利便となしゝならんも、日本貿易時代に移りたる今日以後に於ては其の日本に近く、陸卸船積に多くの利便を有する大連を以て出入口となすへきは理の睹易き所ならずや。

第三　營口の任務

營口の通商港として存在せる意義、營口の有する使命なるものは、遼河の水流に由りて滿洲奥地の農產物を引受け、同時に之に必須の需要品を供給するに在り、通江口、鐵嶺を中心市場とせる北滿農地との取引關係に在るなり、滿洲平野に生產する大豆其他の雜穀を遼河に由りて輸送し來り、仲繼して之を南清幷に日本に輸出し、同時に之か返り荷として各種の洋貨を遼河河盂幷に北滿洲地方に輸入するに在るなり、此の關係此の使命こそ實に營口を生みし所以のものにして營口の港市として存在の理由茲に在るなり、

滿州內地の農家にては其の產物を最寄〳〵の商人に賣込み、商人は之を通江口又は鐵嶺の問屋に轉送して必要なる洋貨と交換して原地に持ち還り、而して此等の問屋は更に水路遼河に由りて之を營口に輸送し同地に於て奥地の必用品と交換して歸還し、遞次現物交換を行ひ居れるなり、故に內地の農家と營口等の問屋との間には殆んど現金を動かさず、又左したる不便なくして土產と洋貨との現物交換を行ひ來りたるものなり、營口の滿洲內地と繫れる連鎖は即ち之あ

るか爲なり、唯た單に之あるが爲なるなり、

故に若し他に營口に立ち勝りて此種の使命任務を遂け得るものあらば、滿洲奥地の住民は必しも數百哩を隔て、往復數十日の日子を要する遠地を對手として何時〳〵までも從來の取引關係を持續せんとするものにあらざるなり、營口以外別に例へば鐵道線路に沿ふて第二第三の營口が長春、公主嶺、鐵嶺等に於て現出するに至らば、必しも營口と取引を繼續するの要なきなり、滿洲貿易に志ある者の鐵道經營に關係するものゝ先つ第一に見るべきは此の點に在るなり、此の時に當りて徒らに煩瑣なる枝葉論に泥して遼河對鐵道、營口對大連の優劣論を鬪はすが如きは迂遠の至りたるなり、

遼河の航運力に對する鐵道の輸送力及費用に關して茲に多くの論議を悉くすの餘裕と必要を有せす要は唯た後者に於て十分前者に打勝ち得へき實力と情勢とを有するものなるを斷定し置けは足れり、

第四　營口の現狀

遼河の現狀の弱點(其一)

遼河ありての營口なり

左れど說きて是に至れば營口と遼河の關係及び遼河の現狀を記述し置くの要あり、營口の開港地としての生命は遼河あるが爲めなり、若し遼河にして僅りせば營口は單に馬車便二三日程の近距離に點在せる附近都邑の小中心市場たるに止まるへきなり、冬季遼河の結氷中營口の狀態を一見すれば思半に過くるものあるなり、冬季中多數の荷馬車の營口に來往するを見て、往々其の鐵嶺、吉林等の遠距離より來るもの認むるものあり、誤れるものなり、彼等は皆奉天遼陽海城蓋平岫巖地方間に來往するものにして、此の以上の遠距離に出入するに非らず、營口の死命を托せる遼河及其の支流は最近數年以來著しく其の航運力を減退し、此際少くも數百萬兩の費用を投して適當なる浚渫を實行するに非らざれば到底永く航運力を持續する能はざることゝなり居れり。

遼河の淤塞極めて甚だす

河身游塞の原因

河道淤塞の重なる原因は輓近滿洲各地に於ける土工の引續き極めて甚大なりしに在るなり、東淸鐵道線路の敷設、露國兵營の建造、此等に附屬する各種の設備道路の築造及び日露戰役間に於ける兩國軍の施せる各種の工事等の土工の爲めに、最近數年間に於て殆んど全滿洲の地皮は甚大なる破傷を被り、其の未た每

河道淤塞の實例一

に癒着せざるに當りて、之に向つて降射せる豪雨の爲に破傷の面積を增倍し、雨水を湛え、直に溶解して潴潦となり、濁流となりて最寄〳〵の細流に入り、小川に入り支流に入り、遂に遼河の本流に入るに至りしを以て、遼河本支流の河床は最近數年間に於て極めて著しき泥沙の淤積を實現するに至りしなり、蓋し滿洲の雨季は六七八九月に亘れるものにして、其の降るや、本邦の春雨五月雨の如き霏々として降るにあらず、所謂盆を覆へし車軸を流すか如き豪雨にして、往々二三晝夜を通して止まざるを常とするものなれば卒然降雨の爲に地皮を溶解して終に大河流の水路を游塞すと言はゝ、人或は其の牽强なるを疑はんも、實際に於ては想像以上の結果を來したるものにして、遼河本支流に河洲を加へ、淺瀨を作り、更に河道を迂曲し、舟行を難むること甚だしきものなり。

遼河本流にては三四年前迄は大手船迄航行し得たりしも、爾來河道游塞して通せず、止むなく大手船は鐵嶺(馬蜂溝)止となし、同地にて小手船五十石積、吃水三尺)に積替ふるの已むなきに至れるなり、通江口、鐵嶺間は本來水上二十五浬に過ぎざるも實際の航程は目下五十浬以上となり、兩地間の航行は

順風二日程の處、河洲迂曲を要する箇所を増加せる結果、今は一週日以上を要するに至れり

奉天附近を流るゝ渾河、遼陽附近を流るゝ、太子河の如きも、皆亦共に其の河道を埋め、舟楫を通ずるは雨季水嵩高き季節に限られ、現に三叉河(太子河、渾河は共に合して三叉河に於て遼河に合流す)の奥(馬圈子)には平時は小手船たも通航すること能はざるなり。

奉天着發の貨物は渾河に由り長灘(之より奉天に陸送四里)を以て積卸地となし來りしも、今日にては渾河線を使用する能はざるか爲め、遼河の本流に由り、高力屯(之より陸送十里)を以て貨物を揚卸地とはなり居るなり。

第五　營口の弱點(其二)

港灣の不完備

加之港地としての營口は左の要點に於て大連に劣れり。

第一、大連港の海水深く灣入して自然の良港を形成せるに反し、營口は遼河の河口より十數哩の上流に在り、河口泥沙淤積して深吃水の船舶は航行不可

能なること

第二、滿潮時にあらざれば外洋航行(オーシャンゴーイング)の船舶は入港すること能はず、而して夜間は航行危險なるを以て、船舶の入出港を許さゞるが故に、實際の入出港は一日一回に限らるゝ譯合なること

第三、大連の碼頭設備の完備して十數隻の大汽船の同時に棧橋に横付けし得らるゝに反し、營口にては全く碼頭の設備之なきこと

第四、營口にては冬期四ケ月間結氷流氷の爲に船舶の航行不可能なるも、大連にては全く此の虞なきこと

今日本本位より見て兩港の孰れを採るべきやを考ふるに、營口は大連に比して航程一日强の遠距離に在り、加之潮時待合せ、夜間の入出港不可能なるが爲め、更に一日の猶豫を見込み、又積込積卸の爲め少くも半日の遲滯を覺悟し置かざるべからず、大連に比して即ち往復合計五日間の遲延を計上するを要するなり。一千屯の汽船一日の費用二百圓とすれば、五日間にて一千圓即ち積荷一屯に付き一圓の高直となるべき譯合なり。